

平成29年度 食育に関する調査結果報告書



平成 30 年 3 月
広島市食育推進会議

目 次

I	調査の概要	
1	調査目的	1
2	調査設計	1
3	調査項目	1
4	回収結果	1
5	分析方法	1
6	調査結果の表示方法	1
II	回答者の属性	
1	性別	2
2	年代別	2
3	就業等状況別	2
4	世帯構成別	3
III	調査結果 ※広島市食育推進計画に掲げている項目のみ、目標値を表記	
1	「朝食」について	4
(1)	朝食の摂取状況	4
(2)	朝食の内容	8
(3)	朝食の準備方法	16
2	食品表示・食品衛生について	19
(1)	食品表示の確認	19
(2)	衛生に関する実践度	21
(3)	食の安全性等に関して今後充実してほしい情報提供の方法	24
3	わ食について	28
(1)	「わ食」の実践度	28
(2)	「わ食の日」の認知度	35
4	よくかんで味わって食べることについて	38
(1)	よくかんで味わって食べる食生活の実践度	38
(2)	よくかんで味わって食べるために必要だと思うこと	41
(3)	「嚙ミング30運動」の認知度	45
5	健全な食生活の実践について	47
(1)	「健全な食生活」の実践度	47
(2)	ふだんの食生活で心がけていること	50
IV	調査票	55

I 調査の概要

1 調査目的

平成 28 年度から推進する第 3 次広島市食育推進計画の進捗状況を把握するための調査を行い、事業効果や食育に関する市民の意識等を把握し、後半期の推進のための基礎資料とする。

2 調査設計

- (1) 調査対象 平成 29 年（2017 年）7 月 31 日現在広島市に在住する満 15 歳以上の男女
- (2) 標本数 3,640 人
- (3) 抽出方法 広島市住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法 無記名式質問紙法による郵送調査
- (5) 調査期間 平成 29 年（2017 年）10 月 23 日（月）～11 月 10 日（月）

3 調査項目

- (1) 朝食（摂取状況、内容、準備方法）について
- (2) 食品表示・食品衛生について
- (3) わ食（和食・輪食・環食）について
- (4) よくかんで味わって食べることについて
- (5) 健全な食生活の実践について

4 回収結果

回収数 2,061 人（回収率 56.6%）

有効回収数 2,039 人（有効回収率 56.0%）

* 性・年齢未記入の回答は無効回答として処理

性別	年齢区分	標本数	有効回収数	有効回収率(%)	性別	年齢区分	標本数	有効回収数	有効回収率(%)
男 性	15～19歳	140	59	42.1	女 性	15～19歳	140	77	55.0
	20～24歳	140	45	32.1		20～24歳	140	60	42.9
	25～29歳	140	27	19.3		25～29歳	140	71	50.7
	30～34歳	140	54	38.6		30～34歳	140	83	59.3
	35～39歳	140	50	35.7		35～39歳	140	83	59.3
	40～44歳	140	51	36.4		40～44歳	140	94	67.1
	45～49歳	140	59	42.1		45～49歳	140	92	65.7
	50～54歳	140	70	50.0		50～54歳	140	98	70.0
	55～59歳	140	64	45.7		55～59歳	140	106	75.7
	60～64歳	140	90	64.3		60～64歳	140	98	70.0
	65～69歳	140	96	68.6		65～69歳	140	109	77.9
	70～74歳	140	93	66.4		70～74歳	140	120	85.7
	75歳以上	140	95	67.9		75歳以上	140	95	67.9
小計	1,820	853	46.9	小計	1,820	1,186	65.2		

5 分析方法

調査結果の数値は、広島市の性・年齢別人口（平成 29 年 7 月 31 日現在）に応じて補正を行った。

6 調査結果の表示方法

- (1) 集計結果の割合(%)は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答が可能な設問は、全ての割合の合計が 100%にならない場合がある。

Ⅱ 回答者の属性

1 性別

区分	件数(人)	割合(%)
全体	2,039	100.0
男性	853	41.8
女性	1,186	58.2

2 年代別

区分	全体		男性		女性	
	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)
全体	2,039	100.0	853	100.0	1,186	100.0
15～19歳	136	6.7	59	6.9	77	6.5
20歳代	203	10.0	72	8.4	131	11.0
30歳代	270	13.2	104	12.2	166	14.0
40歳代	296	14.5	110	12.9	186	15.7
50歳代	338	16.6	134	15.7	204	17.2
60歳代	393	19.3	186	21.8	207	17.5
70歳以上	403	19.8	188	22.0	215	18.1

3 就業等状況別

区分	全体		勤労者		家事従事者		学生(中学生・高校生)		学生(大学生・短大生・専門学校生)		その他		無回答	
	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)
全体	2,039	100.0	1,131	55.5	396	19.4	85	4.2	94	4.6	288	14.1	45	2.2

区分	全体		勤労者		家事従事者		学生(中学生・高校生)		学生(大学生・短大生・専門学校生)		その他		無回答		
	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	件数(人)	割合(%)	
全体	2,039	100.0	1,131	100.0	396	100.0	85	100.0	94	100.0	288	100.0	45	100.0	
性別	男性	853	41.8	549	48.5	16	4.0	35	41.2	41	43.6	194	67.4	18	40.0
	女性	1,186	58.2	582	51.9	380	96.0	50	58.8	53	56.4	94	32.6	27	60.0
年齢別	15～19歳	136	6.7	6	0.5	-	-	85	100.0	44	46.8	1	0.3	-	-
	20歳代	203	10.0	124	11.0	22	5.6	-	-	49	52.1	8	2.8	-	-
	30歳代	270	13.2	213	18.8	41	10.4	-	-	1	1.1	13	4.5	2	4.4
	40歳代	296	14.5	241	21.3	44	11.1	-	-	-	-	11	3.8	-	-
	50歳代	338	16.6	269	23.8	53	13.4	-	-	-	-	14	4.9	2	4.4
	60歳代	393	19.3	207	18.3	110	27.8	-	-	-	-	72	25.0	4	8.9
	70歳以上	403	19.8	71	6.3	126	31.8	-	-	-	-	169	58.7	37	82.2

4 世帯構成別

区分	全体		一人暮らし		夫婦のみの世帯		18歳未満の子どもがいる二世帯世帯		18歳未満の子どもがいる三世帯以上世帯		その他		無回答	
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)
全体	2,039	100.0	300	14.7	516	25.3	478	23.4	103	5.1	633	31.0	9	0.4

区分	全体		一人暮らし		夫婦のみの世帯		18歳未満の子どもがいる二世帯世帯		18歳未満の子どもがいる三世帯以上世帯		その他		無回答		
	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	件数 (人)	割合 (%)	
全体	2,039	100.0	300	100.0	516	100.0	478	100.0	103	100.0	633	100.0	9	100.0	
性別	男性	853	41.8	124	41.3	259	50.2	177	37.0	39	37.9	250	39.5	4	44.4
	女性	1,186	58.2	176	58.7	257	49.8	301	63.0	64	62.1	383	60.5	5	55.6
年齢別	15～19歳	136	6.7	16	5.3	3	0.6	68	14.2	15	14.6	33	5.2	1	11.1
	20歳代	203	10.0	47	15.7	14	2.7	35	7.3	-	-	107	16.9	-	-
	30歳代	270	13.2	33	11.0	27	5.2	143	29.9	14	13.6	53	8.4	-	-
	40歳代	296	14.5	30	10.0	32	6.2	166	34.7	17	16.5	51	8.1	-	-
	50歳代	338	16.6	36	12.0	84	16.3	50	10.5	10	9.7	157	24.8	1	11.1
	60歳代	393	19.3	53	17.7	175	33.9	6	1.3	26	25.2	131	20.7	2	22.2
	70歳以上	403	19.8	85	28.3	181	35.1	10	2.1	21	20.4	101	16.0	5	55.6

※区分方法

区分	内容	
一人暮らし	一人暮らし	
夫婦のみの世帯	配偶者のみと同居	
18歳未満の子どもがいる二世帯世帯	本人が15～17歳の場合	親と同居（同居家族に祖父母なし） 子どもと同居（同居家族に親・祖父母なし）
	本人が18歳以上の場合	子ども（18歳未満）と同居（同居家族に親・祖父母なし） 孫（18歳未満）と同居（同居家族に子どもなし）
18歳未満の子どもがいる三世帯以上世帯	本人が15～17歳の場合	親及び祖父母と同居（子ども同居も含む）
	本人が18歳以上の場合	子ども（18歳未満）及び親と同居（祖父母同居も含む） 孫（18歳未満）及び子どもと同居（親同居も含む）
その他	上記に該当しない世帯	

Ⅲ 調査結果

調査結果の数値は、広島市の性・年齢別人口（平成 29 年 7 月 31 日現在）に応じて補正を行った数値である。

1 「朝食」について

(1) 朝食の摂取状況

指 標：朝食を食べることが習慣になっている人の割合
目標数値：20 歳代男性…85%以上、30 歳代男性…85%以上
平成 27 年度数値：20 歳代男性…76.5%、30 歳代男性…62.5%

「朝食を食べている」（「ほとんど毎日食べる」「週に 4～5 日食べる」の合計）の回答割合は次のとおり。

【全体】 86.8%

【性・年齢別】 男性(84.3%)が女性(89.1%)に比べて 4.8 ポイント低い。最も低いのは女性 20 歳代(70.5%)である。男性は 30 歳代(73.0%)が最も低い。

【就業等状況別】 学生（大学生・短大生・専門学校生）（74.9%）が最も低い。

【世帯構成別】 一人暮らし(80.1%)が最も低い。

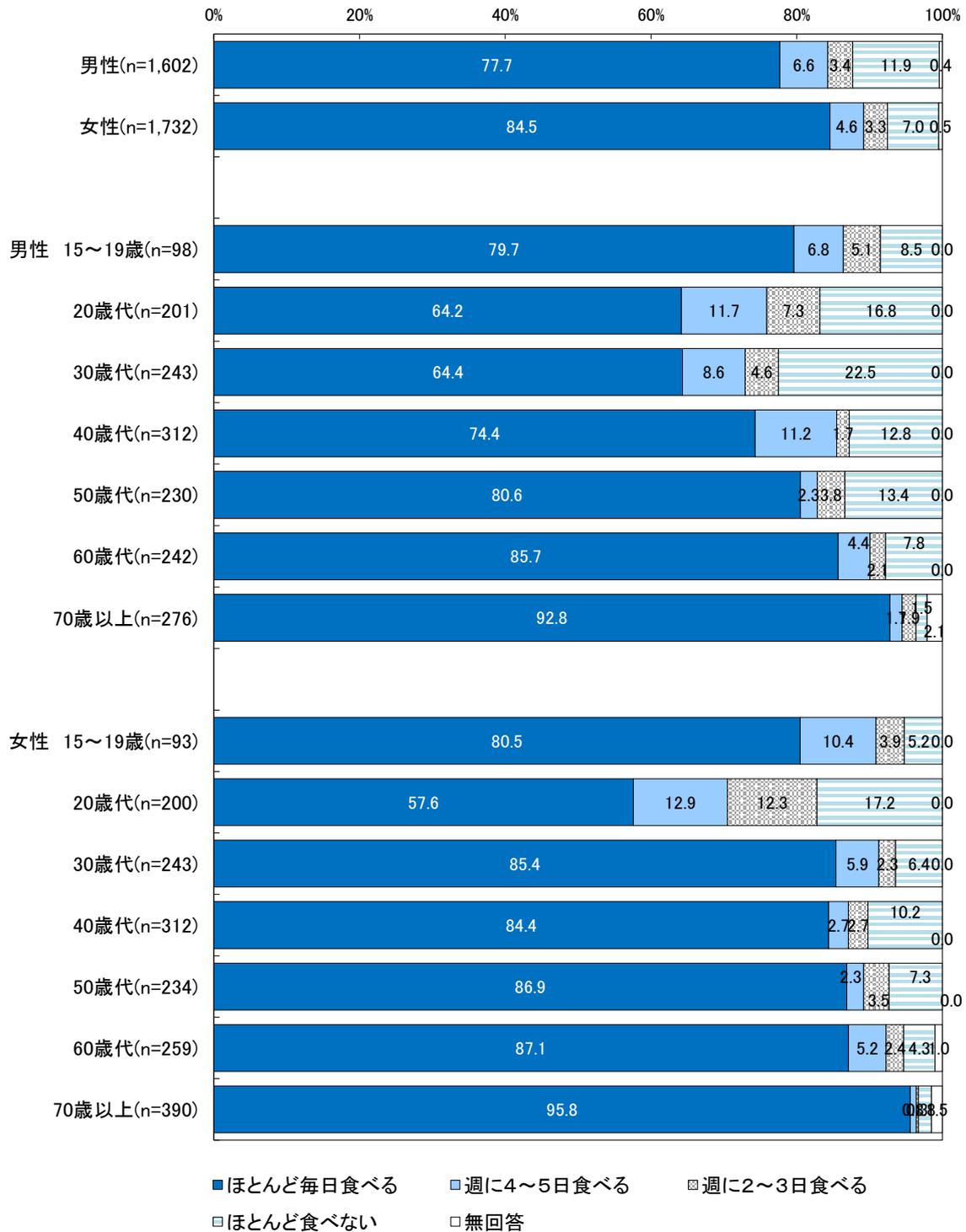
【調査年度別】 大きな変化はみられない。

【20 歳代男性と 30 歳代男性】 20 歳代 75.9%、30 歳代 73.0%

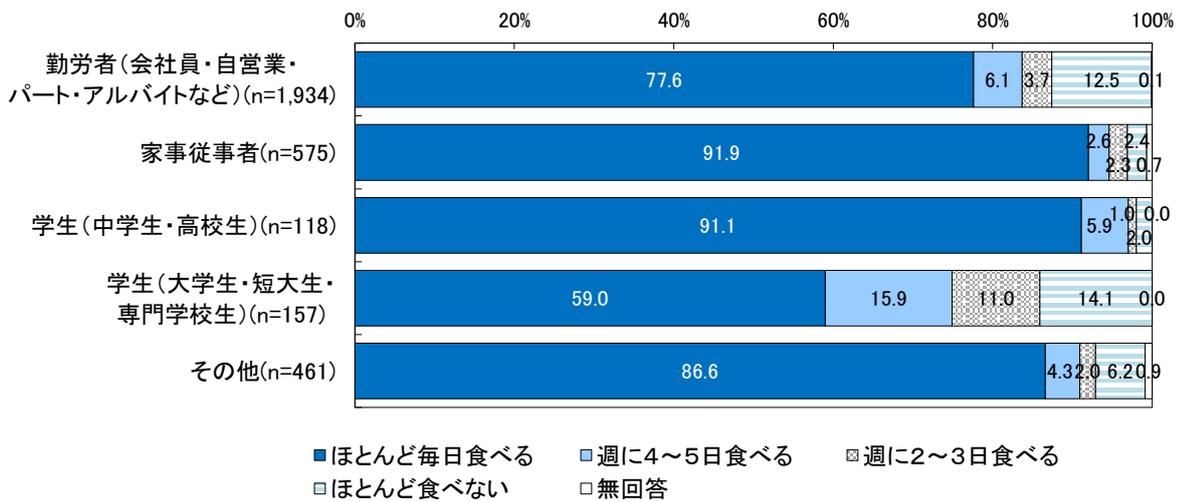
年度別比較では、20 歳代は前回調査値（76.5%）と大きな違いはなく、30 歳代は前回調査値（62.5%）に比べて 9.5 ポイント高い。



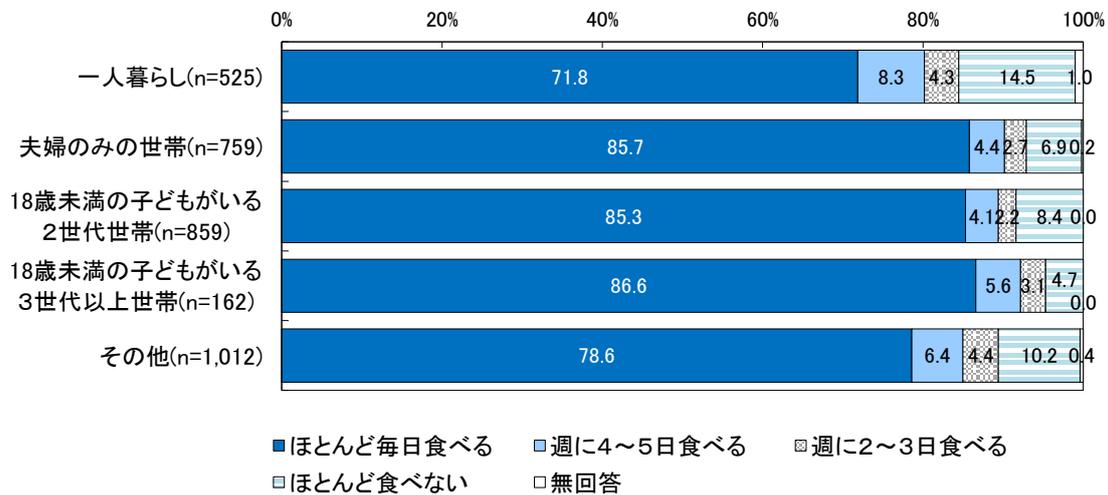
【朝食の摂取状況（全体）】



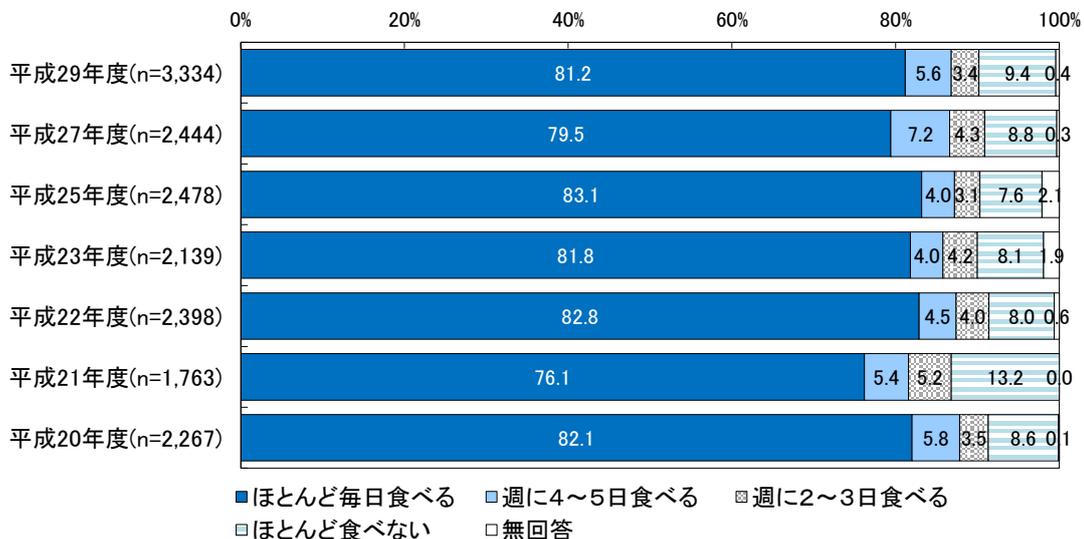
【朝食の摂取状況（性/性・年齢別）】



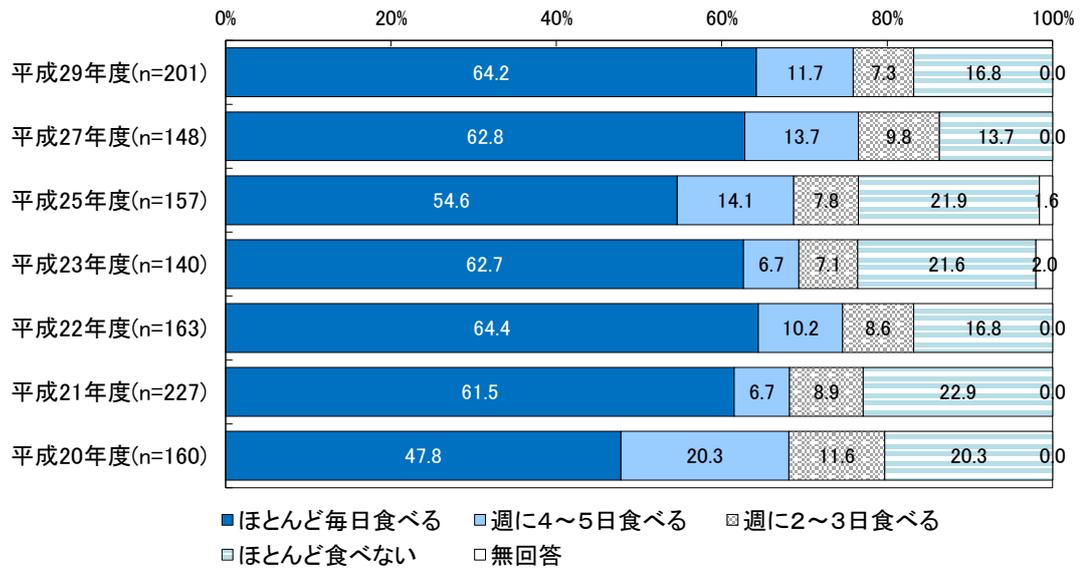
【朝食の摂取状況（就業等状況別）】



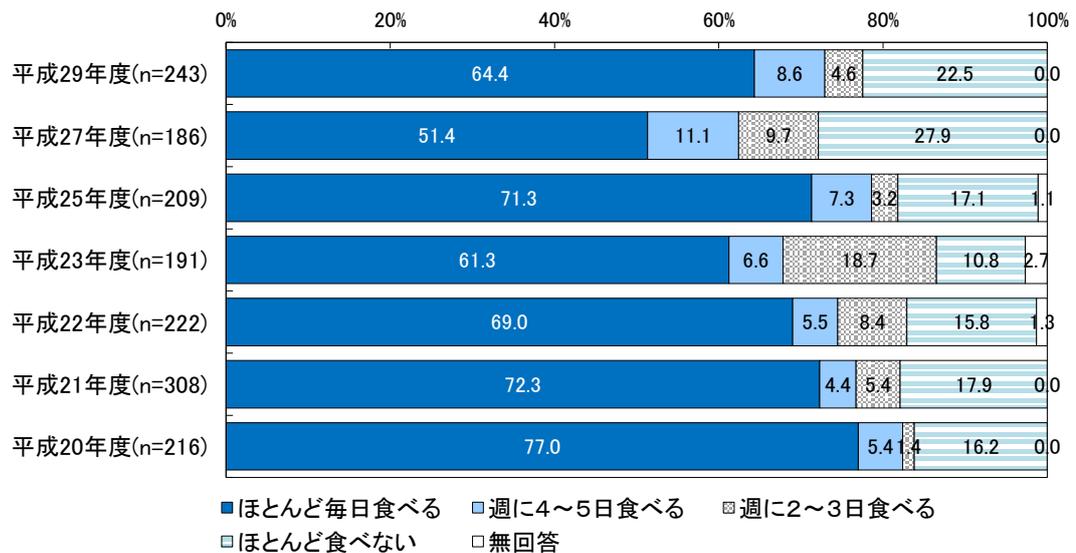
【朝食の摂取状況（世帯構成別）】



【朝食の摂取状況（全体・調査年度別）】



【朝食の摂取状況（20歳代男性・調査年度別）】



【朝食の摂取状況（30歳代男性・調査年度別）】

(2) 朝食の内容

朝食を食べていると回答した者にその内容を尋ねた結果は次のとおり。

【全体】「パン」(59.6%)の回答割合が最も高い。回答割合が3割を超えるのは、「牛乳・乳製品(ヨーグルト・チーズ)」(47.3%)、「ごはん(おにぎりを含む)」(38.3%)、「果物」(32.5%)、「野菜を使ったおかず」(32.3%)である。

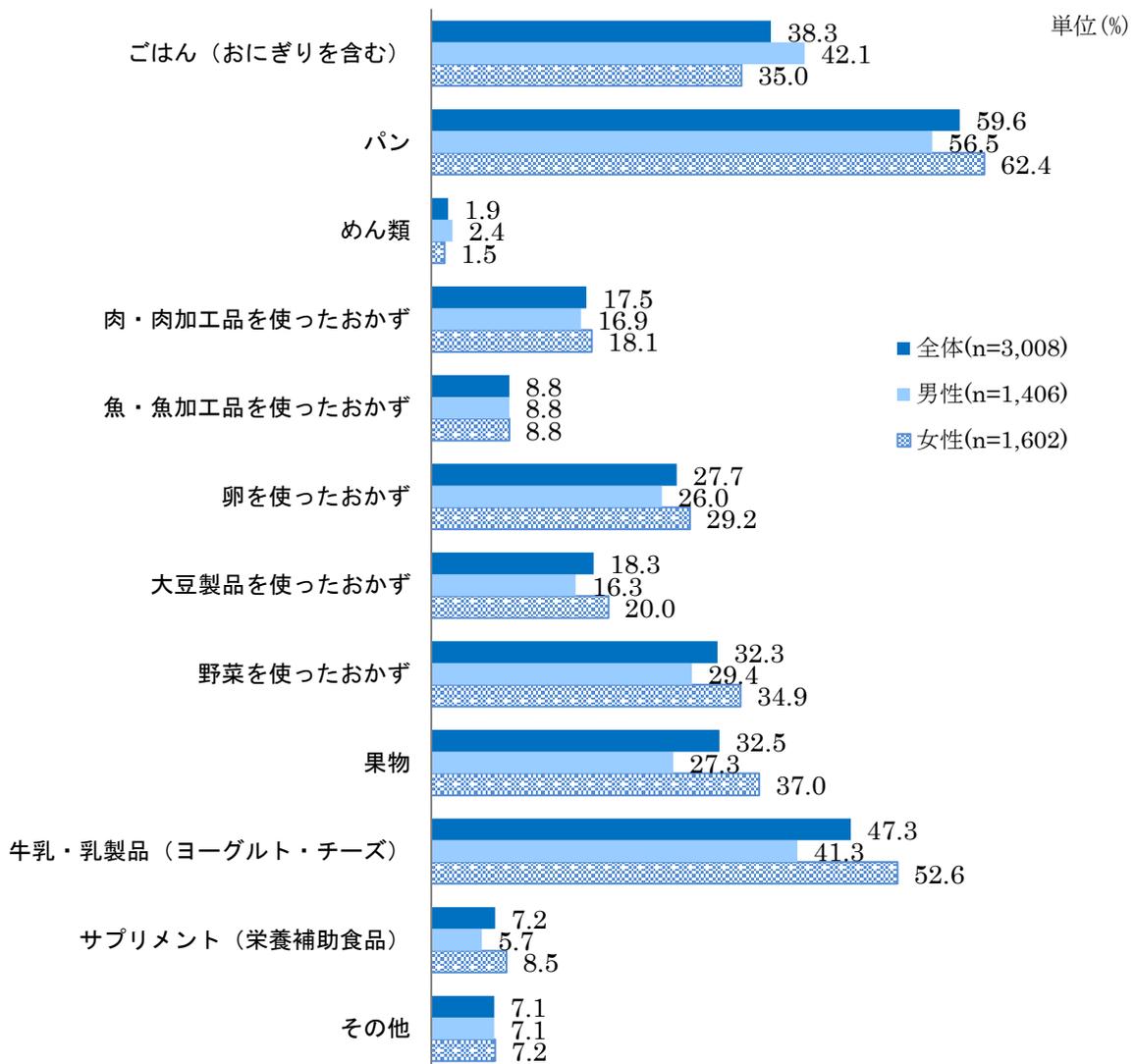
【性別】「ごはん(おにぎりを含む)」以外は、男性が女性に比べて回答割合が低い。特に、「牛乳・乳製品(ヨーグルト・チーズ)」(男性41.3%、女性52.6%)、「果物」(男性27.3%、女性37.0%)の回答割合は、男性が女性に比べて約10ポイント下回っている。

【性・年齢別】サプリメント(栄養補助食品)は、女性の50歳代以上で1割以上の回答割合であり、他に比べて高い。

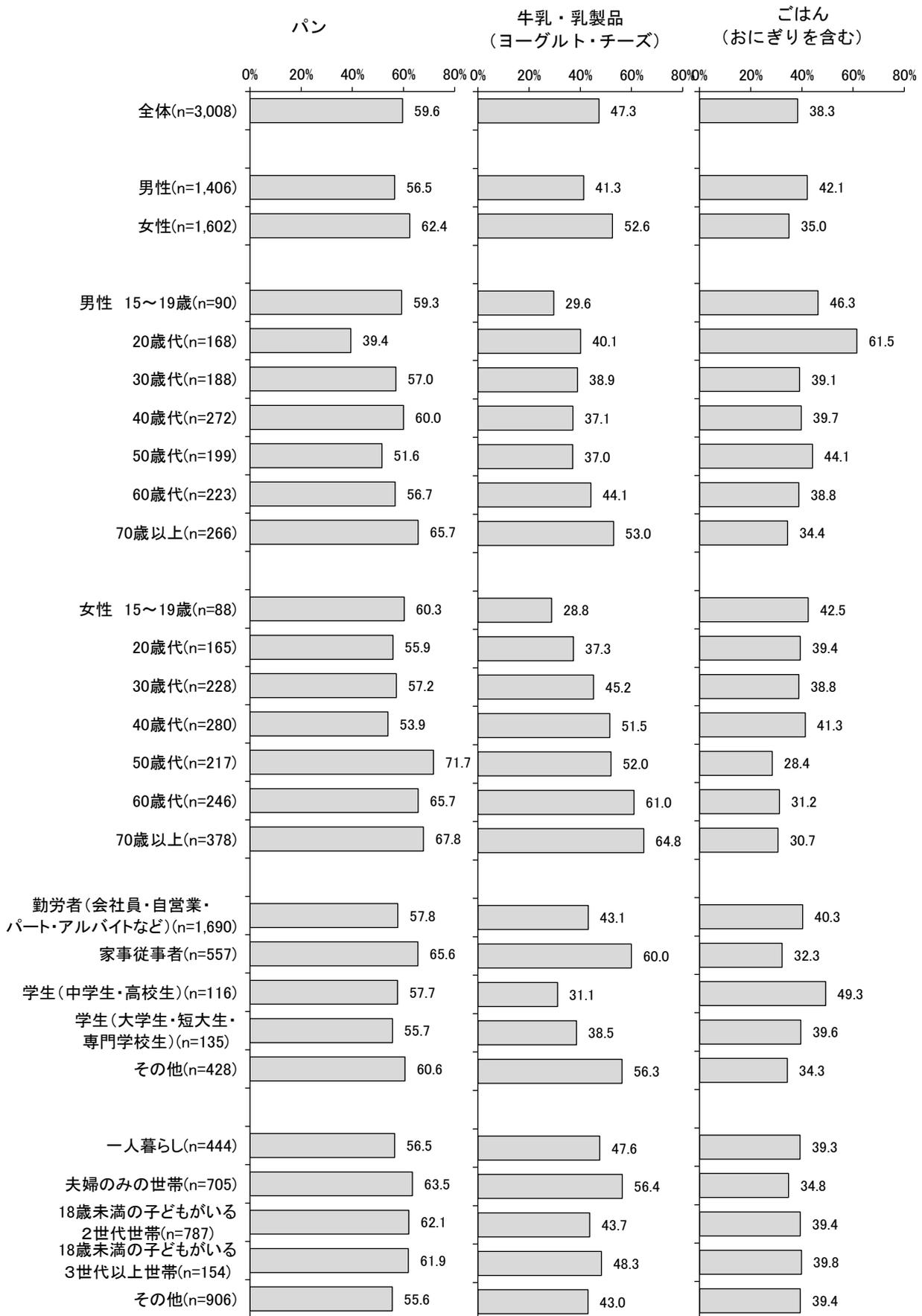
主菜(卵・大豆製品・肉・豆を使ったおかず)、副菜(野菜を使ったおかず)の回答割合は男女とも15~40歳代が50歳代以降に比べておおむね低い。

【就業等状況別】家事従事者が「ごはん(おにぎりを含む)」「肉・肉加工品を使ったおかず」「めん類」以外の項目において回答割合が最も高い。

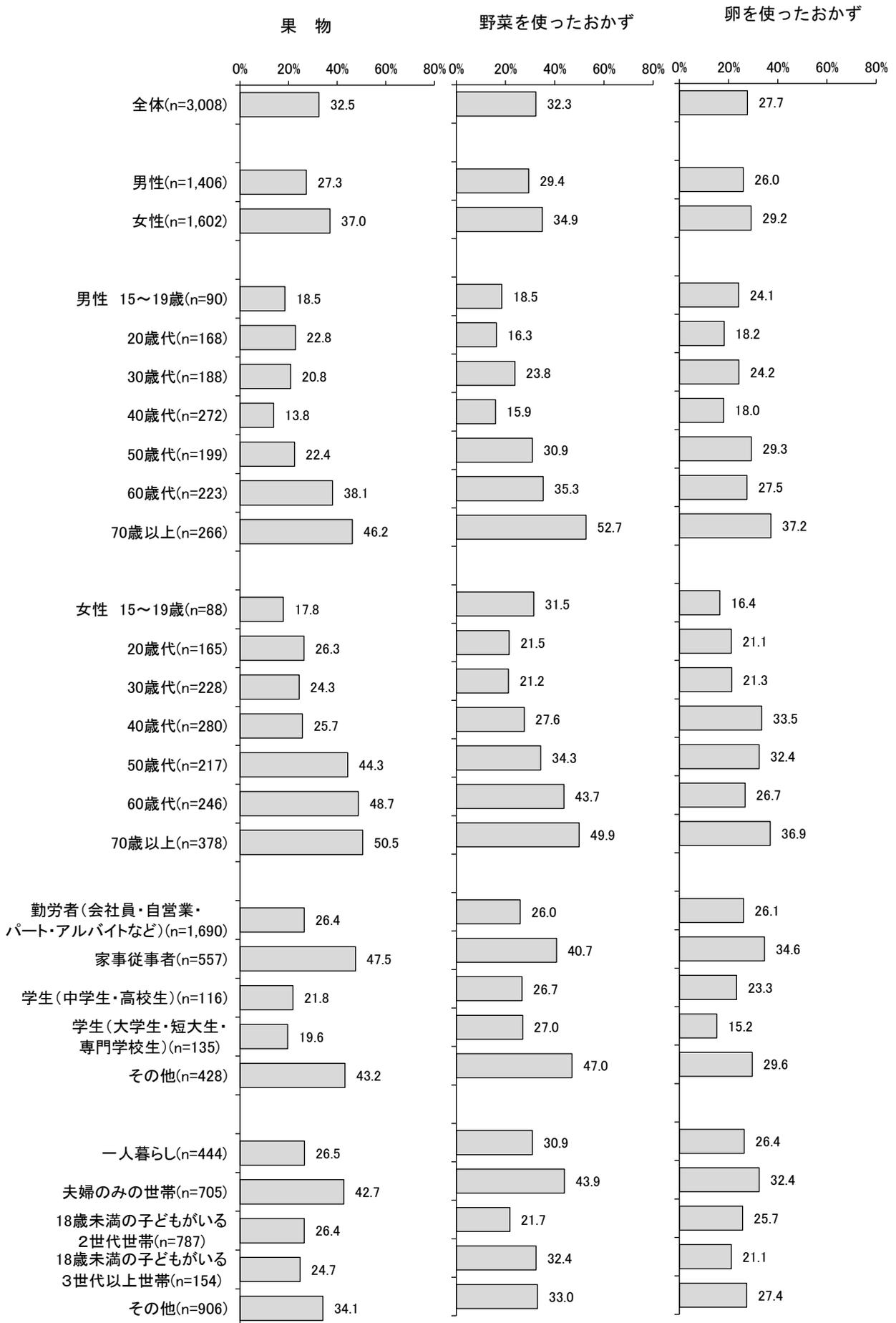
【世帯構成別】夫婦のみの世帯が「ごはん(おにぎりを含む)」「サプリメント」「めん類」以外の項目において回答割合が他の世帯に比べて高い。18歳未満の子どもがいる二世帯世帯で「野菜を使ったおかず」の回答割合が最も低い。



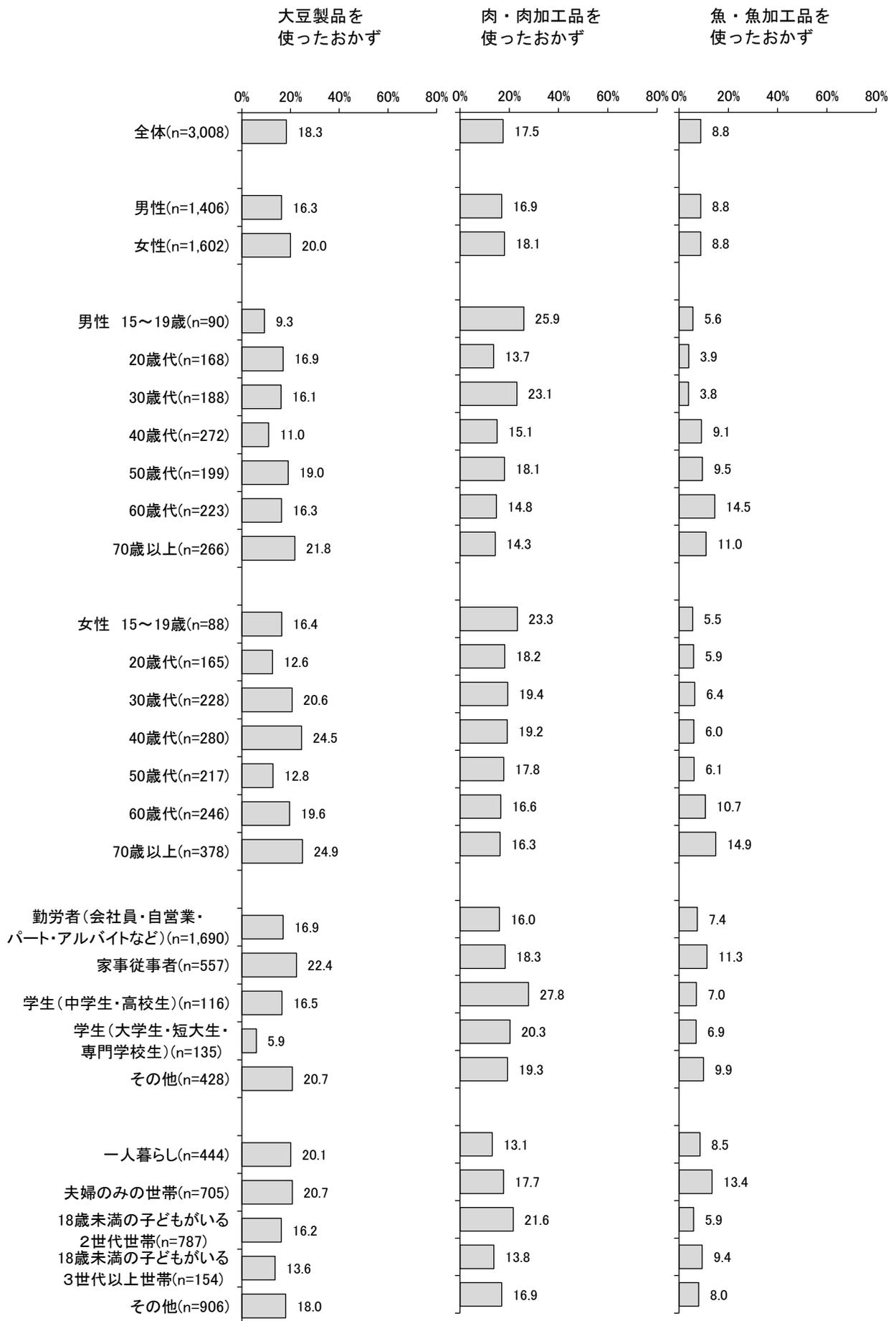
※回答割合が高い食品順に記載



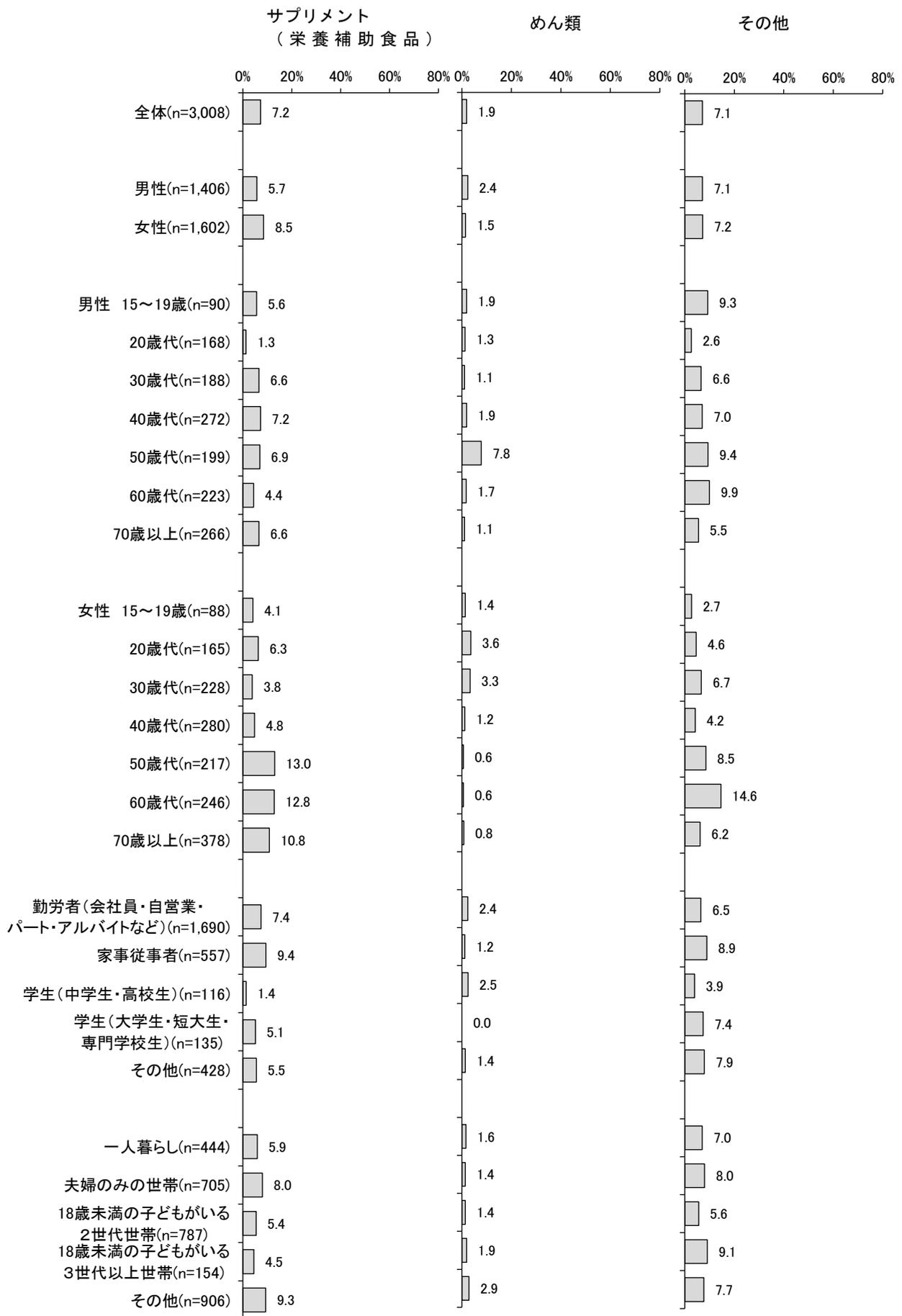
【朝食の内容 (全体, 性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別)】



【朝食の内容（全体、性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】



【朝食の内容（全体、性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】



【朝食の内容（全体，性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】

朝食の組み合わせについて、「『主食+赤色の食べ物+緑色の食べ物』をそろえて食べている者」の割合は次のとおり。

【全体】 43.3%

【性・年齢別】 男性(38.3%)が女性(47.7%)に比べて 9.4 ポイント低く、40 歳代男性(22.2%)が最も低い。また、「主食のみ」を食べている者の割合は、男性 15~40 歳代、女性 15~20 歳代で 3 割を超えて高い。

【就業等状況別】 家事従事者(58.1%)、その他(58.9%)が高く、学生(大学生・短大生・専門学校生)(30.3%)が最も低い。

【世帯構成別】 夫婦のみの世帯(56.8%)が最も高く、18 歳未満の子どもがいる二世帯世帯(36.2%)が最も低い。

【調査年度別】 大きな変化はみられない。

【朝食の準備方法別】 「主に購入したものを食べる」(23.8%)で最も低い。

【和食の実践度別】 3つのわ食のうち和食*1を「実践している」(49.3%)者の方が「実践していない」(21.7%)者に比べて高い。

【わ食の日*2の認知度別】 わ食の日の「言葉も内容も知っていた」(51.7%)が最も高く、「言葉は知っていたが、内容は知らなかった」(44.2%)、「言葉も内容も知らなかった」(41.6%)の順に低下する。

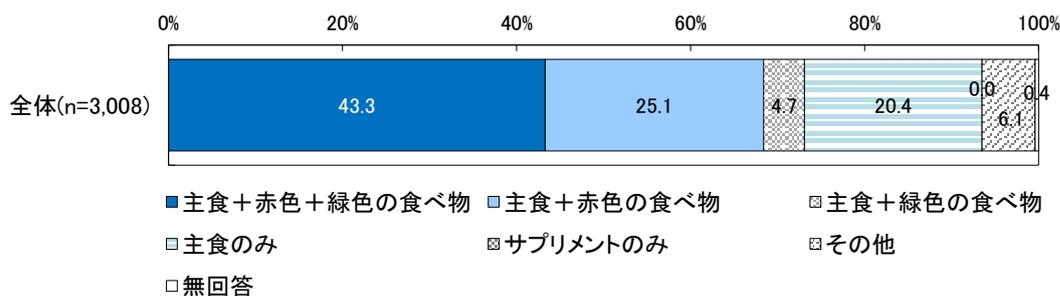
【ふだんの食生活で心がけていること】 「栄養バランスに気をつける」と回答した者の回答割合は 51.5%と全体の値(43.3%)を上回って高い。

* 1 和食 P28 参照

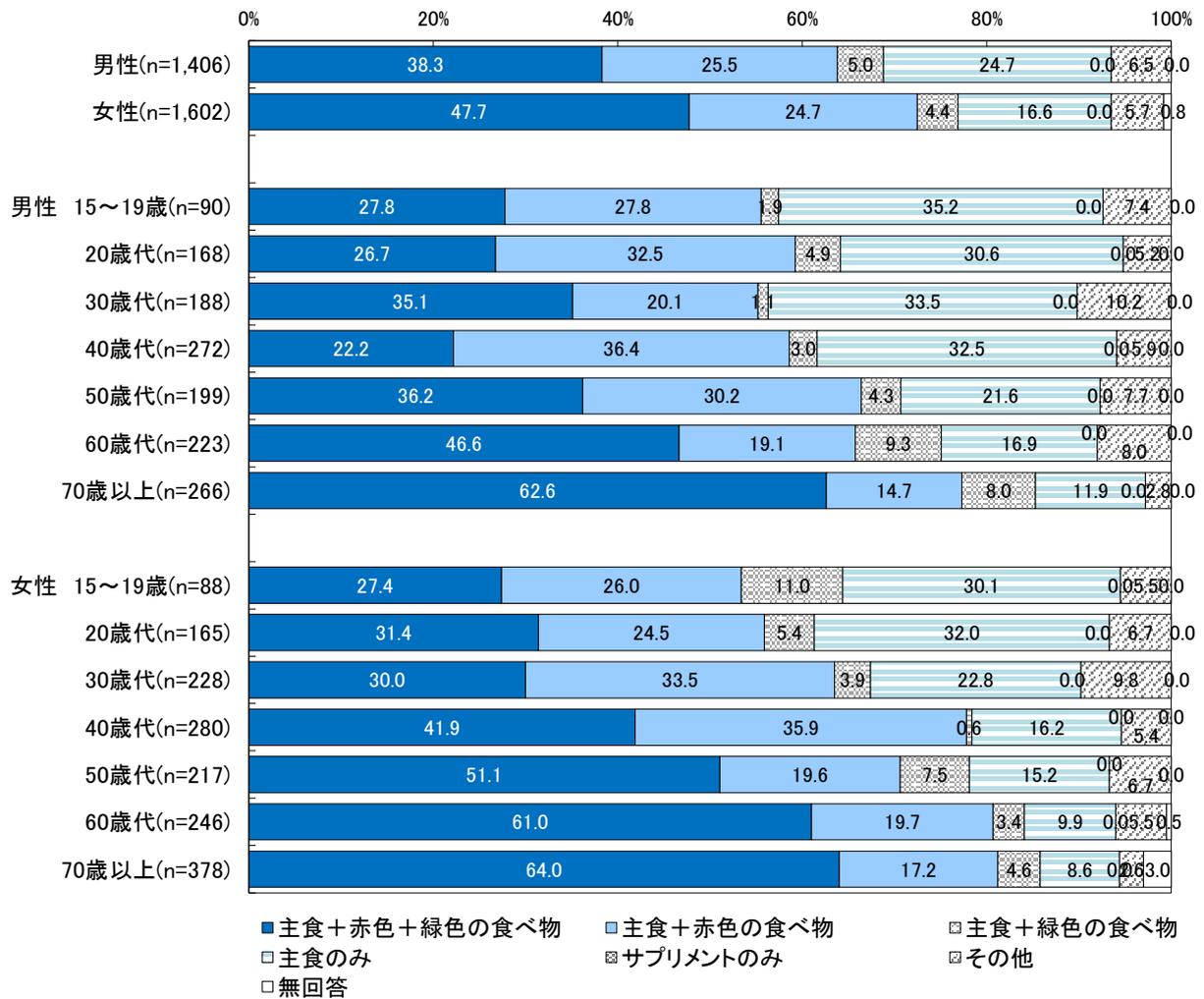
* 2 わ食の日 P35 参照

※分類方法

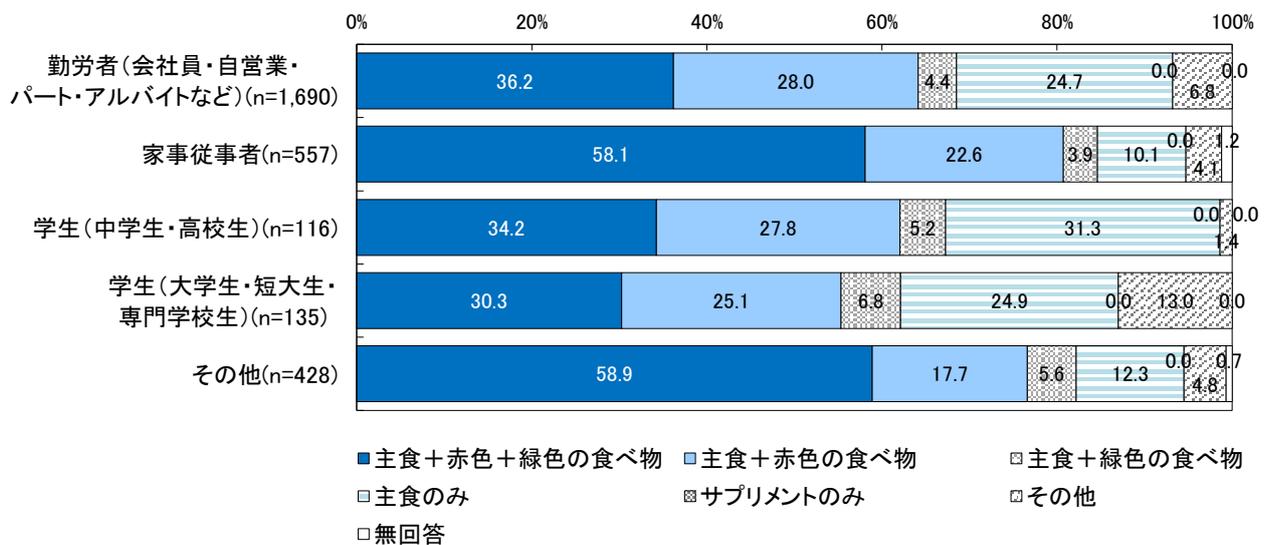
分類	朝食の内容	
主食	・ごはん(おにぎりを含む)	・パン
赤色の食べ物	・肉・魚・卵・大豆製品を使ったおかず	・牛乳・乳製品(ヨーグルト、チーズ)
緑色の食べ物	・野菜を使ったおかず	・果物



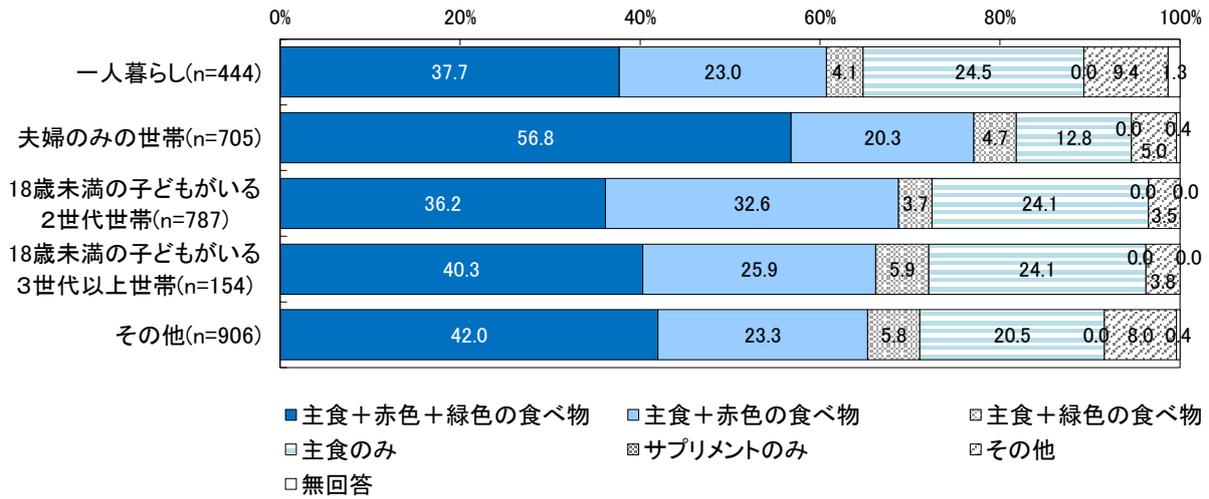
【朝食の内容（組み合わせ）（全体）】



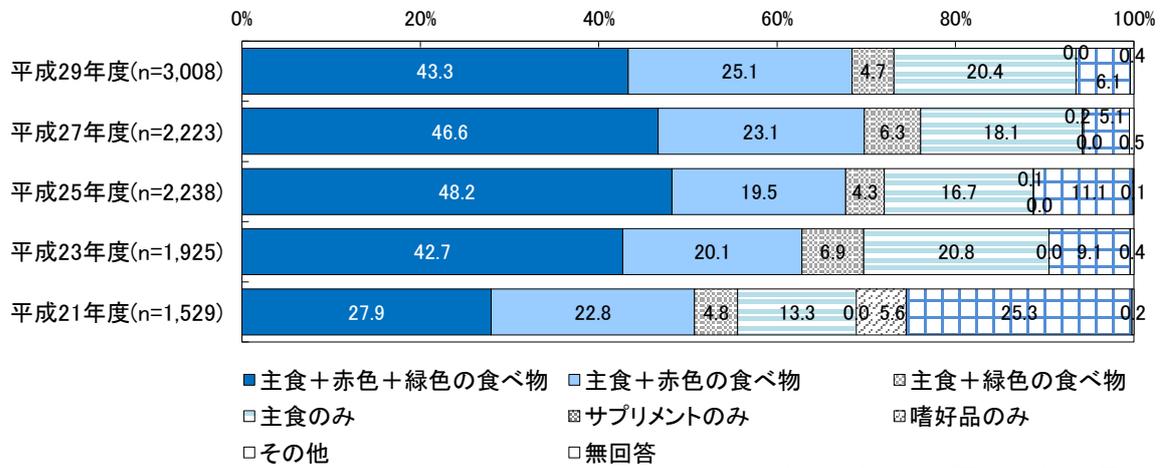
【朝食の内容（組み合わせ）（性/性・年齢別）】



【朝食の内容（組み合わせ）（就業等状況別）】

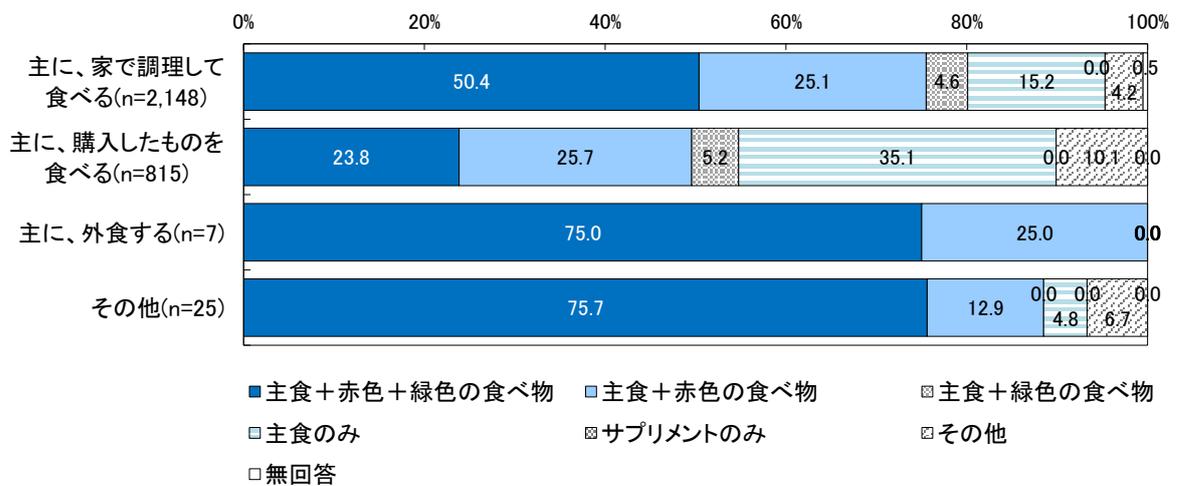


【朝食の内容（組み合わせ）（世帯構成別）】

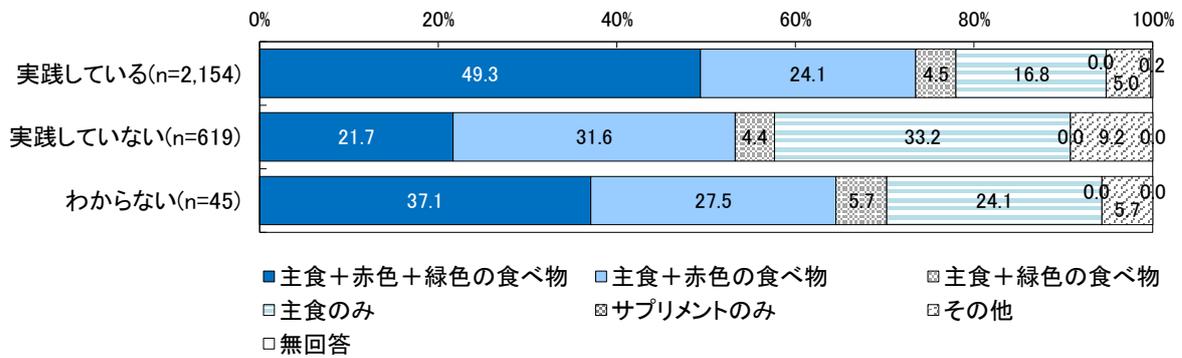


*平成21年度は設問内容が若干異なる。

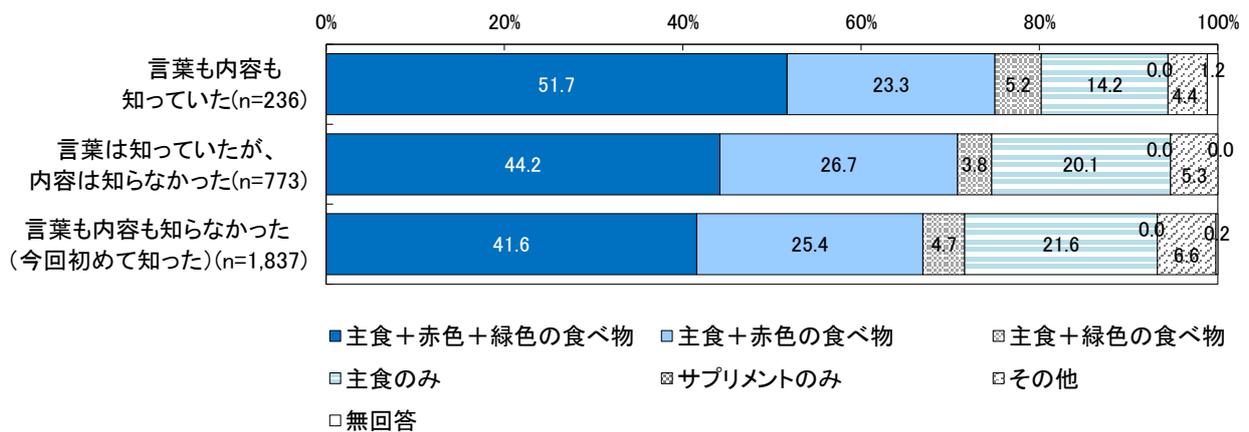
【朝食の内容（組み合わせ）（調査年度別）】



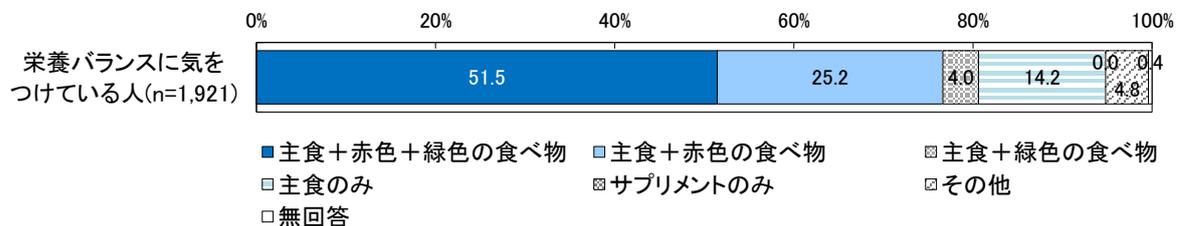
【朝食の内容（組み合わせ）（朝食の準備方法別）】



【朝食の内容（組み合わせ）（和食の実践度別）】



【朝食の内容（組み合わせ）（わ食の日の認知度別）】



【朝食の内容（組み合わせ）

（ふだんの食生活で心がけていること：栄養バランスに気をつける）】

(3) 朝食の準備方法

朝食の準備方法について「主に家で調理する」の回答割合は次のとおり。

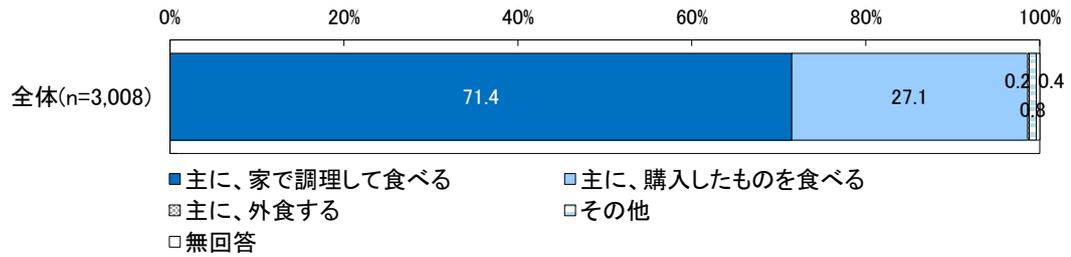
【全体】 71.4%

【性・年齢別】 男性（68.0%）が女性（74.4%）に比べて低い。男性は30歳代（54.1%）、女性は15～19歳（57.5%）で最も低い。

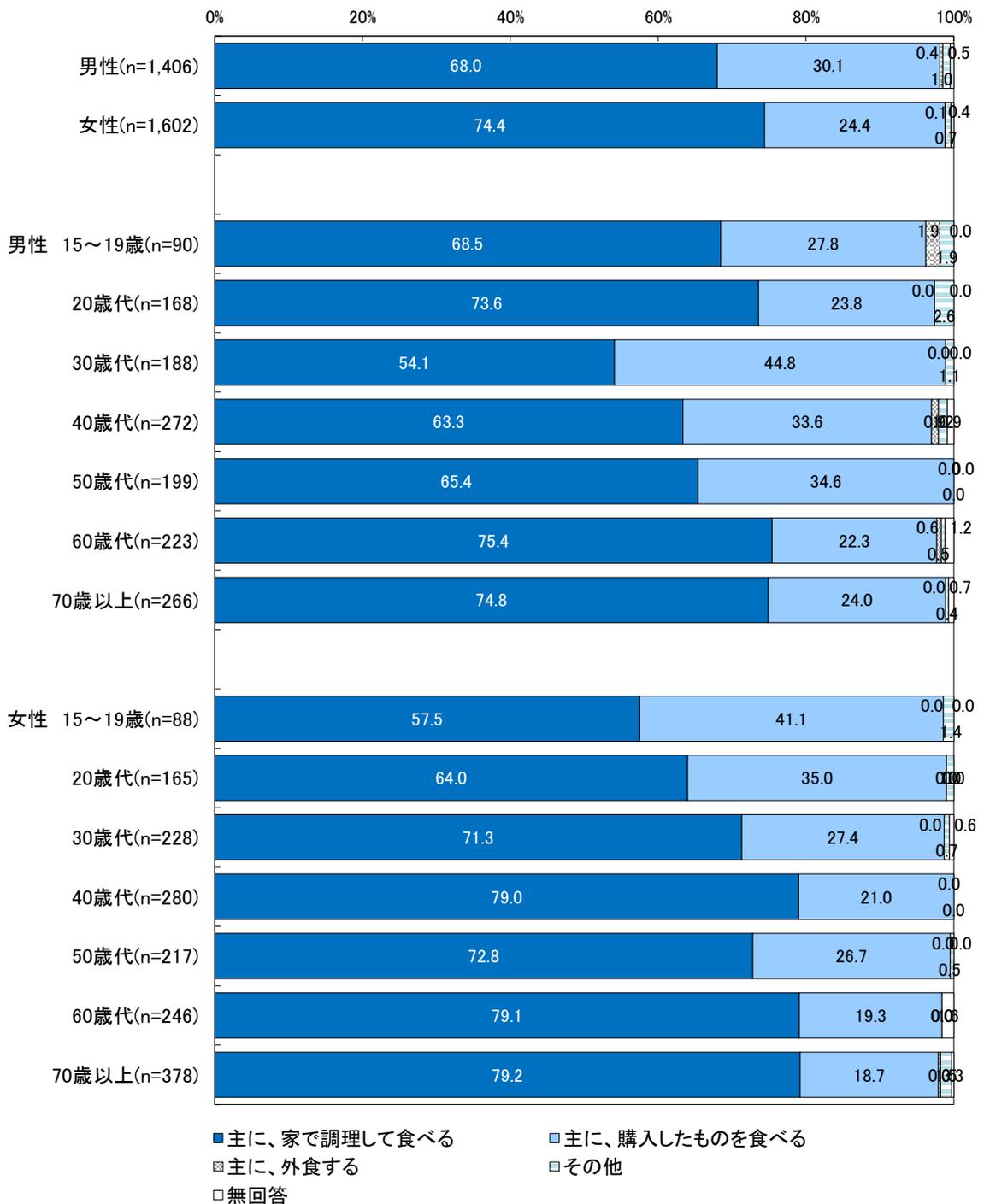
【就業状況別】 学生（大学生・短大生・専門学校生）（57.5%）が最も低いだが5割は超える。

【世帯構成別】 一人暮らし（53.1%）が最も低い。

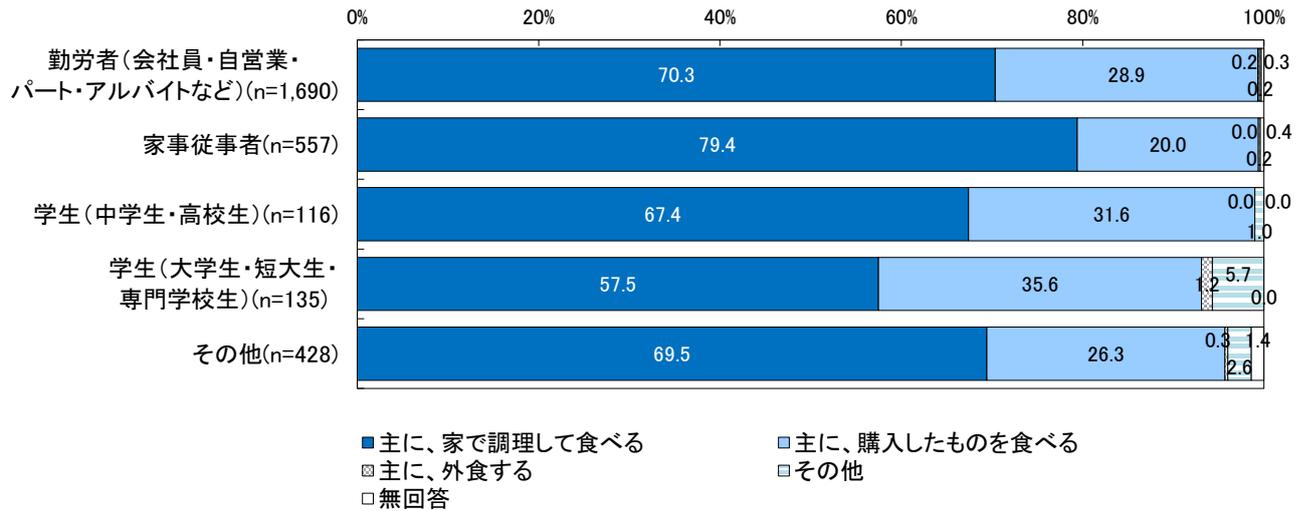
【調査年度別】 今回の調査が最も低い。



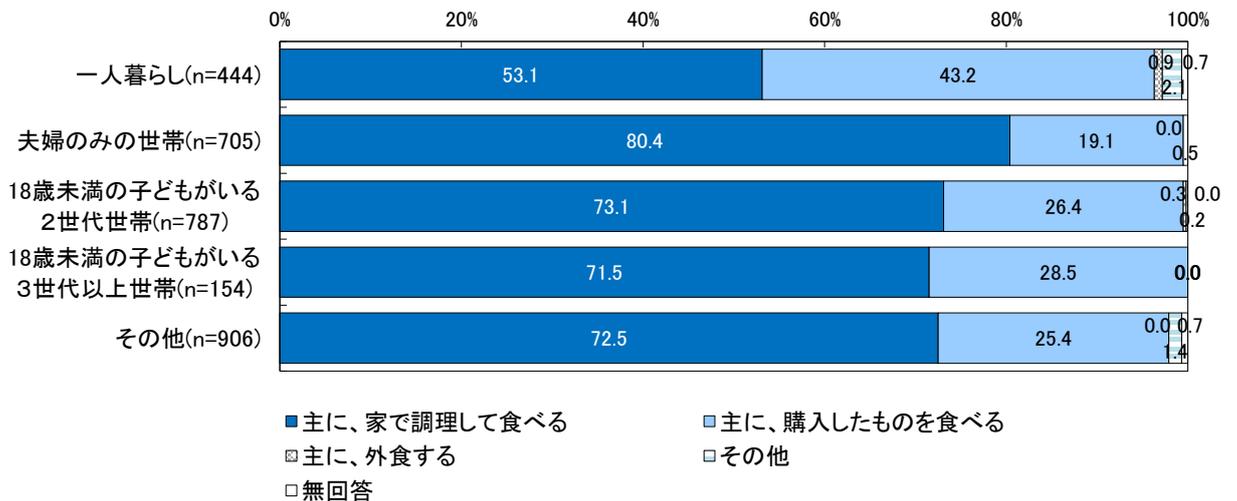
【朝食の準備方法（全体）】



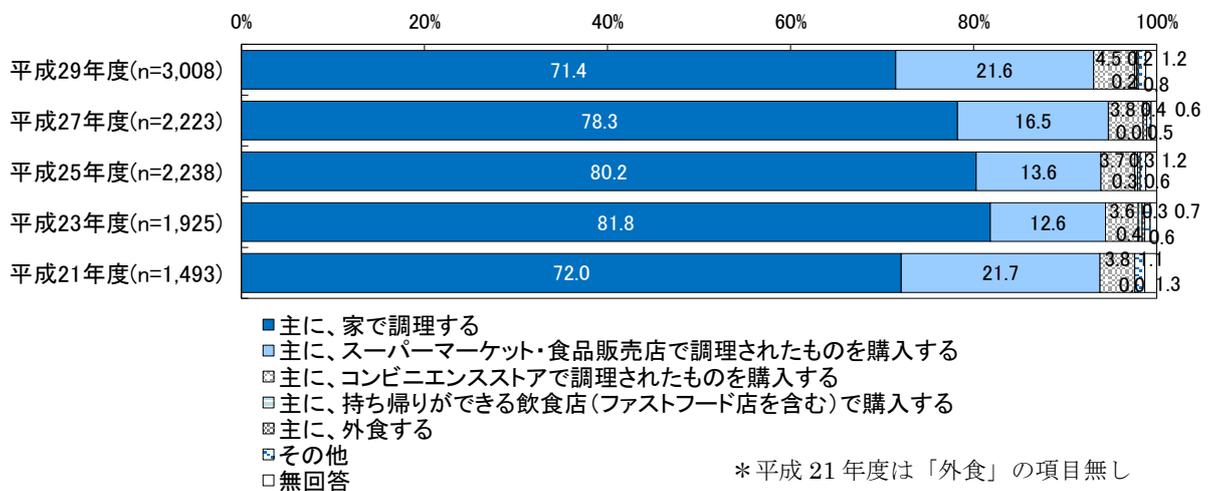
【朝食の準備方法（性/性・年齢別）】



【朝食の準備方法（就業等状況別）】



【朝食の準備方法（世帯構成別）】



【朝食の準備方法（調査年度別）】

2 食品表示・食品衛生について

(1) 食品表示の確認

食品の表示の確認について、購入時に食品表示を「参考になっている」（「参考になっている」「少しは参考になっている」の合計）の回答割合は次のとおり。

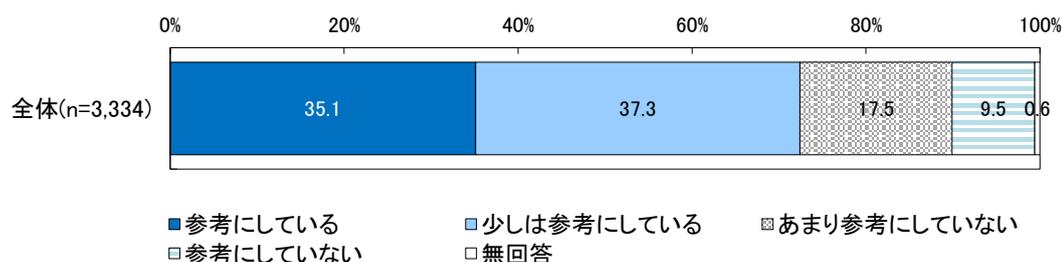
【全体】 72.4%

【性・年齢別】 男性（63.5%）が女性（80.6%）に比べて 17.1 ポイント低い。男女ともに年代が上がるにつれて高くなる。

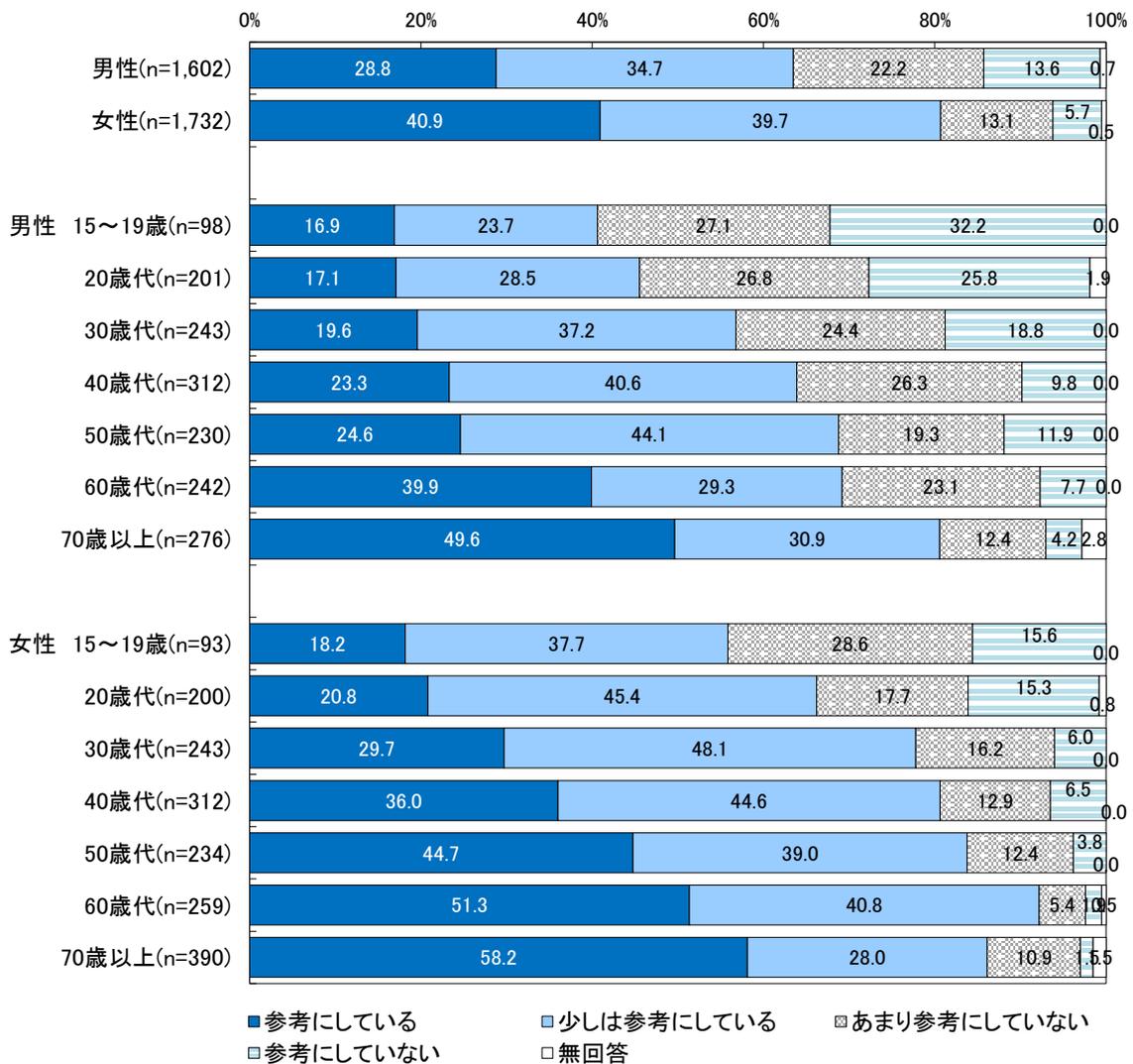
【就業等状況別】 家事従事者（86.2%）が最も高く、学生（中学生・高校生）（48.5%）、学生（大学生・短大生・専門学校生）（54.2%）が低い。

【世帯構成別】 夫婦のみの世帯（80.2%）が最も高く、18歳未満の子どもがいる三世帯以上世帯（67.3%）が最も低い。

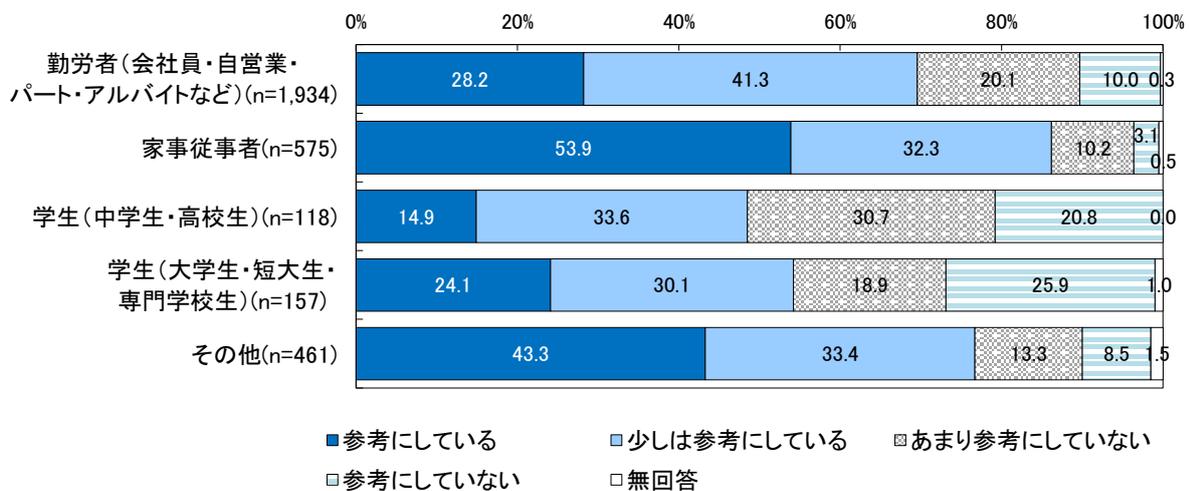
【調査年度別】 今回の調査が最も低い。



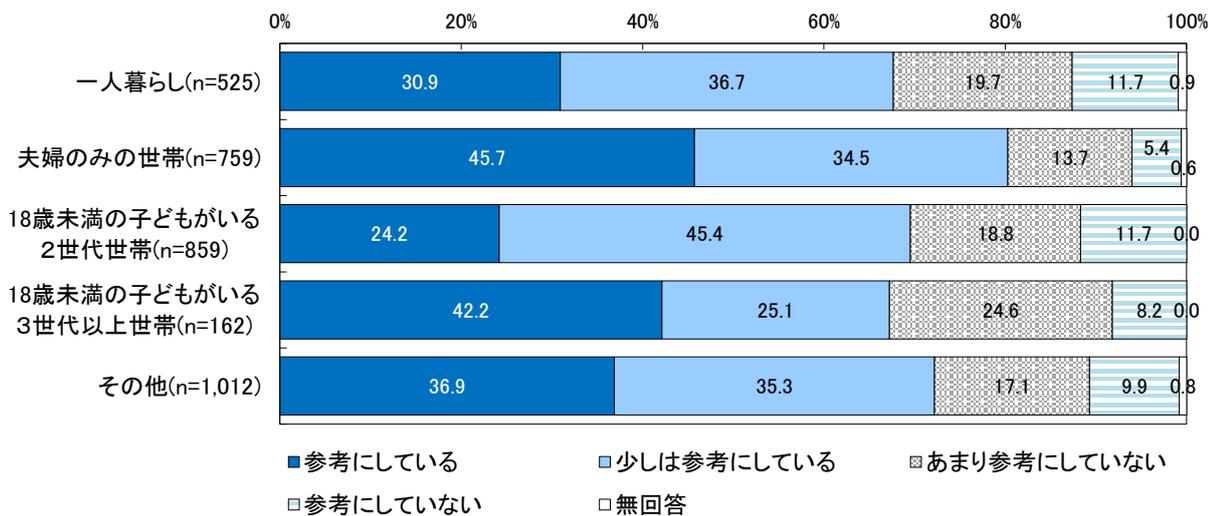
【食品表示の確認（全体）】



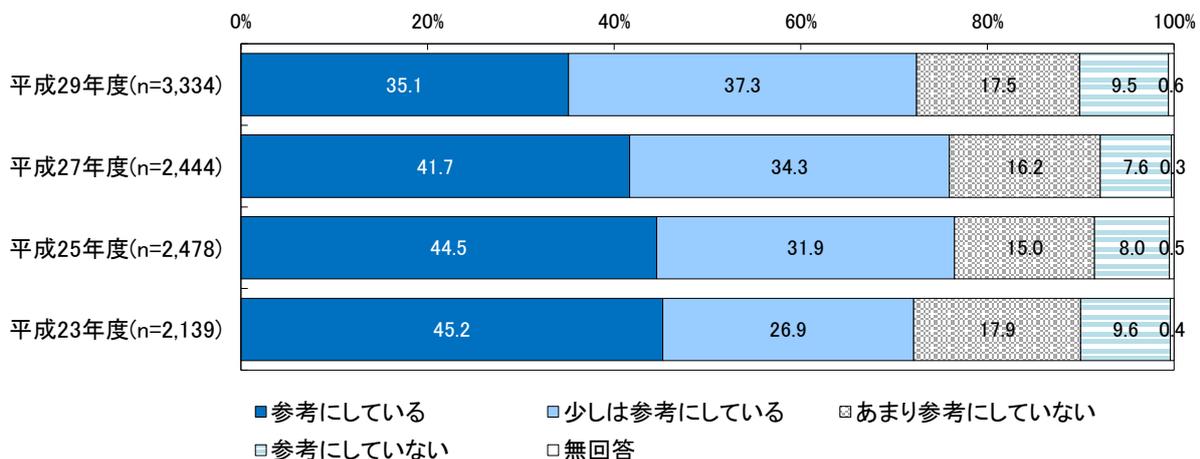
【食品表示の確認（性/性・年齢別）】



【食品表示の確認（就業等状況別）】



【食品表示の確認（世帯構成別）】



【食品表示の確認（調査年度別）】

(2) 衛生に関する実践度

衛生に関する実践度について、食中毒予防のために「手洗い・食品の加熱・食品の冷蔵を行っている」（「十分に行っている」「まあまあ行っている」の合計）の回答割合は次のとおり。

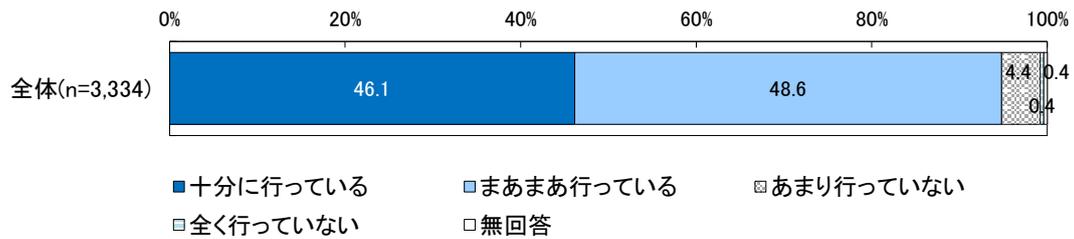
【全体】 94.7%

【性・年齢別】 男性（92.4%）が女性（96.8%）に比べて低い。15～19歳男性（84.7%）以外の区分において回答割合は9割を超える。

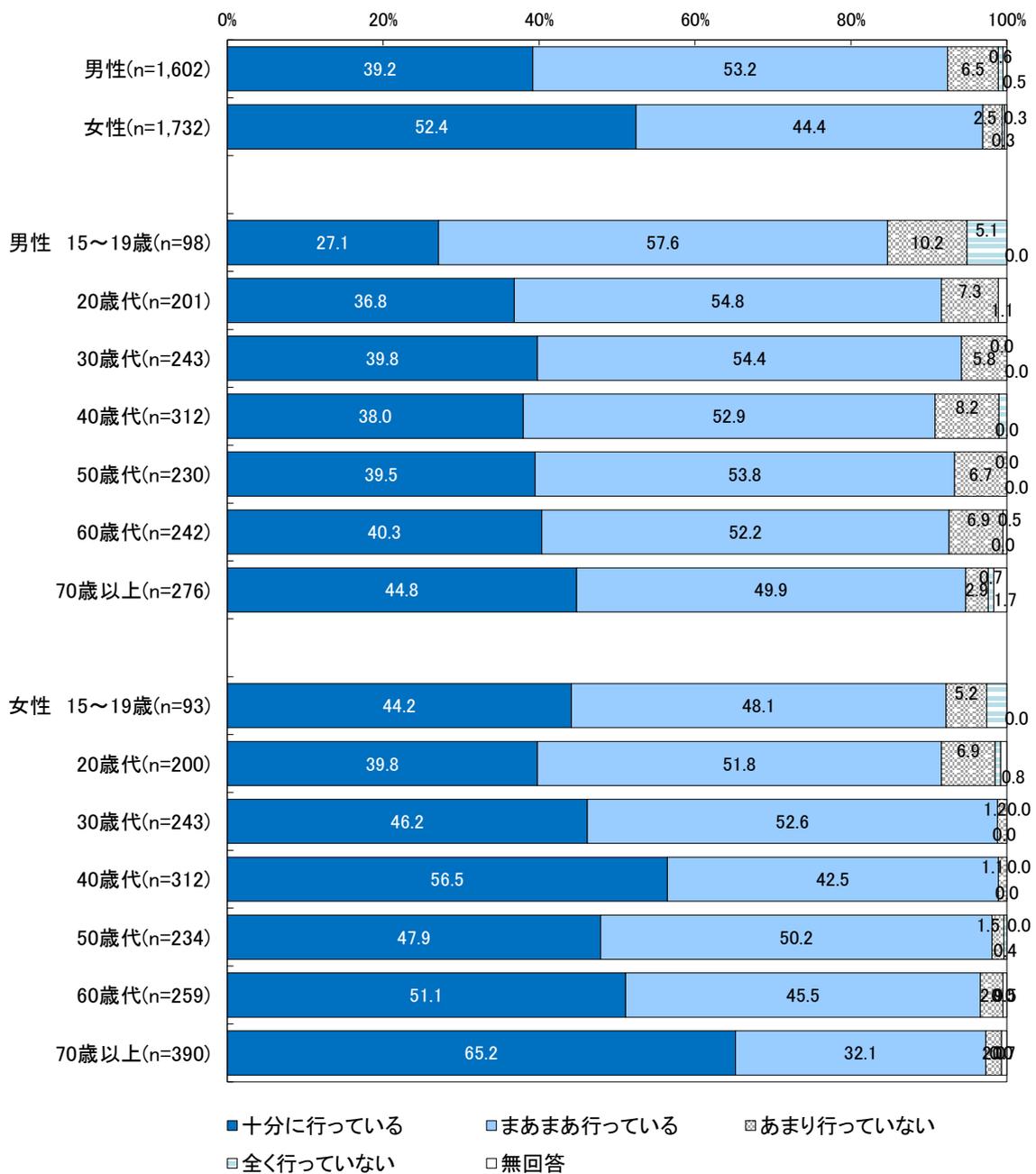
【就業等状況別】 家事従事者（98.1%）が最も高い。

【世帯構成別】 すべての区分において回答割合は9割を越える。

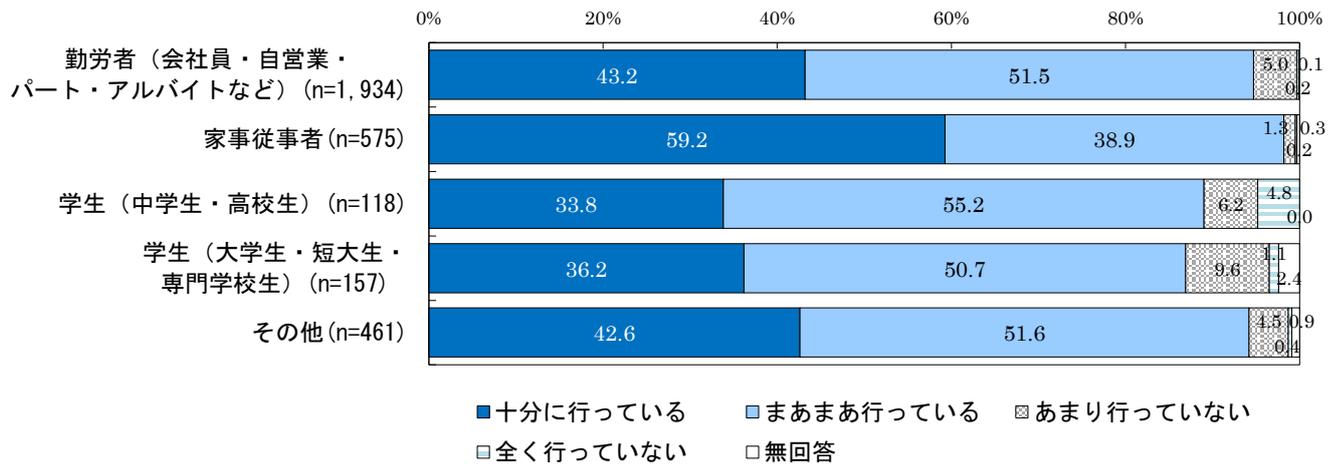
【調査年度別】 今回の調査が最も低い。



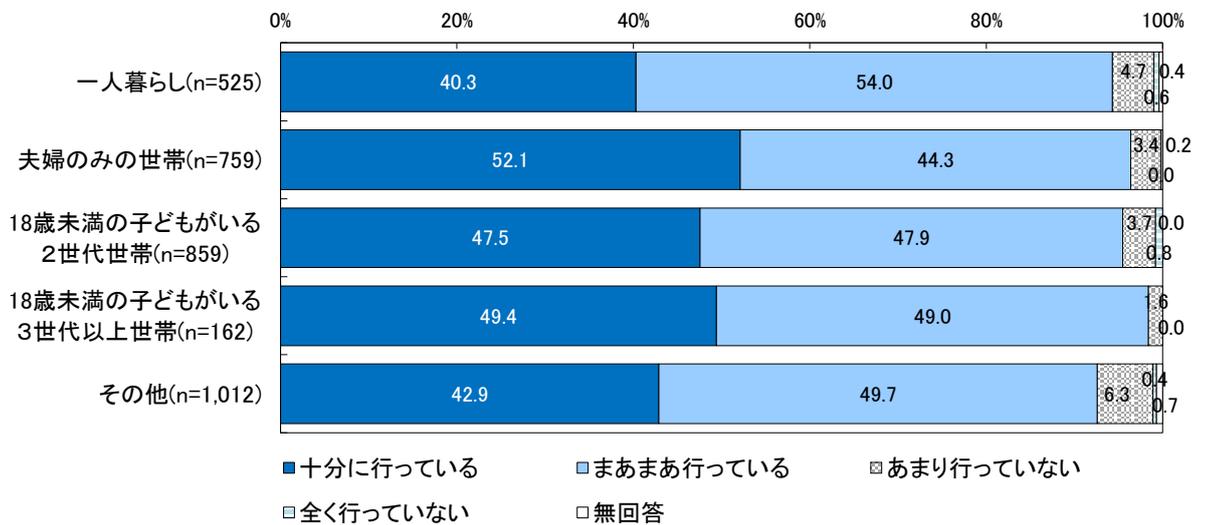
【衛生に関する実践度（全体）】



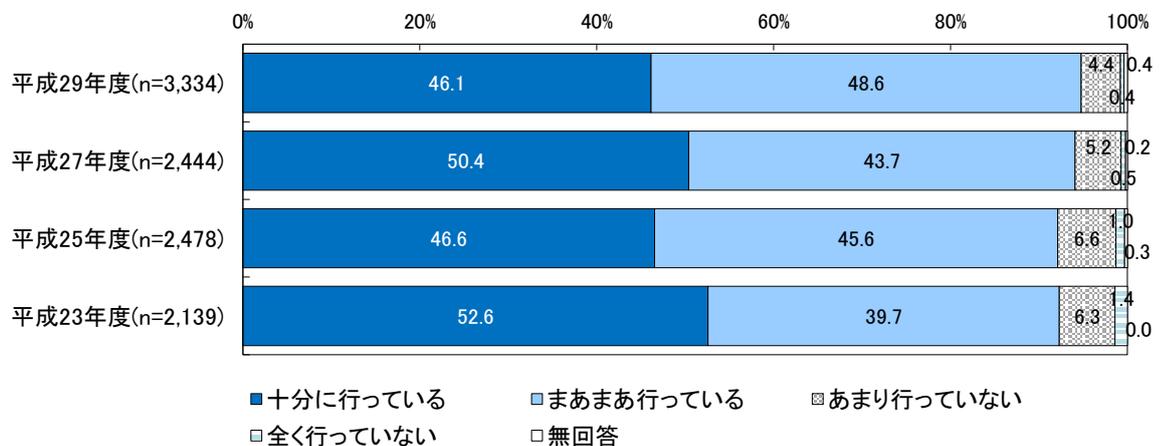
【衛生に関する実践度（性/性・年齢別）】



【衛生に関する実践度（就業等状況別）】



【衛生に関する実践度（世帯構成別）】



【衛生に関する実践度（調査年度別）】

(3) 食の安全性等に関して今後充実してほしい情報提供の方法

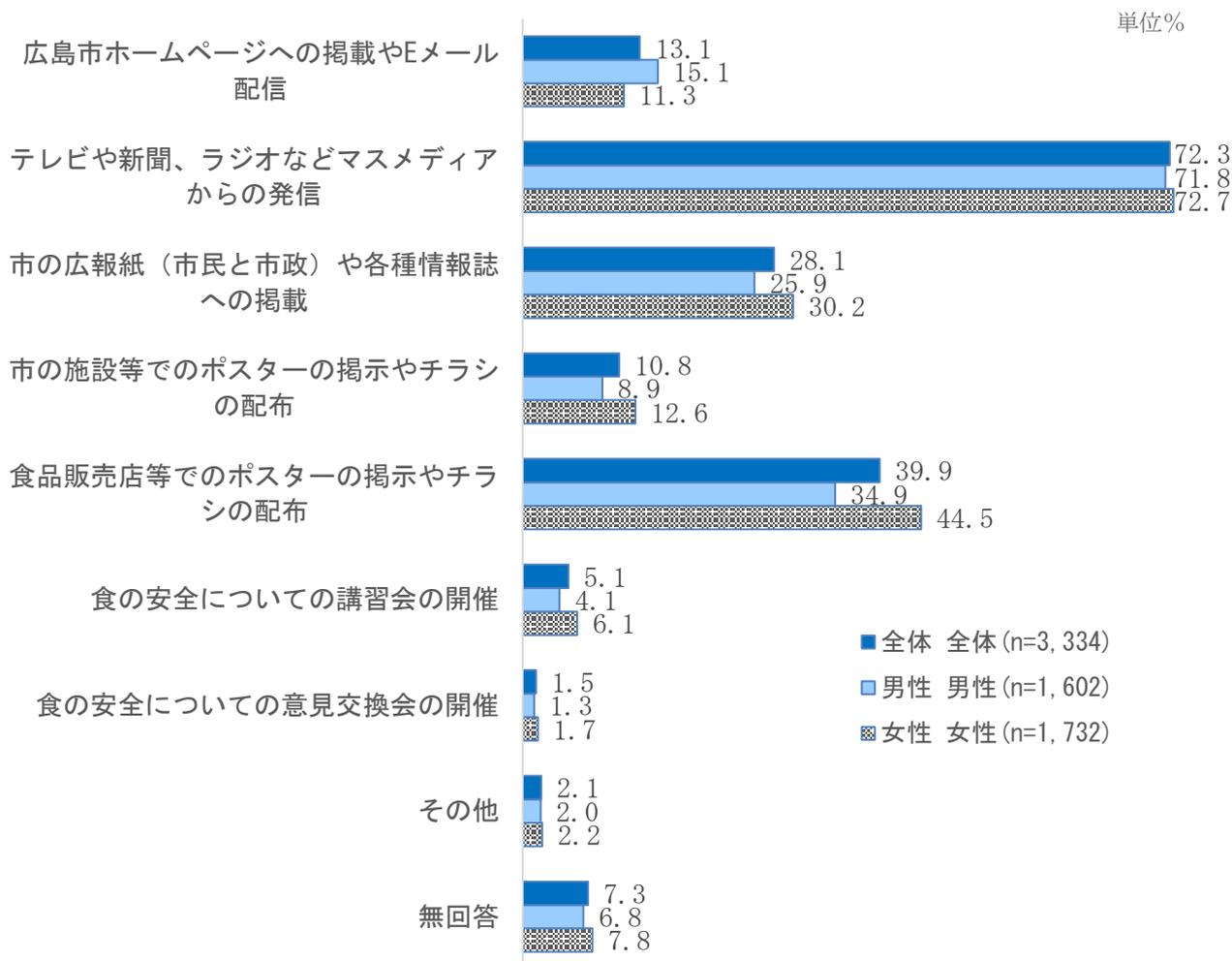
食の安全性等に関して「正しい知識を持つために今後充実してほしい情報提供方法」の回答割合は次のとおり。

【全体】「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディアからの発信」(72.3%)が最も高く、次いで「食品販売店でのポスターの掲示やチラシの配布」(39.9%)、「市の広報紙(市民と市政)や各種情報誌への掲載」(28.1%)と続く。

【性・年齢別】「広島市のホームページへの掲載やeメール発信」の項目のみ男性(15.1%)が女性(11.3%)より高く、男女ともに50歳代で最も高い(男性20.2%、女性17.3%)。

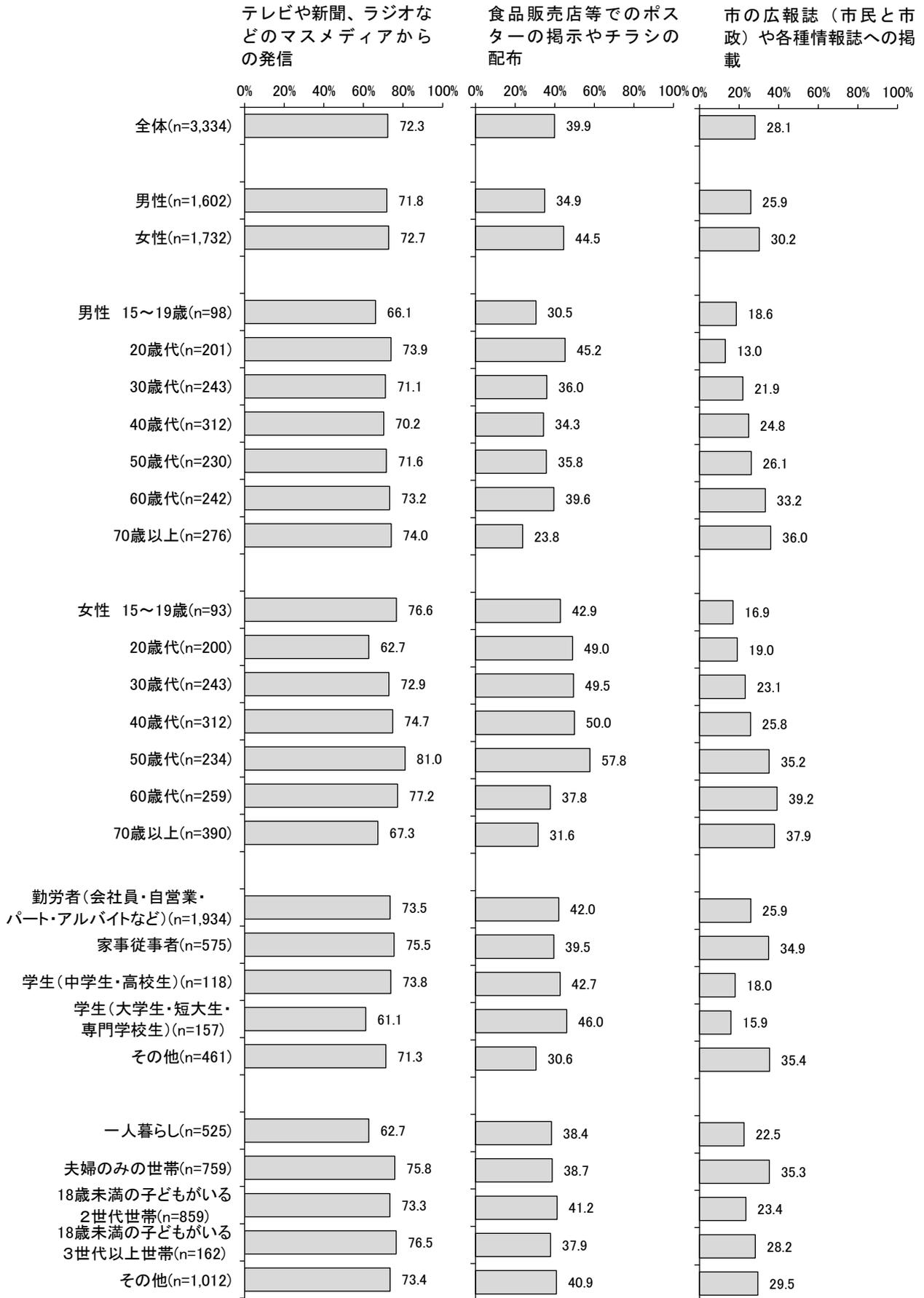
「食品販売店等でのポスターの掲示やチラシの配布」は、男性(34.9%)は女性(44.5%)に比べて9.6ポイント低い。

【就業等状況別】違いが見られるのは「市の広報紙(市民と市政)や各種情報誌への掲載」であり、家事従事者(34.9%)、その他(35.4%)が高く、学生(中学生・高校生)(18.0%)、学生(大学生・短大生・専門学校生)(15.9%)が低い。



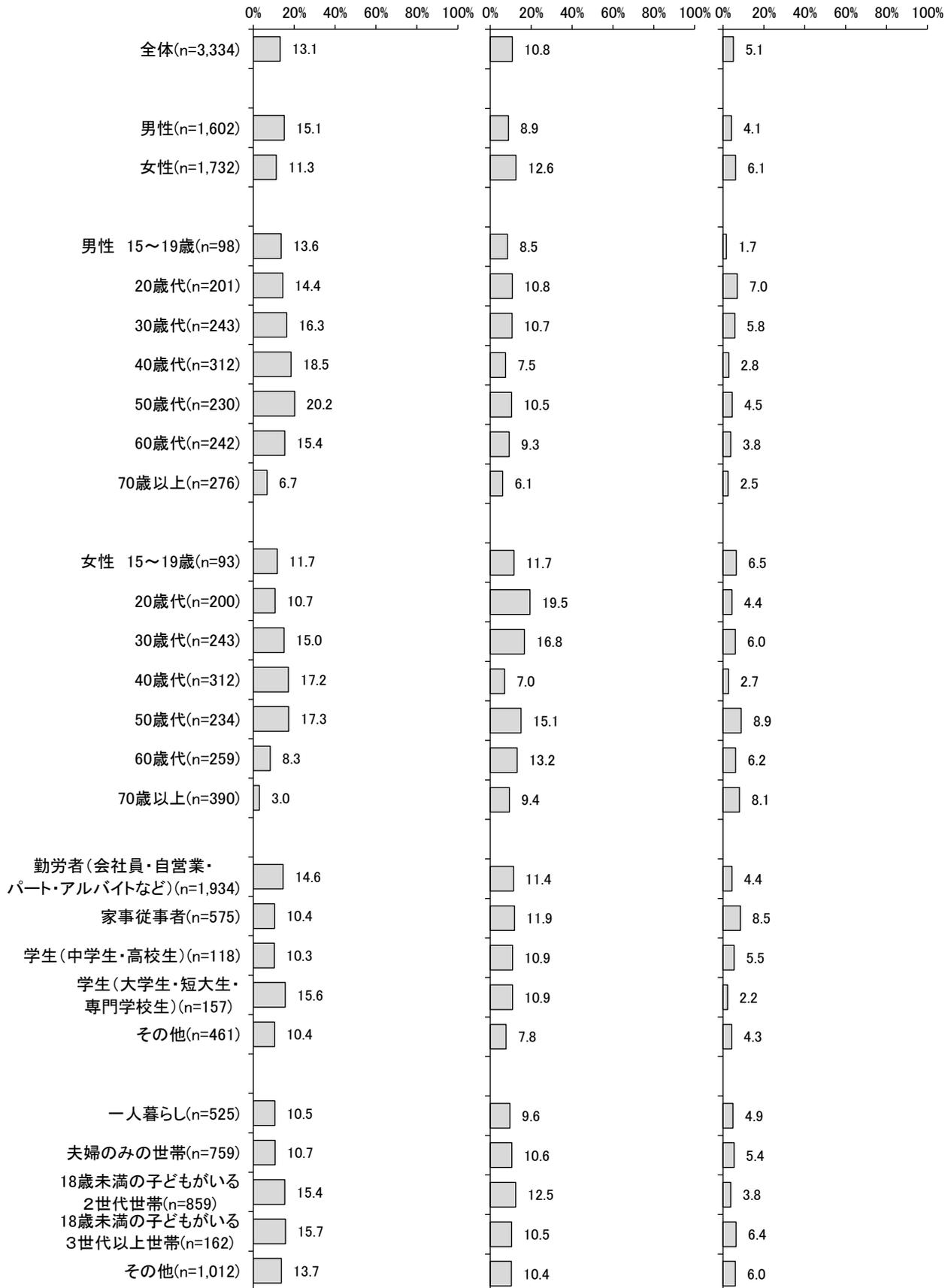
【食の安全性や食中毒予防について、充実して欲しい情報提供(全体)】

※回答割合の高い内容順に記載



【今後充実してほしい情報提供の方法（全体、性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】

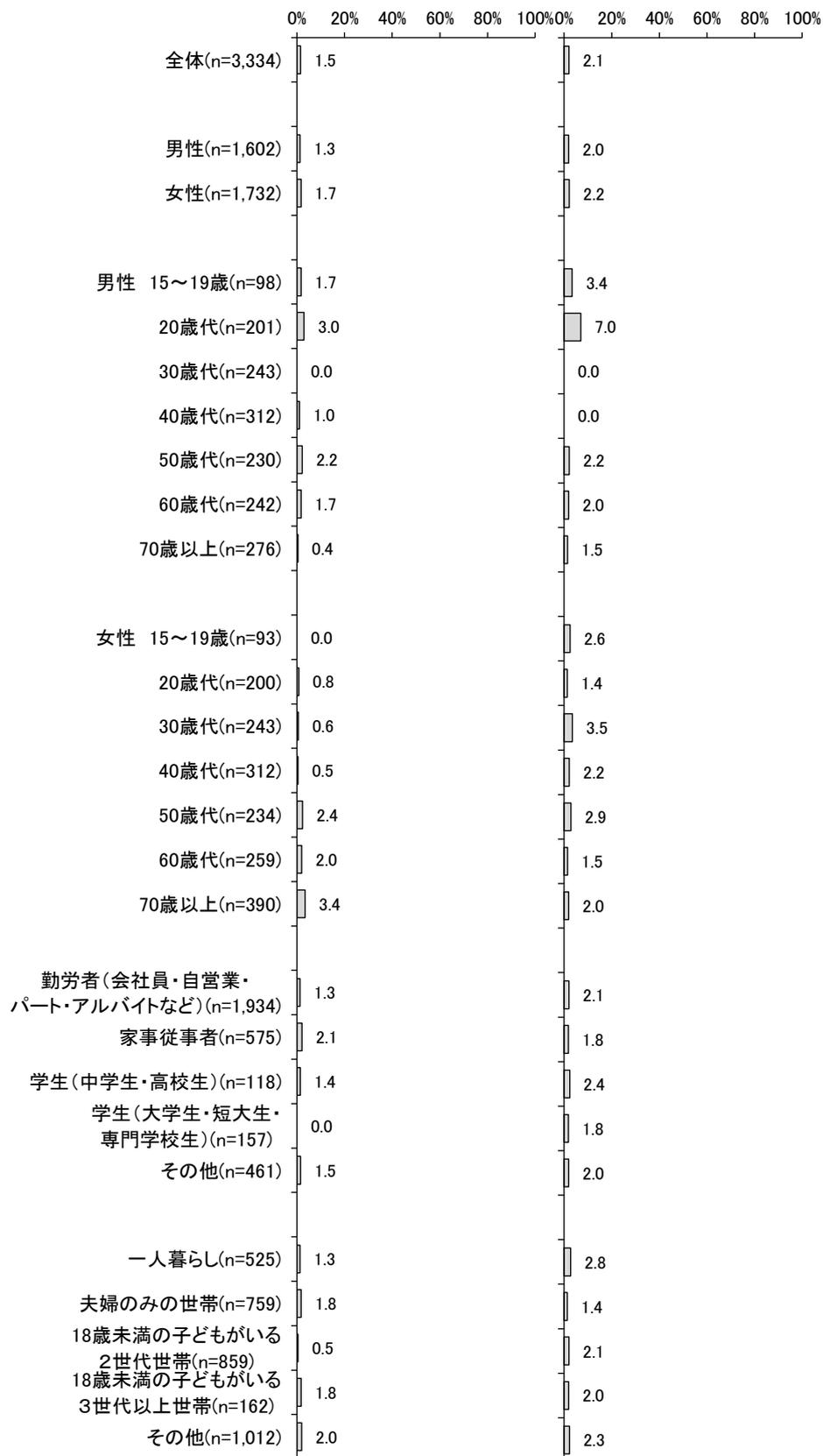
広島市の「ホームページへの掲載やeメール配信」 市の施設等でのポスターの掲示やチラシの配布 食の安全についての講習会の開催



【今後充実してほしい情報提供の方法 (全体, 性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別)】

食の安全についての意見交換会の開催

その他



【今後充実してほしい情報提供の方法（全体、性/性・年齢/就業等状況別/世帯構成別）】

3 わ食について

(1) 「わ食」の実践度

① 和食

指 標：「和食」を実践している人の割合
目標数値：80%以上
平成 27 年度数値：69.6%

和食（栄養バランスのとれた日本型食生活の実践）

和食の実践度について「実践している」（「十分に実践している」「まあまあ実践している」の合計）の回答割合は次のとおり。

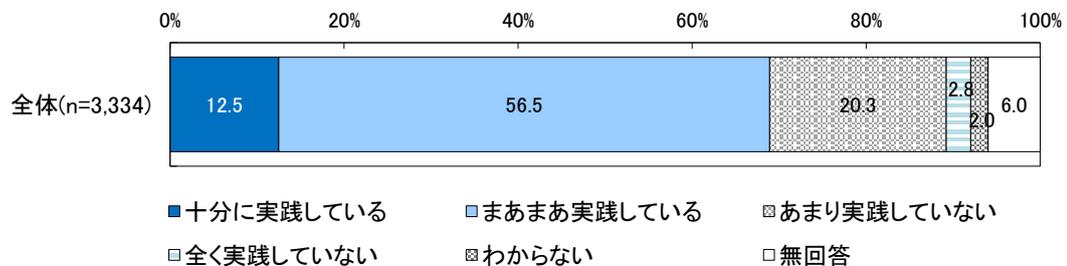
【全体】 69.0%

【性・年齢別】 男性（64.2%）が女性（73.5%）に比べて 9.3 ポイント低い。男性では 30 歳代（54.6%）、女性では 20 歳代（61.8%）が最も低い

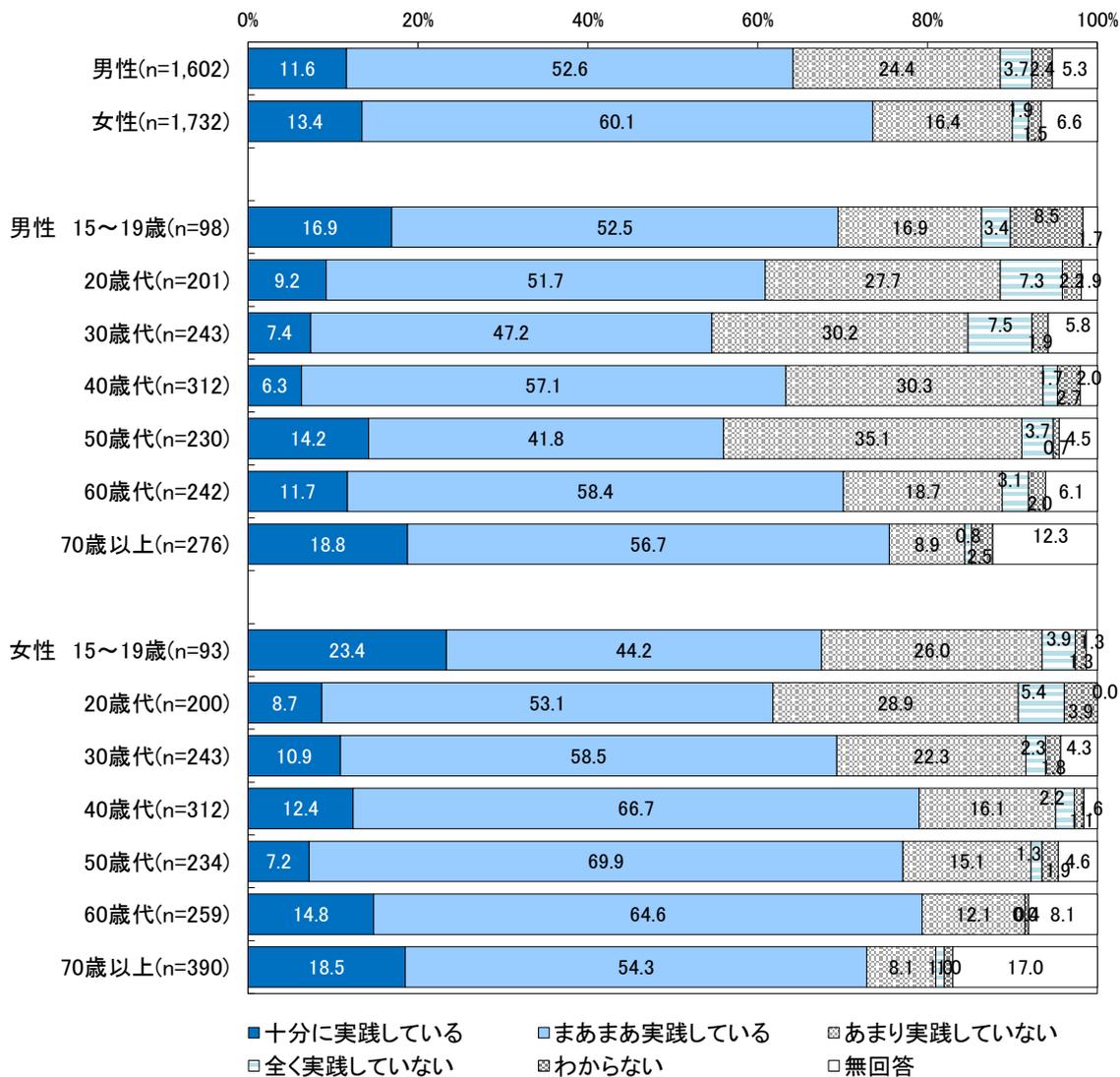
【就業等状況別】 家事従事者（83.9%）が最も高い。学生（大学生・短大生・専門学校生）（58.6%）が最も低く、同じ学生（中学生・高校生）（71.8%）に比べて 13.2 ポイント低い。

【世帯構成別】 夫婦のみの世帯（78.4%）が最も高い。一人暮らし（46.6%）が最も低く、他の世帯との差が大きい。

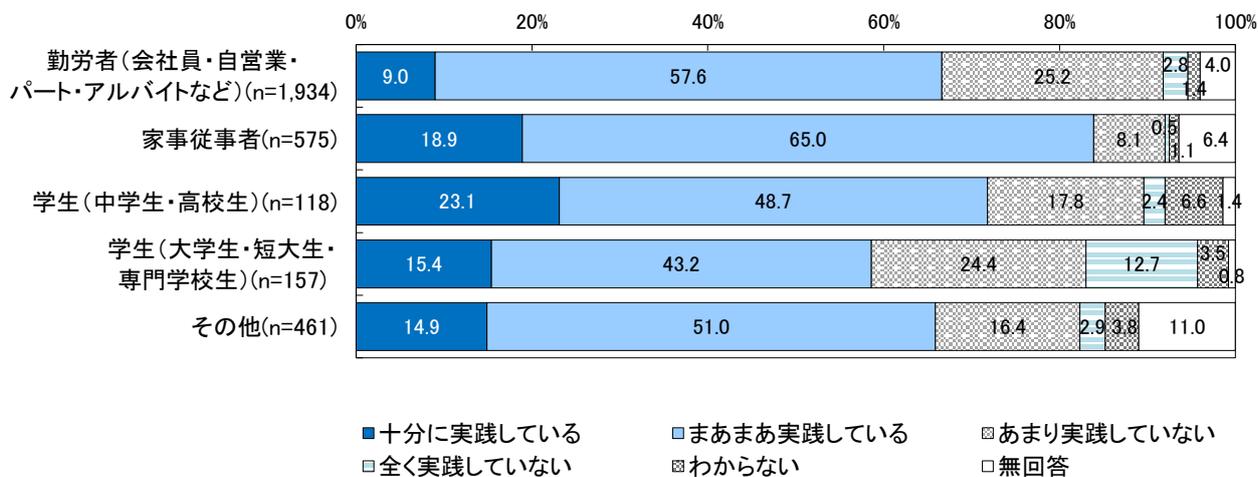
【調査年度別】 違いはみられない。



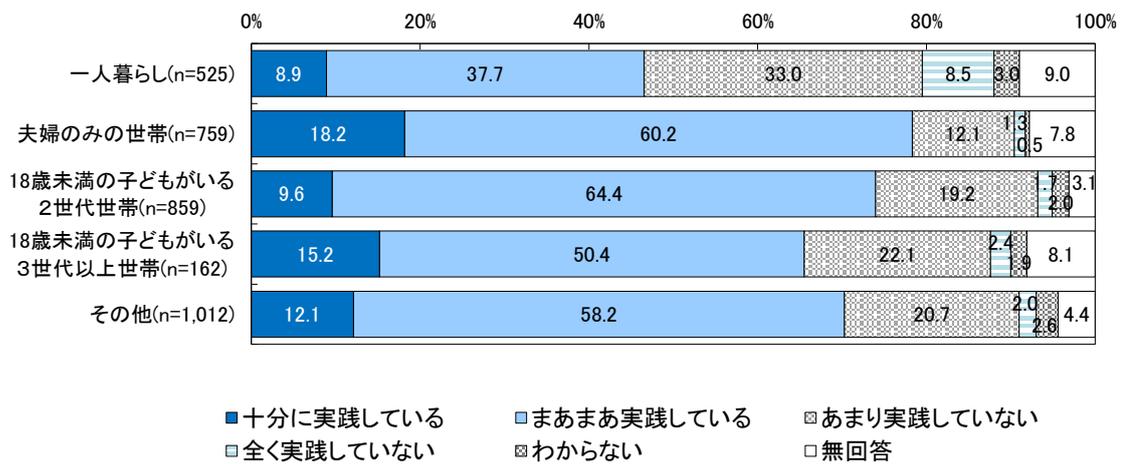
【和食の実践度（全体）】



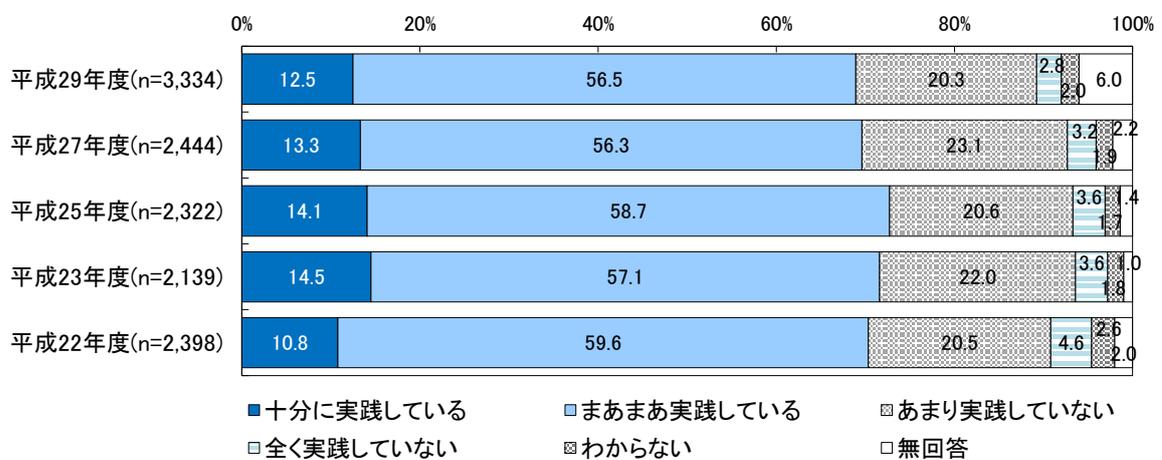
【和食の実践度（性・年齢別）】



【和食の実践度（就業等状況別）】



【和食の実践度（世帯構成別）】



【和食の実践度（調査年度別）】

② 輪食

指 標：「輪食」を実践している人の割合
 目標数値：80%以上
 平成 27 年度数値：70.5%

輪食（食卓を囲む家族等との団らん）

輪食の実践度について「実践している」（「十分に実践している」「まあまあ実践している」の合計）の回答割合は次のとおり。

【全体】 64.5%

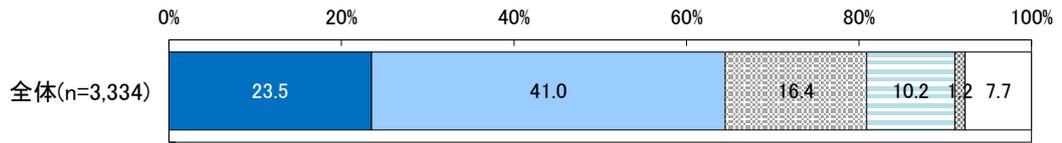
【性・年齢別】 男性（64.2%）、女性（64.9%）でほぼ同じ。

男性は15～19歳（76.3%）が最も高く、20歳代（58.7%）が最も低い。女性は30歳代（75.9%）が最も高く、70歳以上（45.6%）が最も低い。

【就業等状況別】 学生（中学生・高校生）（79.6%）、家事従事者（75.4%）が高い

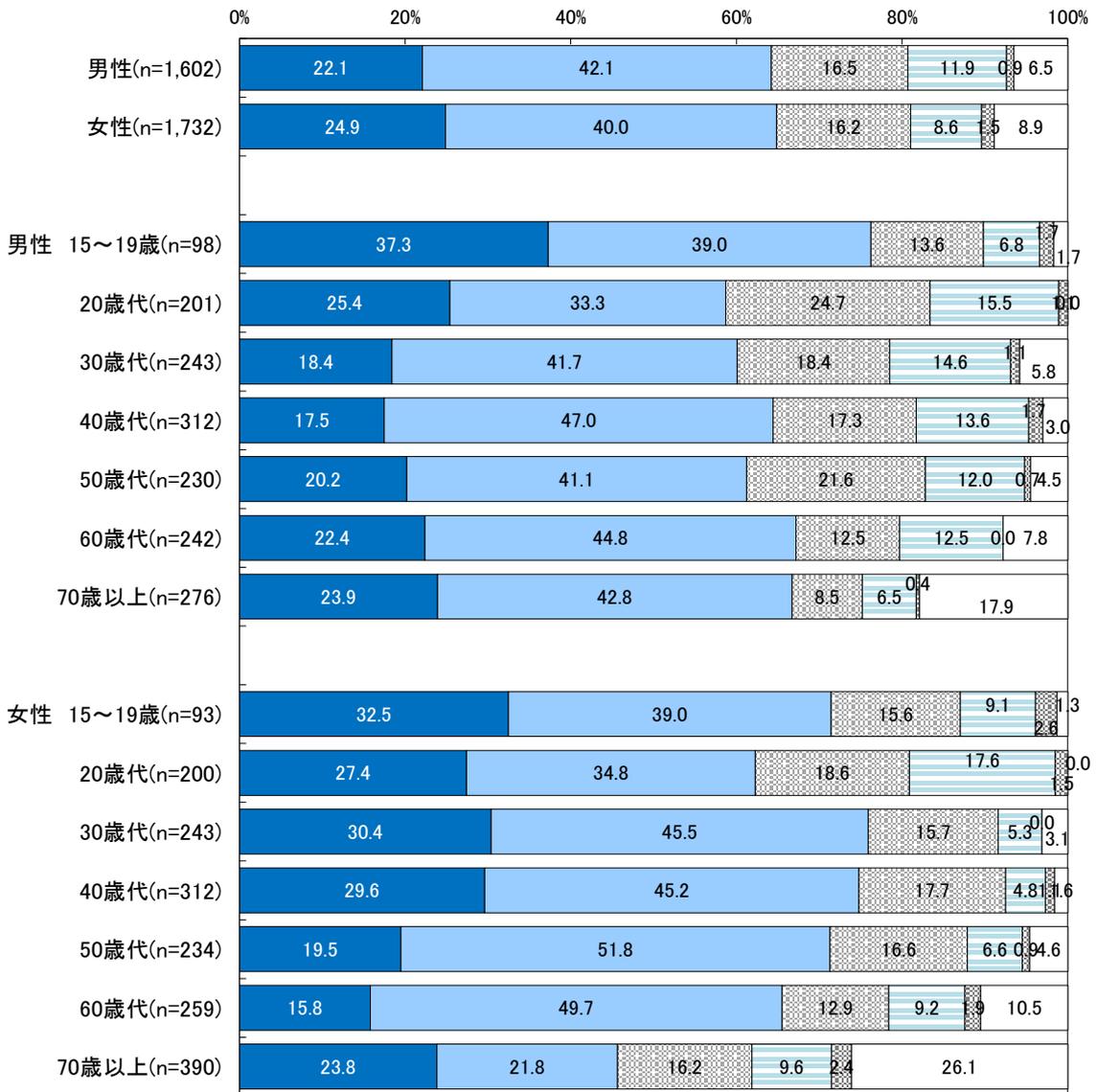
【世帯構成別】 最も高い18歳未満の子どもがいる二世帯世帯（81.5%）と最も低い一人暮らし（12.4%）の乖離が大きい。

【調査年度別】 初回調査（平成22年）時が最も低く（21.2%）、次年度調査で増加し33.0%、以降、微減していく。



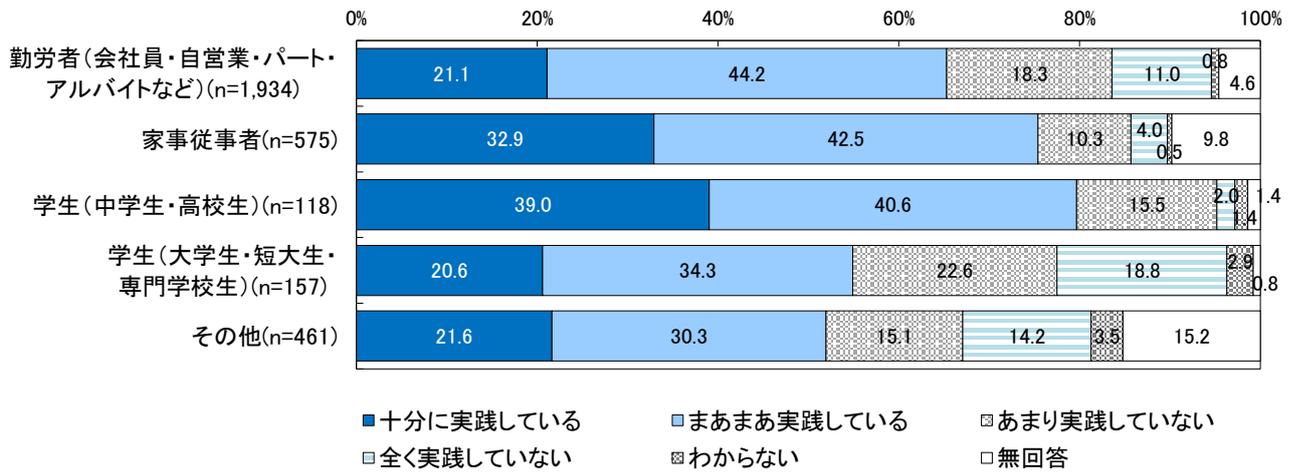
- 十分に実践している
- まあまあ実践している
- ▨あまり実践していない
- 全く実践していない
- ▨わからない
- 無回答

【輪食の実践度（全体）】

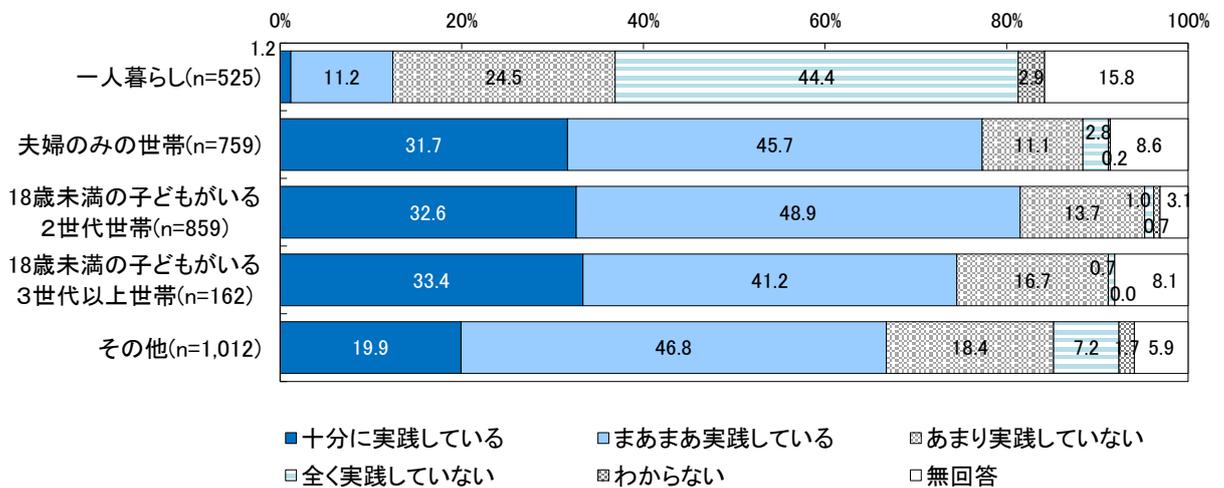


- 十分に実践している
- まあまあ実践している
- ▨あまり実践していない
- 全く実践していない
- ▨わからない
- 無回答

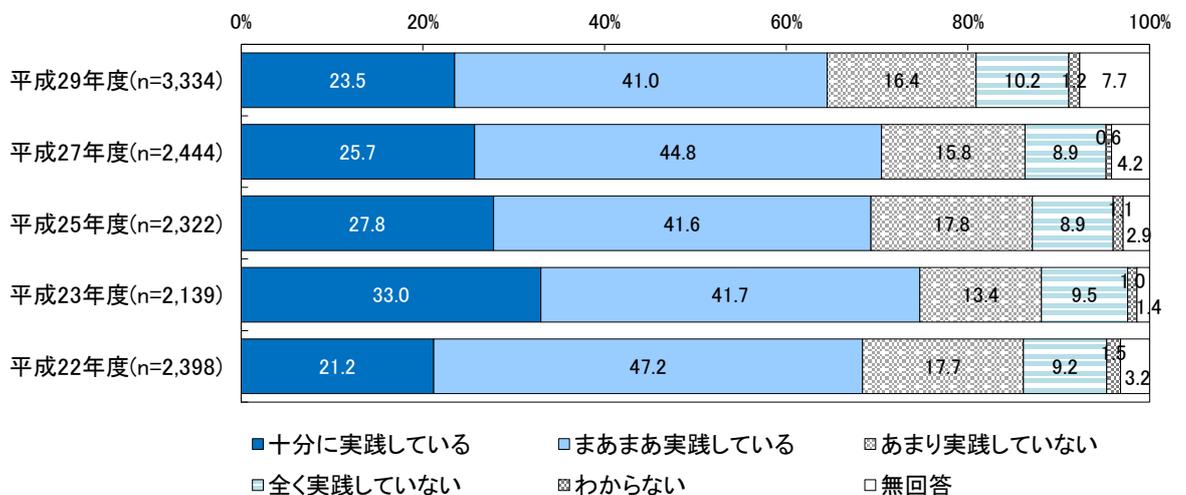
【輪食の実践度（性/性・年齢別）】



【輪食の実践度（就業等状況別）】



【輪食の実践度（世帯構成別）】



【輪食の実践度（調査年度別）】

③ 環食

指 標：「環食」を実践している人の割合

目標数値：80%以上

平成 27 年度数値：78.6%

環食（環境に配慮した食生活の実践）

環食の実践度について「実践している」（「十分に実践している」「まあまあ実践している」の合計）の回答割合は次のとおり。

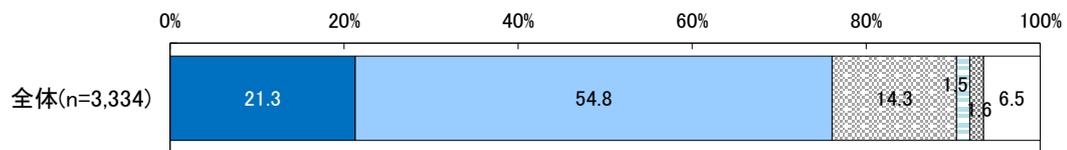
【全体】76.1%

【性・年齢別】男女間の差は小さい（男性75.3%、女性76.8%）。最も低いのは20歳代女性（70.8%）。男性では15～19歳（72.9%）が最も低い。

【就業等状況別】家事従事者（83.3%）が最も高く、学生（大学生・短大生・専門学校生）（68.7%）が最も低い。

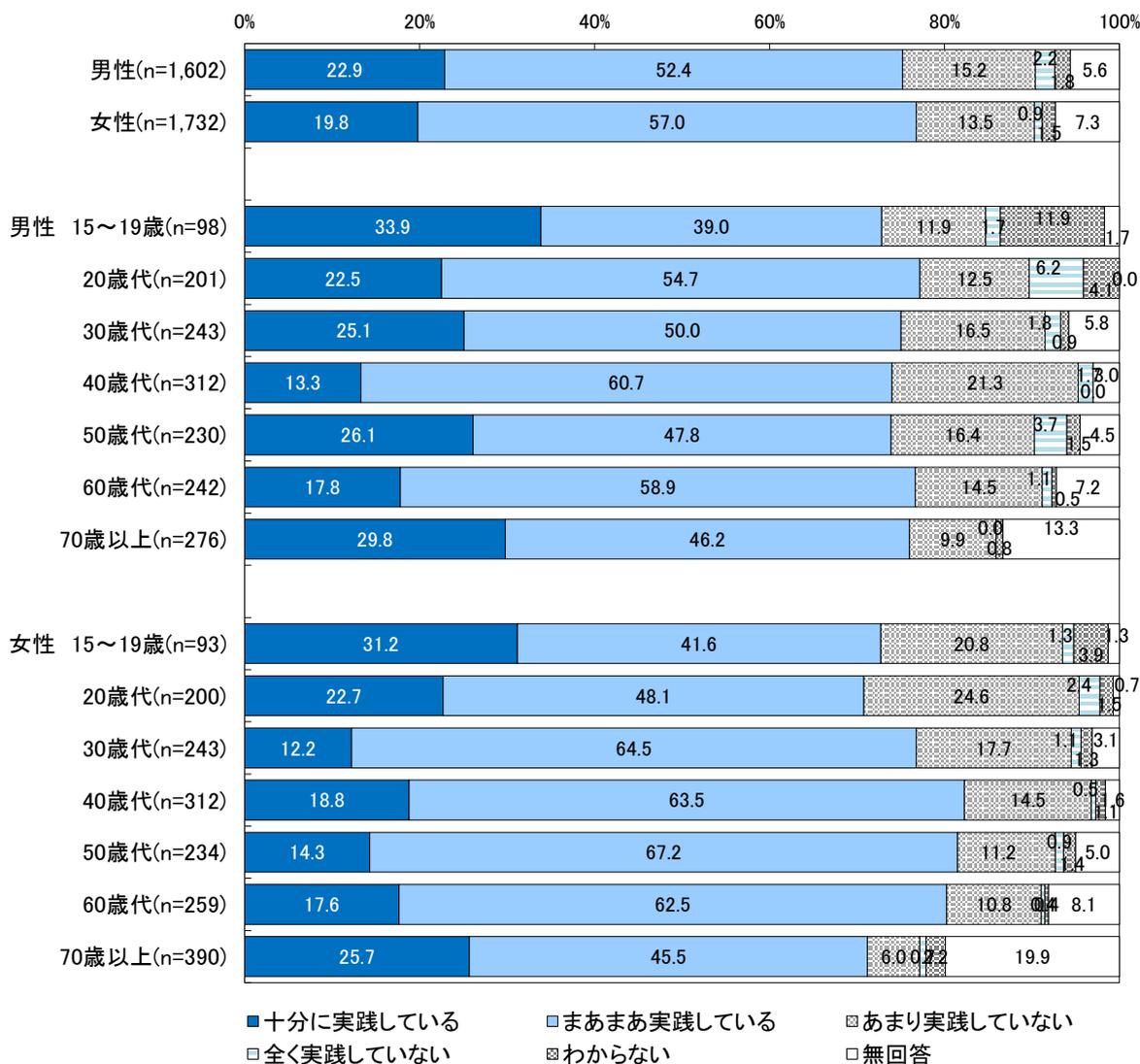
【世帯構成別】夫婦のみの世帯（81.9%）が最も高く、一人暮らし（62.3%）が最も低い。

【調査年度別】初回調査（平成22年）時が最も低く（60.8%）、次年度調査で急増し（81.6%）、以降、微減していく。

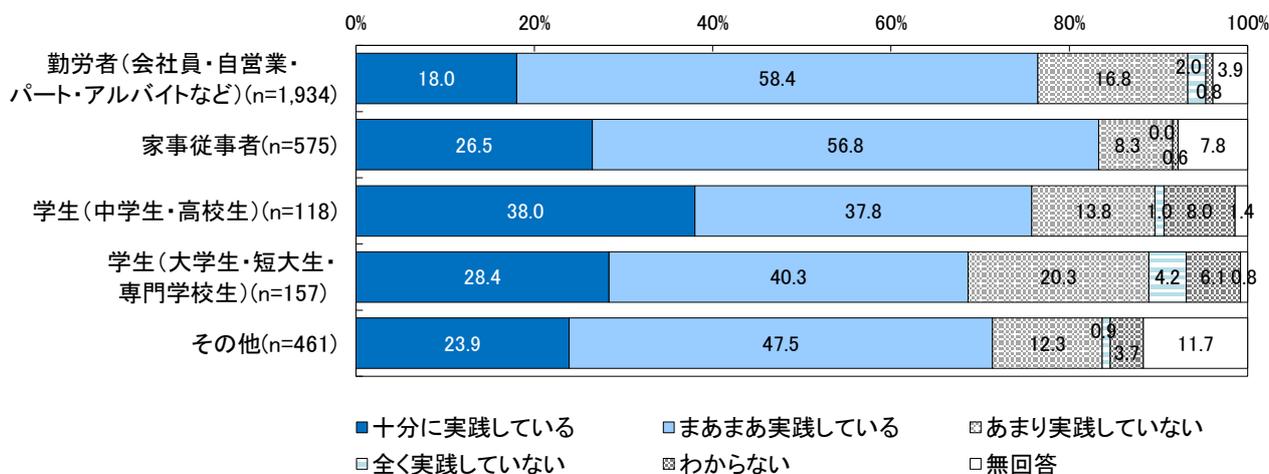


■十分に実践している □まあまあ実践している ▨あまり実践していない
□全く実践していない ▩わからない □無回答

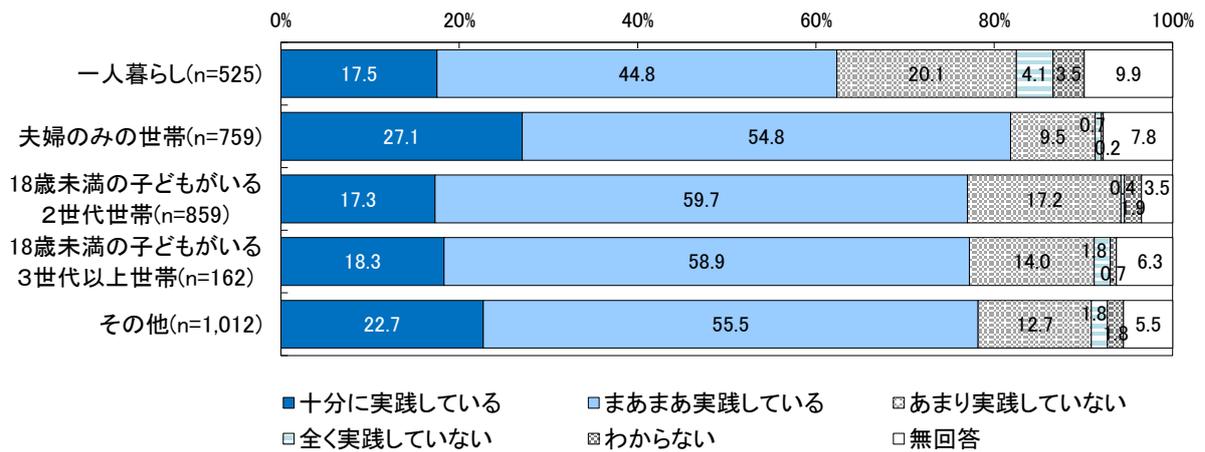
【環食の実践度（全体）】



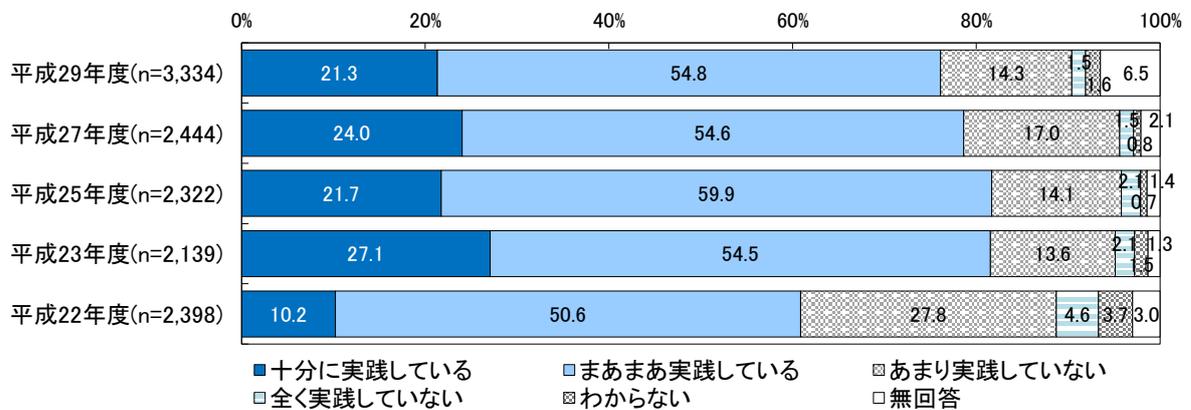
【環食の実践度（性/性・年齢別）】



【環食の実践度（就業等状況別）】



【環食の実践度（世帯構成別）】



【環食の実践度（調査年度別）】

(2) 「わ食の日」の認知度

「わ食の日」*を「知っていた」（「言葉も内容も知っていた」「言葉は知っていたが、内容は知らなかった」の合計）の回答割合は次のとおり。

【全体】 33.2%

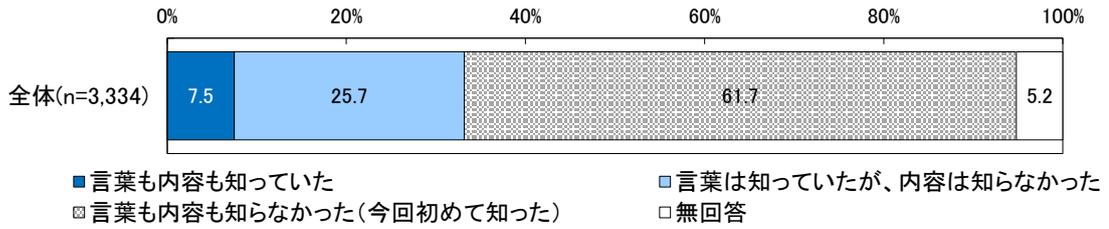
【性・年齢別】 男性（26.0%）は女性（39.8%）に比べて13.8ポイント低い。男女ともに15～19歳で最も高い（男性44.1%、女性57.2%）。30歳代男性（13.5%）が最も低い。

【就業等状況別】 学生（中学生・高校生）（60.4%）が他の区分に比べて高い。

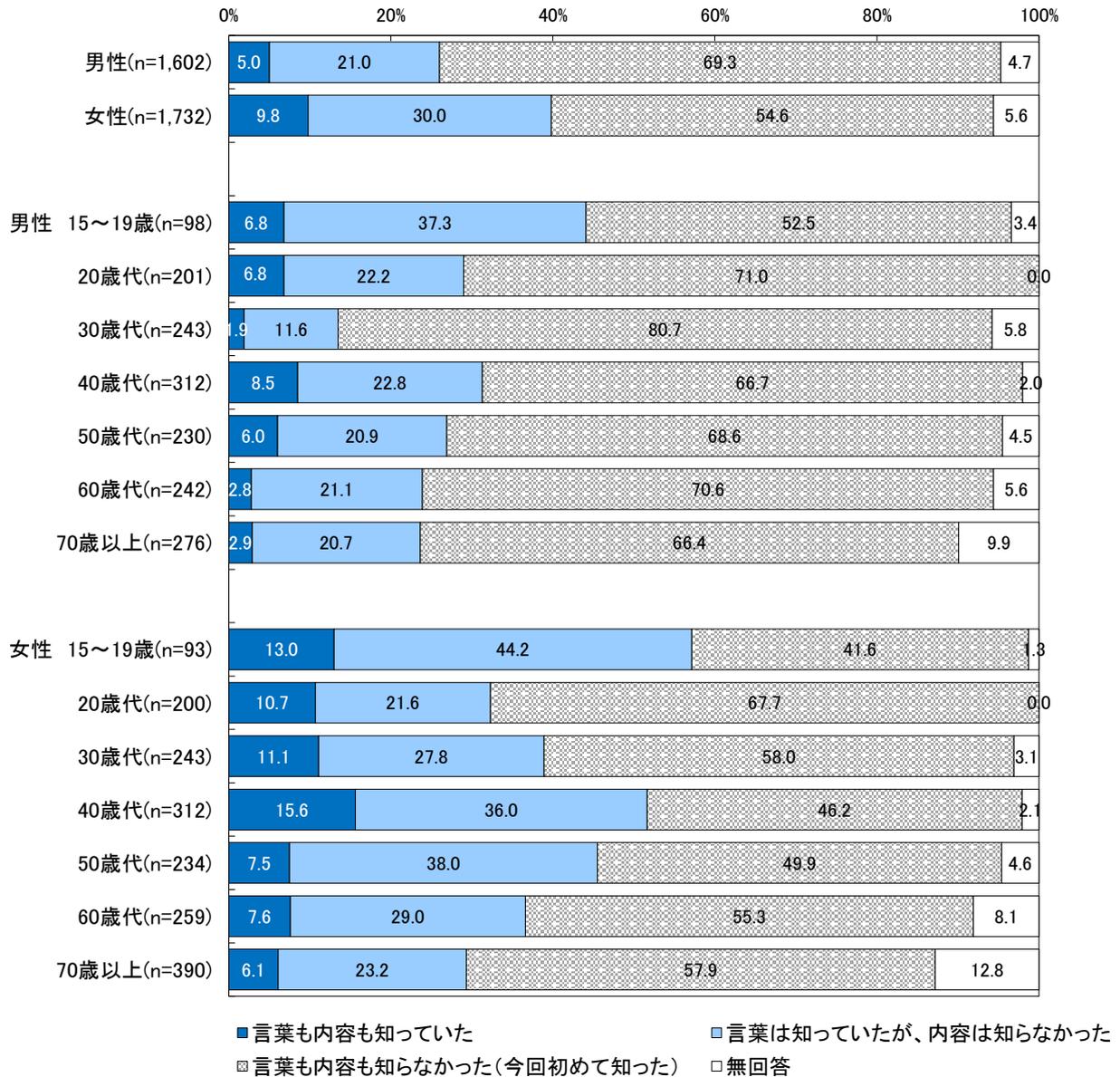
【世帯構成別】 18歳未満の子がいる二世帯世帯（46.2%）、18歳未満の子がいる三世帯以上世帯（42.3%）で高く、一人暮らし（24.6%）が最も低い。

【調査年度別】 大きな違いはみられない。

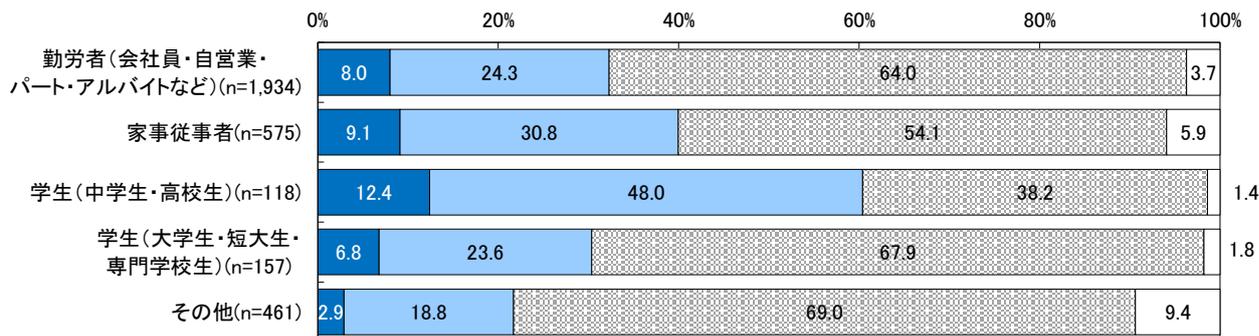
*わ食の日・・・広島市では毎日19日を「わ食の日」として、3つのわ食（和食・輪食・環食）を進めている。



【「わ食の日」の認知度（全体）】

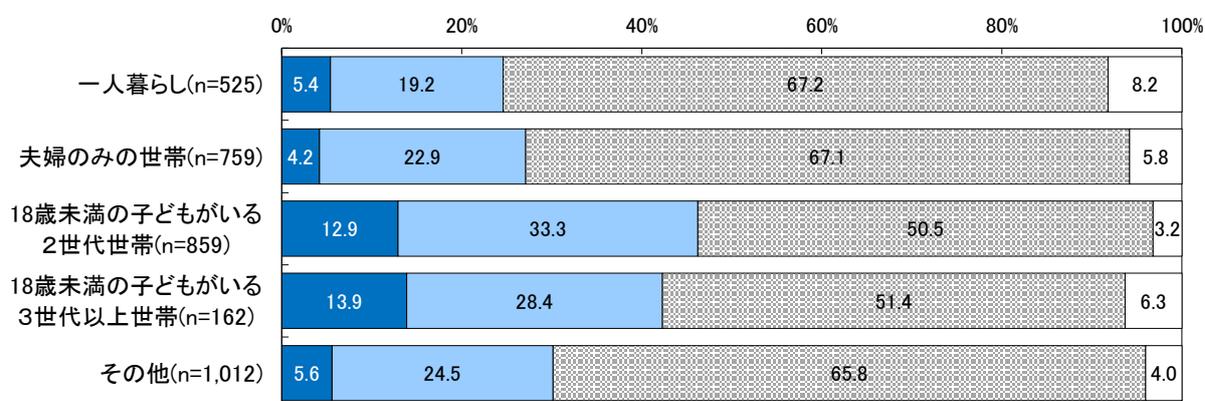


【「わ食の日」の認知度（性/性・年齢別）】



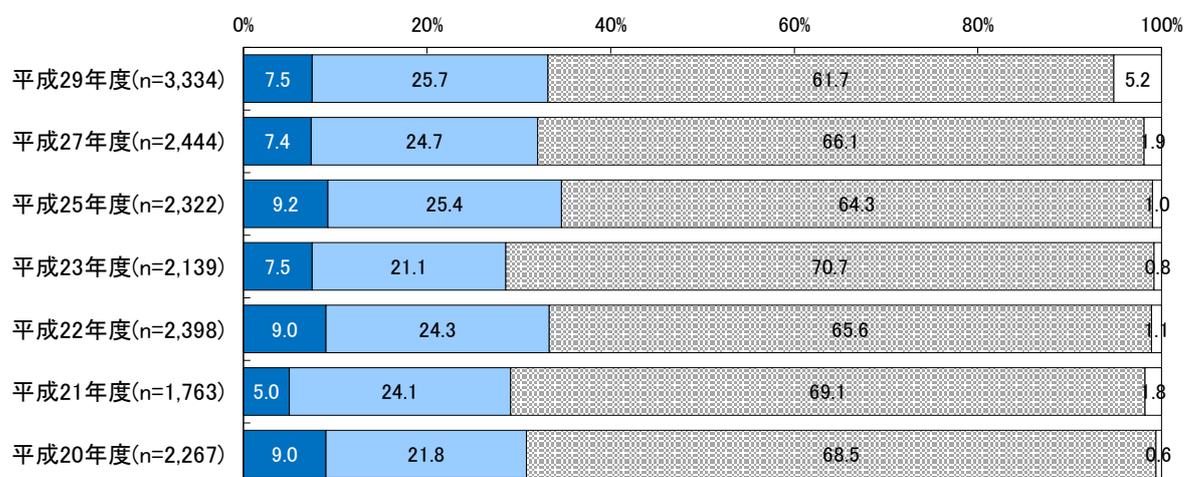
■ 言葉も内容も知っていた
 ■ 言葉は知っていたが、内容は知らなかった
 言葉も内容も知らなかった(今回初めて知った)
 無回答

【「わ食の日」の認知度（就業等状況別）】



■ 言葉も内容も知っていた
 ■ 言葉は知っていたが、内容は知らなかった
 言葉も内容も知らなかった(今回初めて知った)
 無回答

【「わ食の日」の認知度（世帯構成別）】



■ 言葉も内容も知っていた
 ■ 言葉は知っていたが、内容は知らなかった
 言葉も内容も知らなかった(今回初めて知った)
 無回答

【「わ食の日」の認知度（調査年度別）】

4 よくかんで味わって食べることについて

(1) よくかんで味わって食べる食生活の実践度

指 標：よくかんで食べるなど食べ方に配慮する人の割合

目標数値：80%以上

平成 27 年度数値：58.1%

よくかんで味わって食べる食生活の実践度について、「実践している」（「十分にしている」「まあまあしている」の合計）の回答割合は次のとおり。

【全体】 68.3%

【性・年齢別】 男性（63.9%）が女性（72.5%）に比べて低い。男女ともに 15～19 歳が最も高い（男性 88.1%、女性 83.2%）。

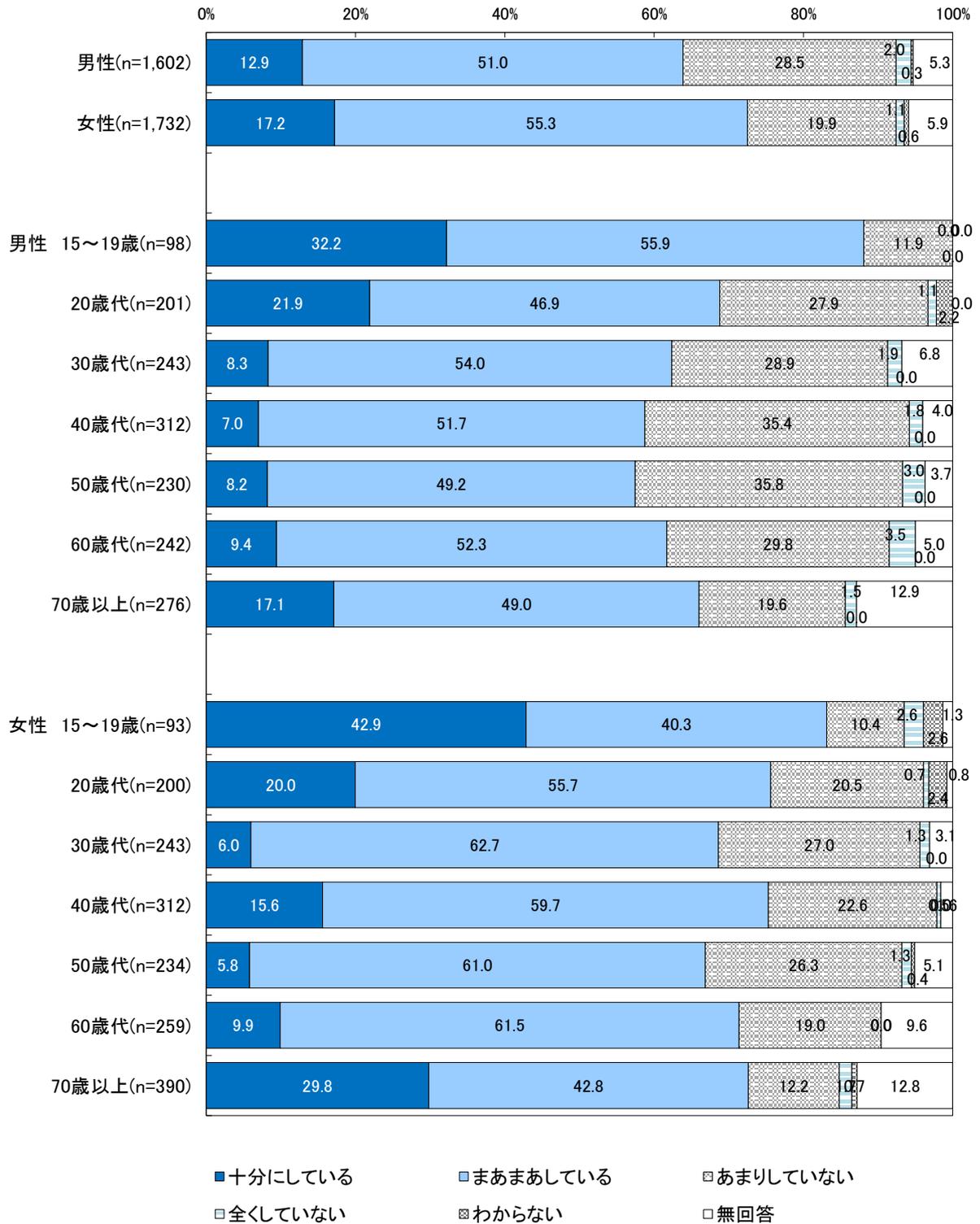
【就業等状況別】 学生（中学生・高校生）（90.5%）が最も高い。

【世帯構成別】 一人暮らし（59.9%）が最も低い。

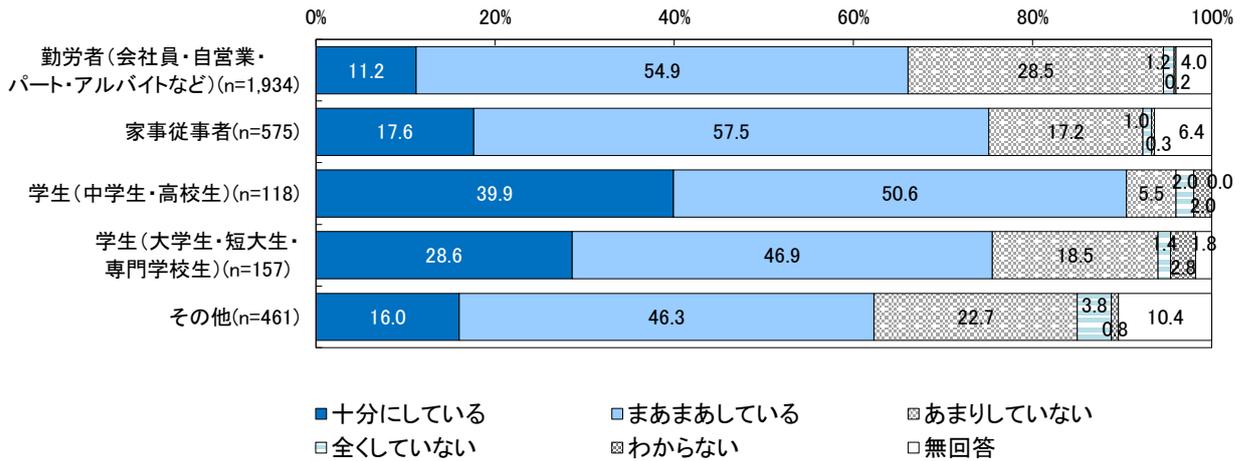
【調査年度別】 今回の調査が最も高い。



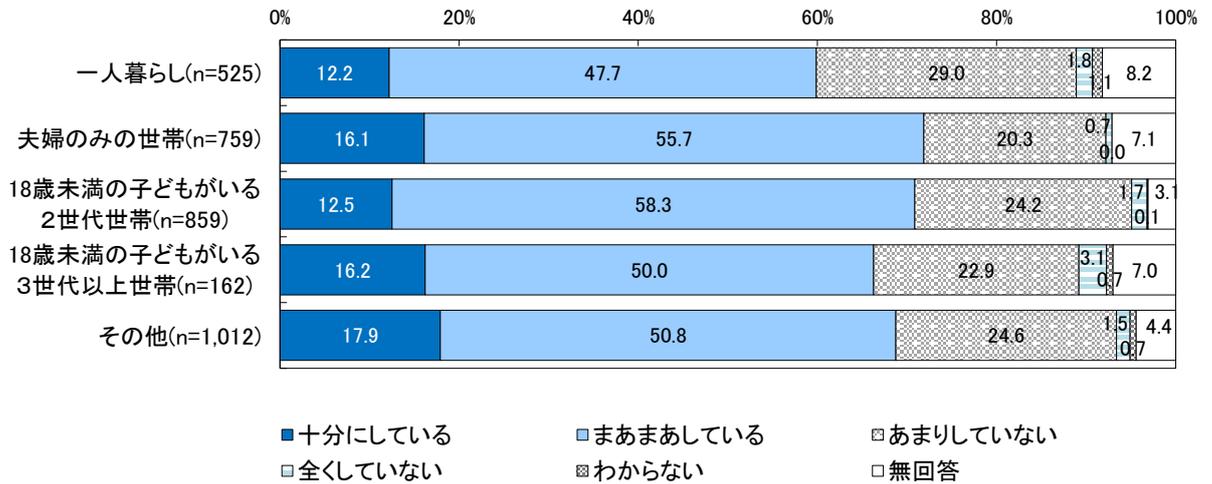
【よくかんで味わって食べる食生活の実践度（全体）】



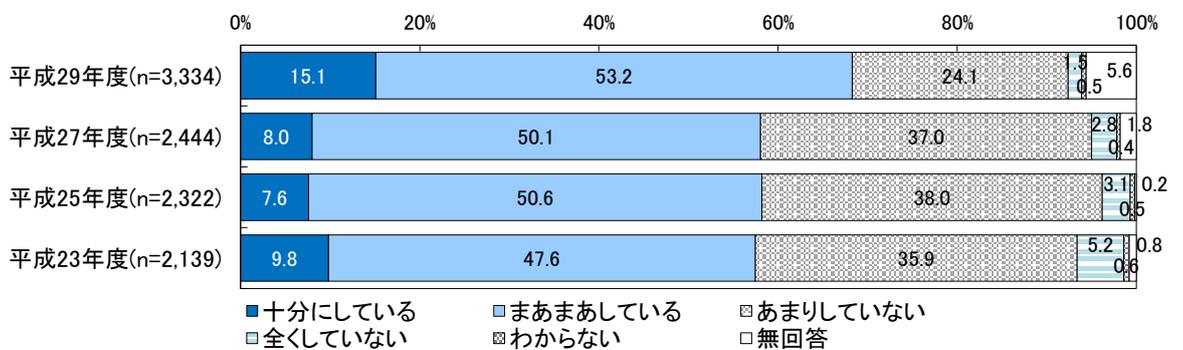
【よくかんで味わって食べる食生活の実践度（性/性・年齢別）】



【よくかんで味わって食べる食生活の実践度（就業等状況別）】



【よくかんで味わって食べる食生活の実践度（世帯構成別）】



【よくかんで味わって食べる食生活の実践度（調査年度別）】

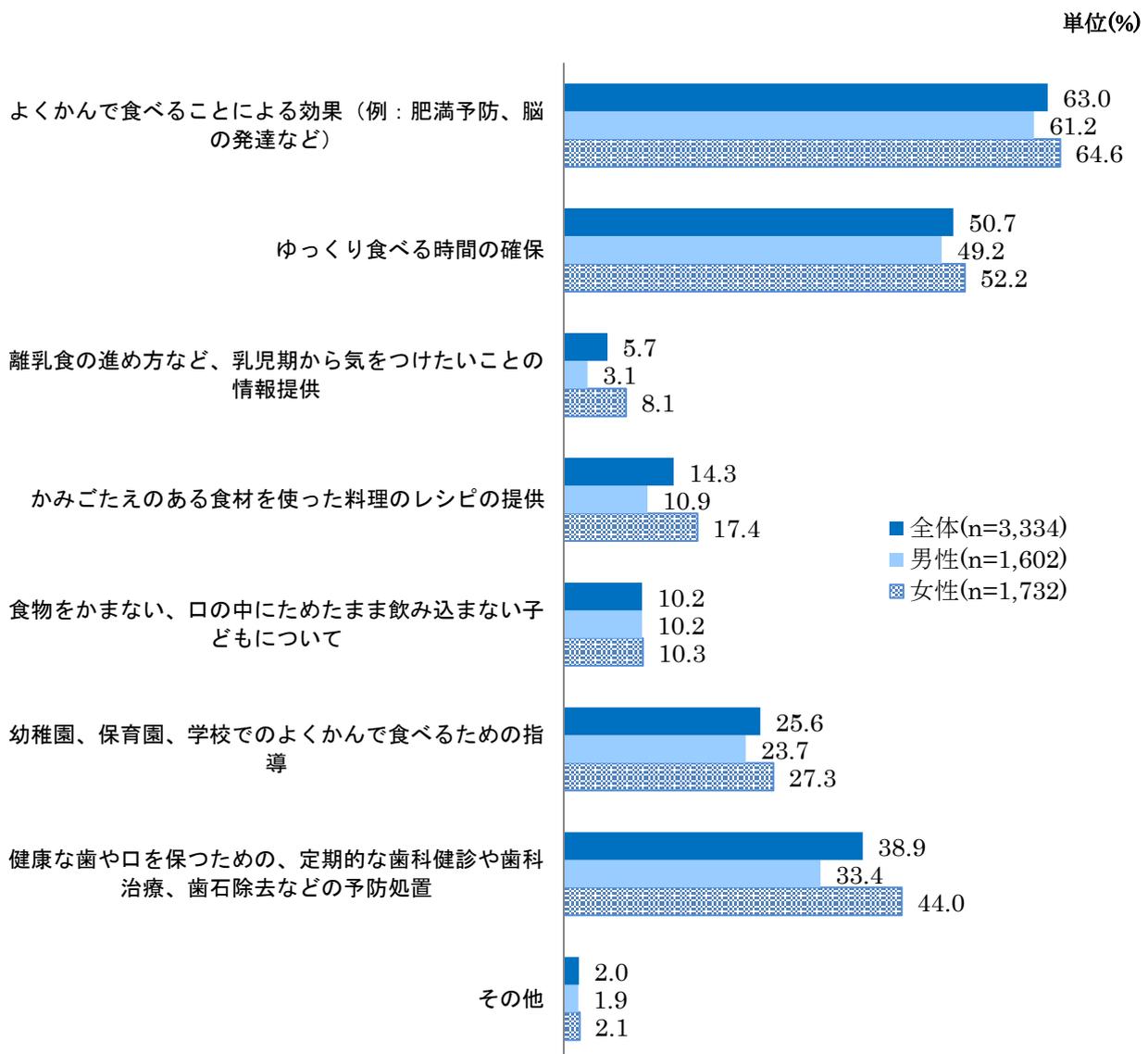
(2) よくかんで味わって食べるために必要だと思うこと

「よくかんで味わって食べるために必要だと思うこと」の回答は次のとおり。

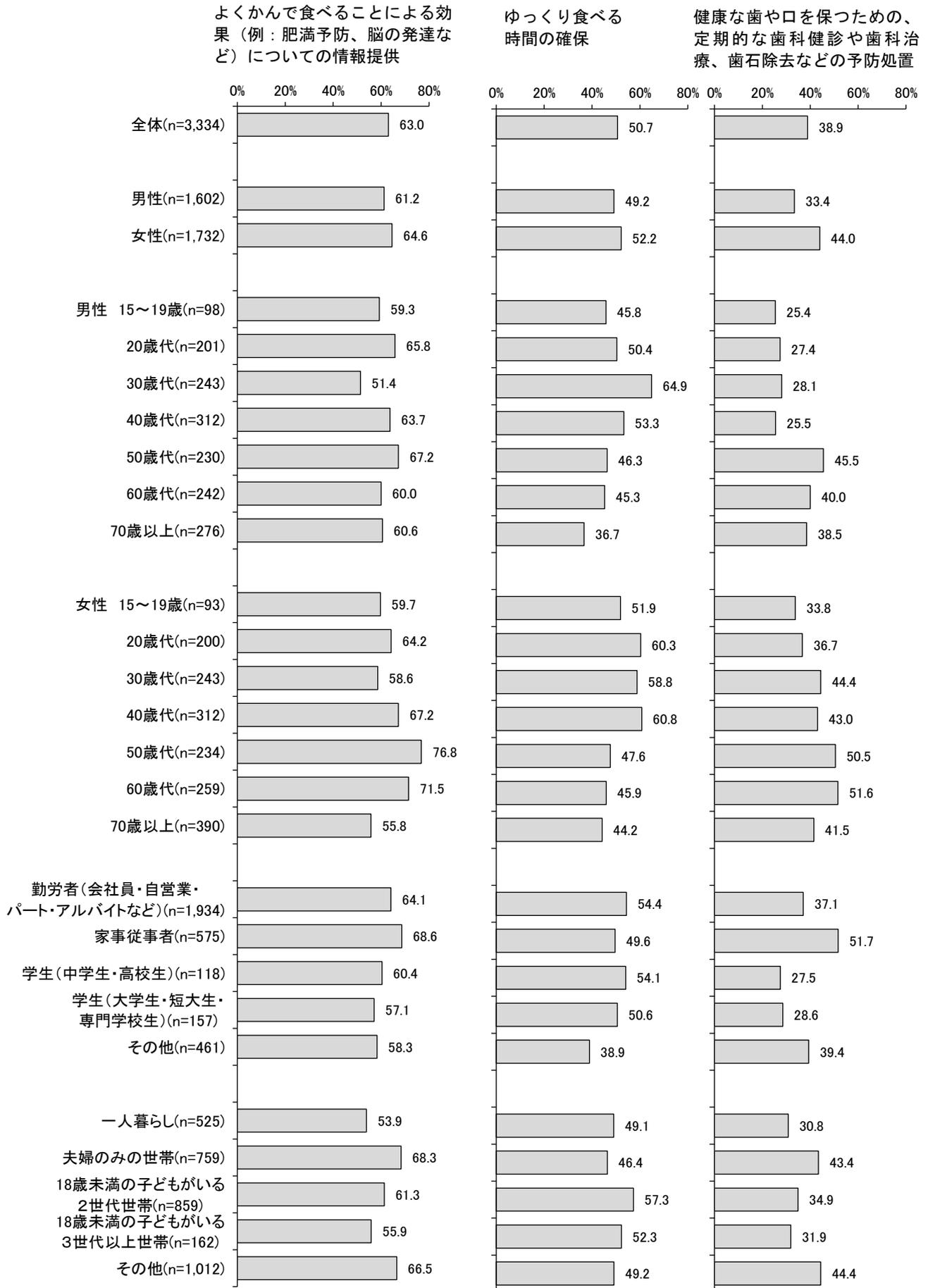
【全体】「よくかんで食べることによる効果についての情報提供」(63.0%)が最も高く、次いで「ゆっくり食べる時間の確保」(50.7%)、「健康な歯や口を保つための定期的な歯科健診や歯科治療、歯石除去などの予防処置」(38.9%)が3割を超えて高い。

【性別】男性はすべての項目において女性に比べて回答割合が低く、特に「健康な歯や口を保つための定期的な歯科健診や歯科治療、歯石除去などの予防処置」は、その差が10.6ポイントと大きい(男性33.4%、女性44.0%)。

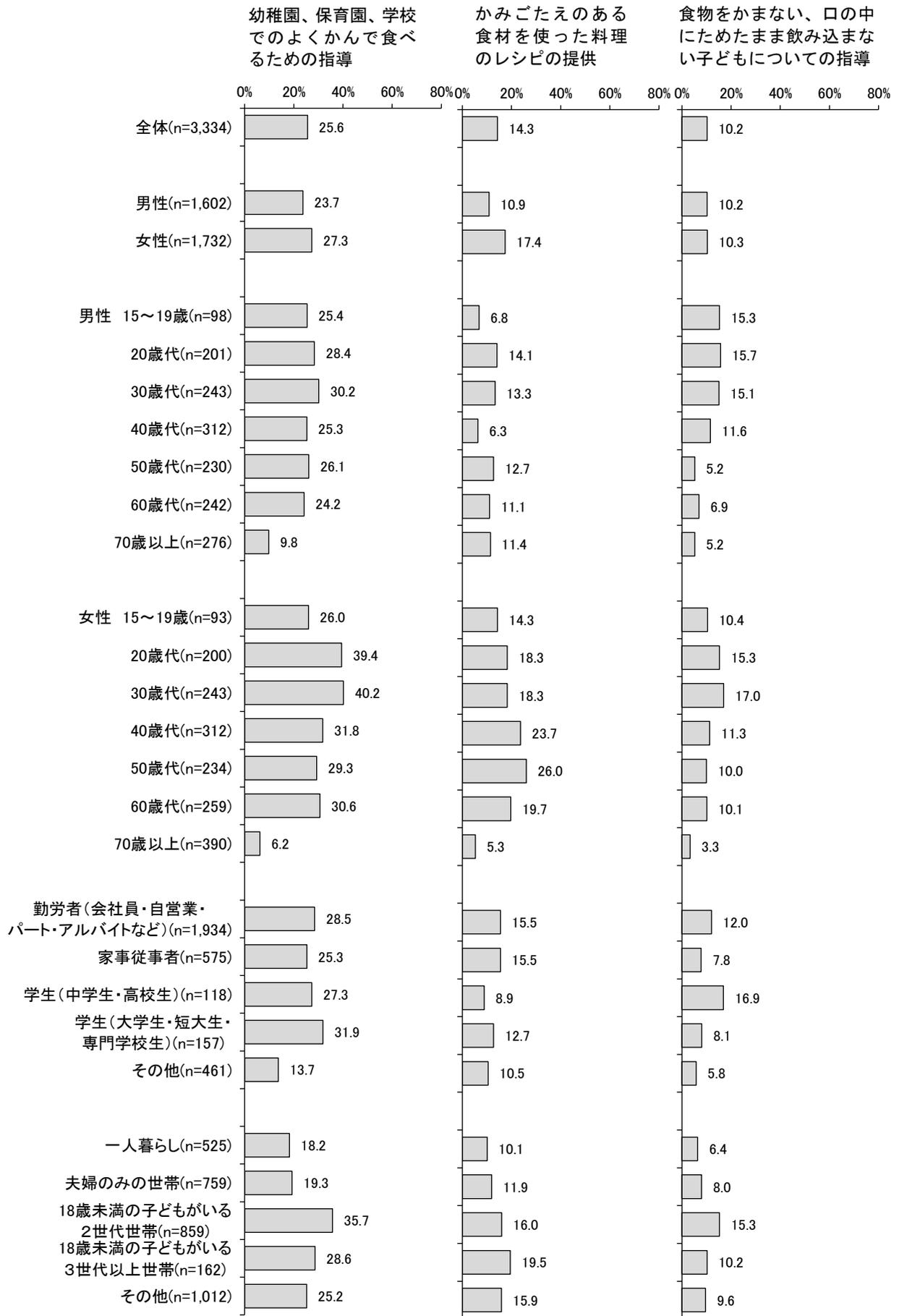
【性・年齢別】20歳～30歳代は、男女ともに子どもへの指導や子どもの食に関する情報提供を必要とする回答割合が高い。「ゆっくり食べる時間の確保」の回答割合は、男女ともに20歳～40歳代で高い。



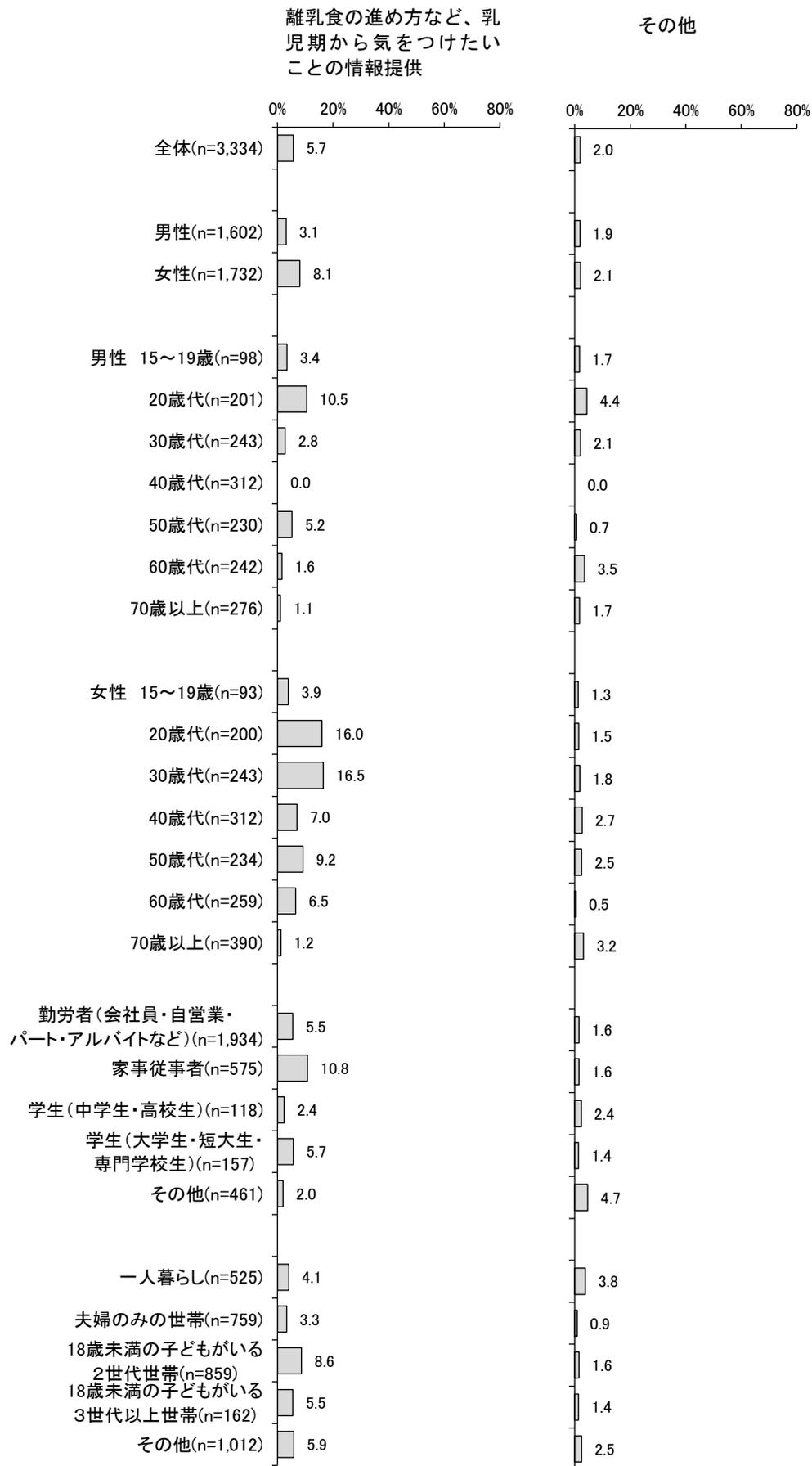
※回答割合の高い内容順に記載



【よくかんで味わって食べるために必要だと思うこと（全体、性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】



【よくかんで味わって食べるために必要だと思うこと（全体、性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】



【よくかんで味わって食べるために必要だと思うこと（全体、性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】

(3) 「噛ミング30運動」の認知度

「噛ミング30運動」の認知度について、「知っていた」（「言葉も内容も知っていた」「言葉は知っていたが、内容は知らなかった」の合計）の回答割合は次のとおり。

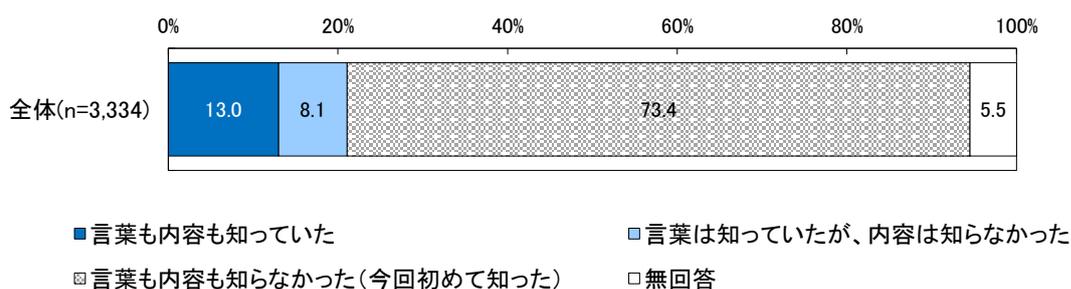
【全体】 21.1%

【性・年齢別】 男性（17.1%）が女性（24.8%）に比べて低い。男女ともに30歳代が最も低く（男性6.6%、女性10.8%）、年齢が上がるにつれて高くなる。

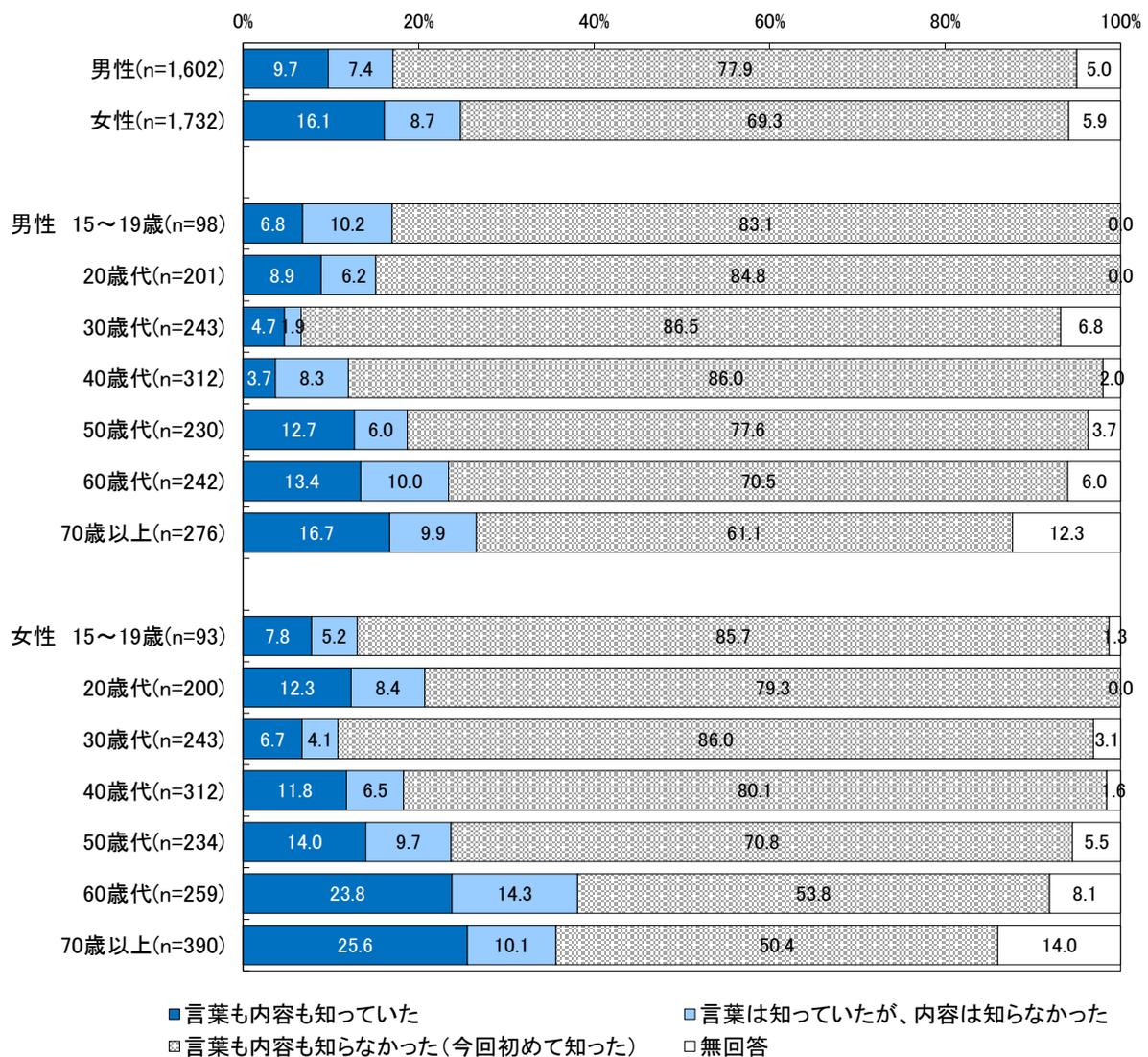
【就業等状況別】 家事従事者（29.2%）が最も高く、学生（大学生・短大生、専門学校生）（10.2%）が最も低い。

【世帯構成別】 18歳未満の子どもがいる二世帯世帯（14.8%）が最も低い。

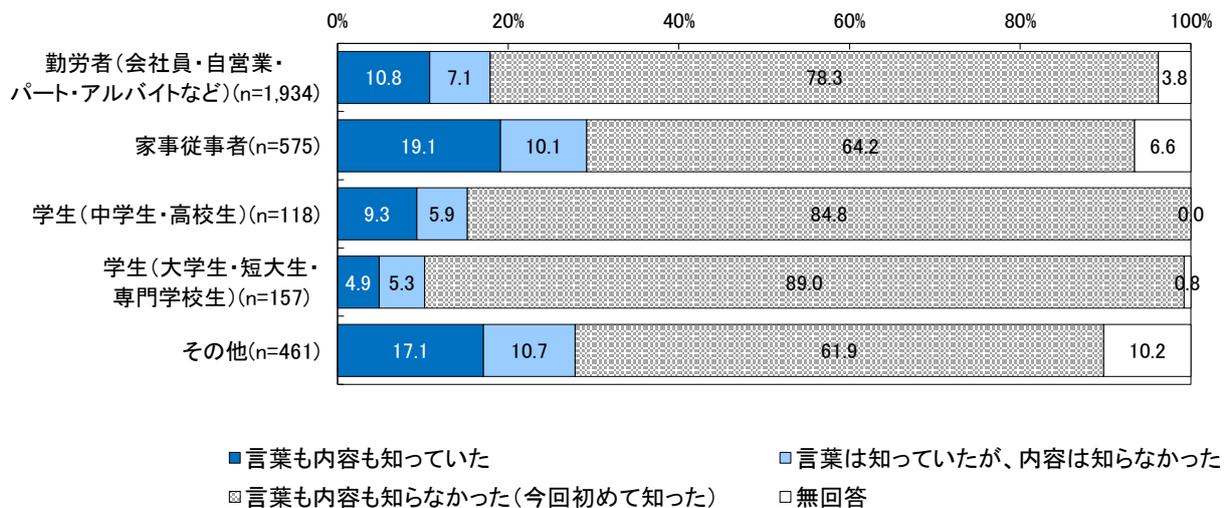
【調査年度別】 今回の調査が最も低い。



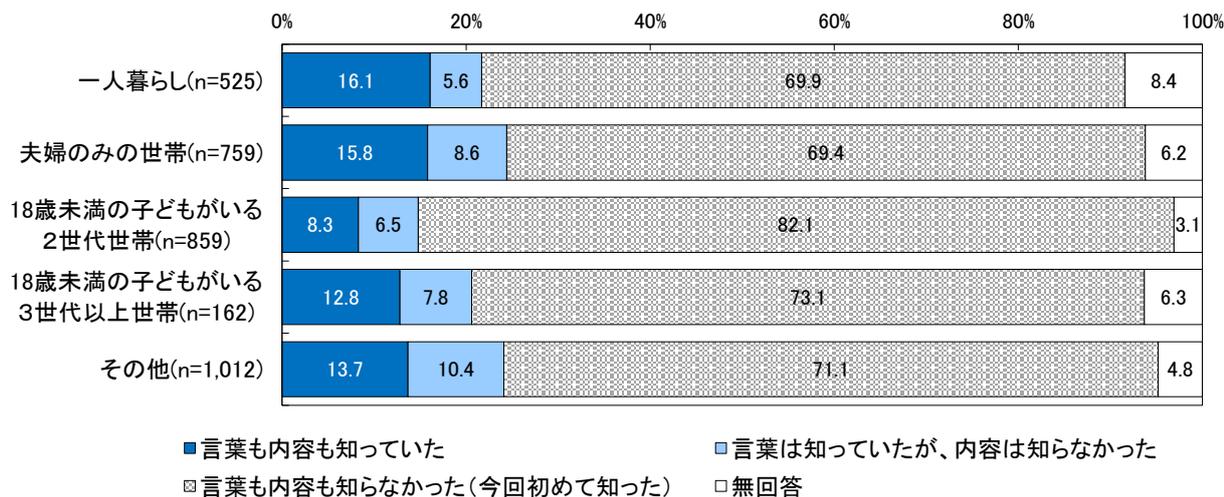
【「噛ミング30運動」の認知度（全体）】



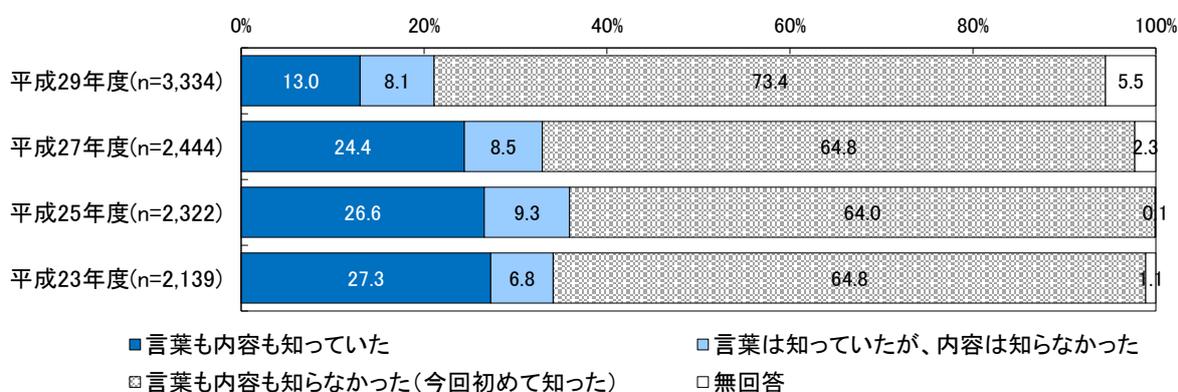
【「嗜ミング30運動」の認知度（性/性・年齢別）】



【「嗜ミング30運動」の認知度（就業等状況別）】



【「噛ミング30運動」の認知度（世帯構成別）】



【「噛ミング30運動」の認知度（調査年度別）】

5 健全な食生活の実践について

(1) 「健全な食生活」の実践度

指 標：健全な食生活を実践している市民の割合
 目標数値：80%以上
 平成27年度数値：66.2%

「健全な食生活」を「実践できていると思う」（「十分に実践できていると思う」「まあまあ実践できていると思う」の合計）の回答割合は次のとおり。

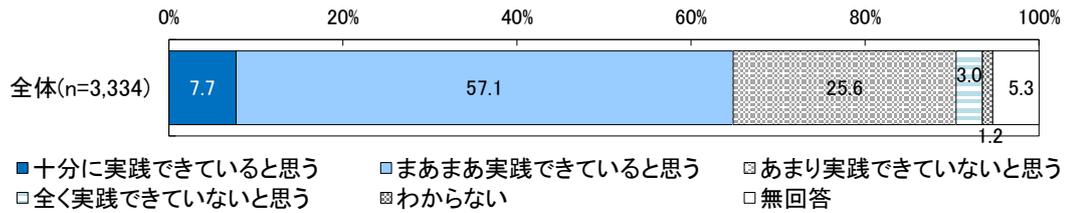
【全体】64.8%

【性・年齢別】男性（62.5%）が女性（67.0%）に比べて低い。男性は30歳代（51.9%）、女性は20歳代（58.3%）が最も低い。

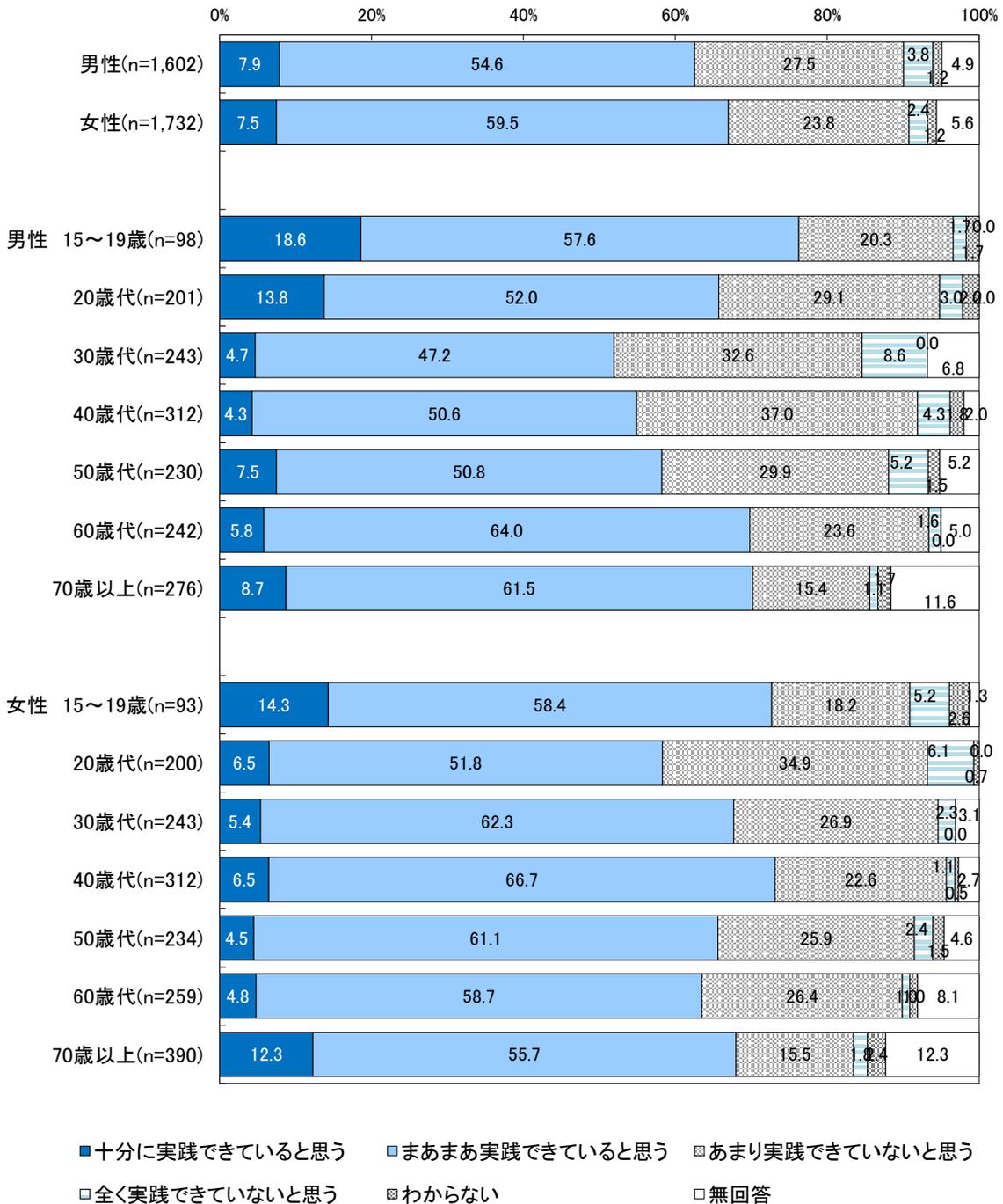
【就業等状況別】学生（中学生・高校生）（81.8%）が最も高く、学生（大学生・短大生・専門学校生）（60.9%）が低い。

【世帯構成別】一人暮らし（38.9%）が最も低く、他の世帯区分との差が大きい。

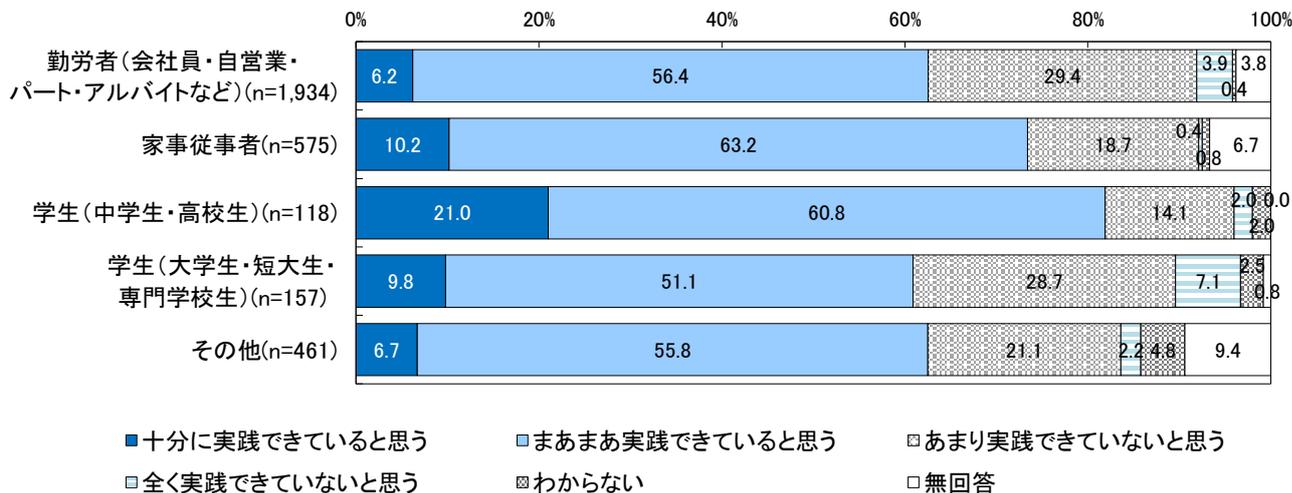
【調査年度別】変化はみられない。



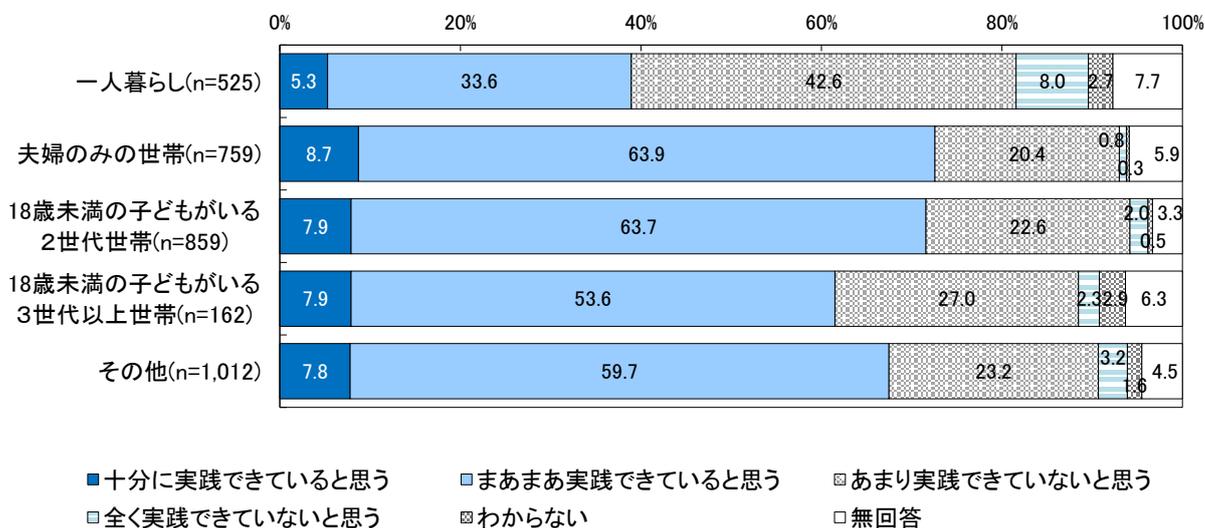
【「健全な食生活」の実践度（全体）】



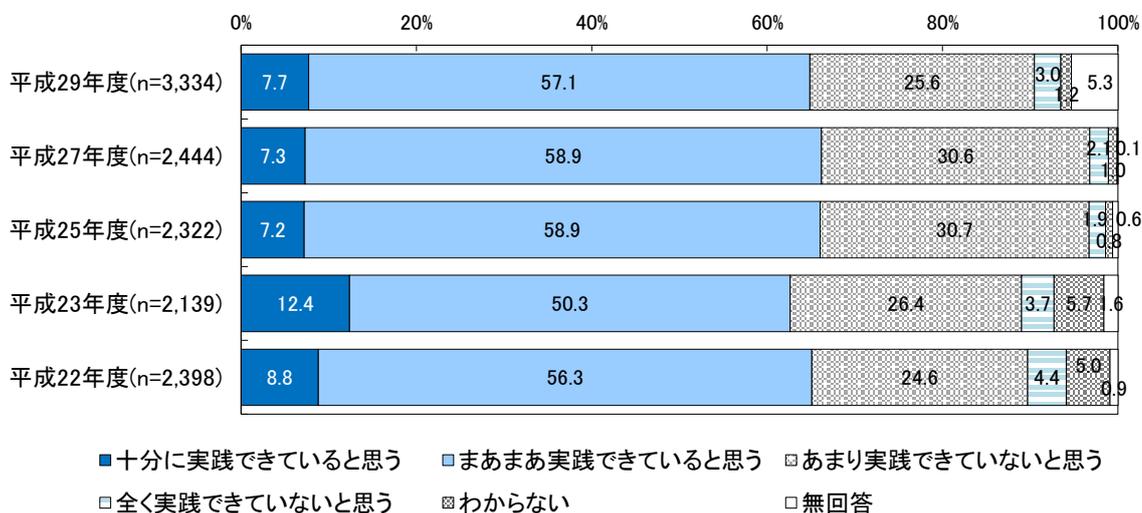
【「健全な食生活」の実践度（性/性・年齢別）】



【「健全な食生活」の実践度（就業等状況別）】



【「健全な食生活」の実践度（世帯構成別）】



【「健全な食生活」の実践度（調査年度別）】

(2) ふだんの食生活で心がけていること

ふだんの食生活で心がけていることの回答は次のとおり。

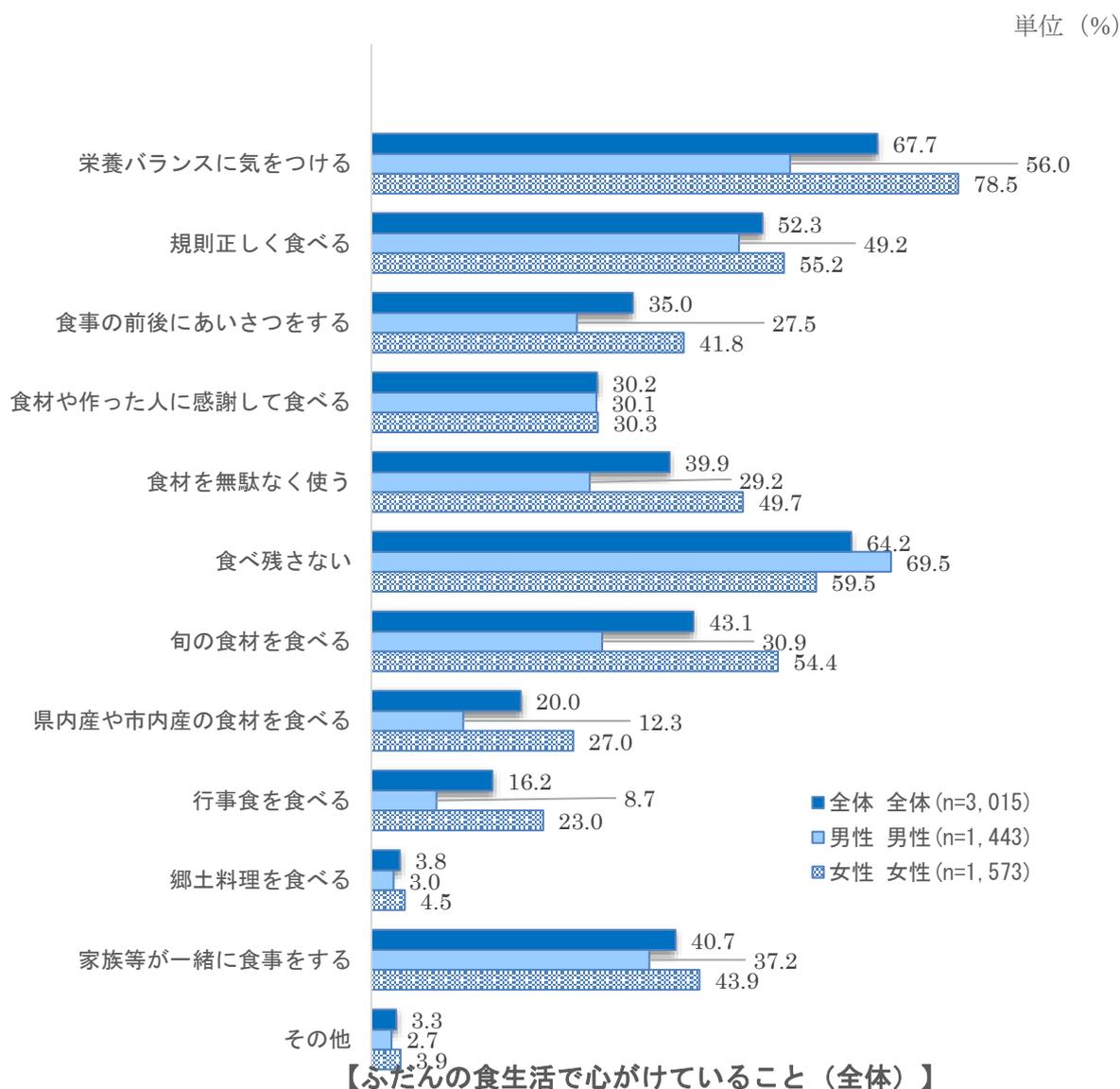
【全体】「栄養バランスに気をつける」が67.7%と最も高い。次いで「食べ残さない」64.2%、「規則正しく食べる」52.3%が5割を超える

【性別】「食べ残さないこと」以外は、男性が女性より回答割合が低い。男女間の差が2桁を超えるのは、「栄養バランスに気をつけて食べる」(22.5ポイント)、「旬の食材を食べる」(23.5ポイント)、「食材を無駄なく使う」(20.5ポイント)、食事の前後にあいさつをする」(14.3ポイント)、「県内産や市内産の食材を食べる」(14.7ポイント)である。

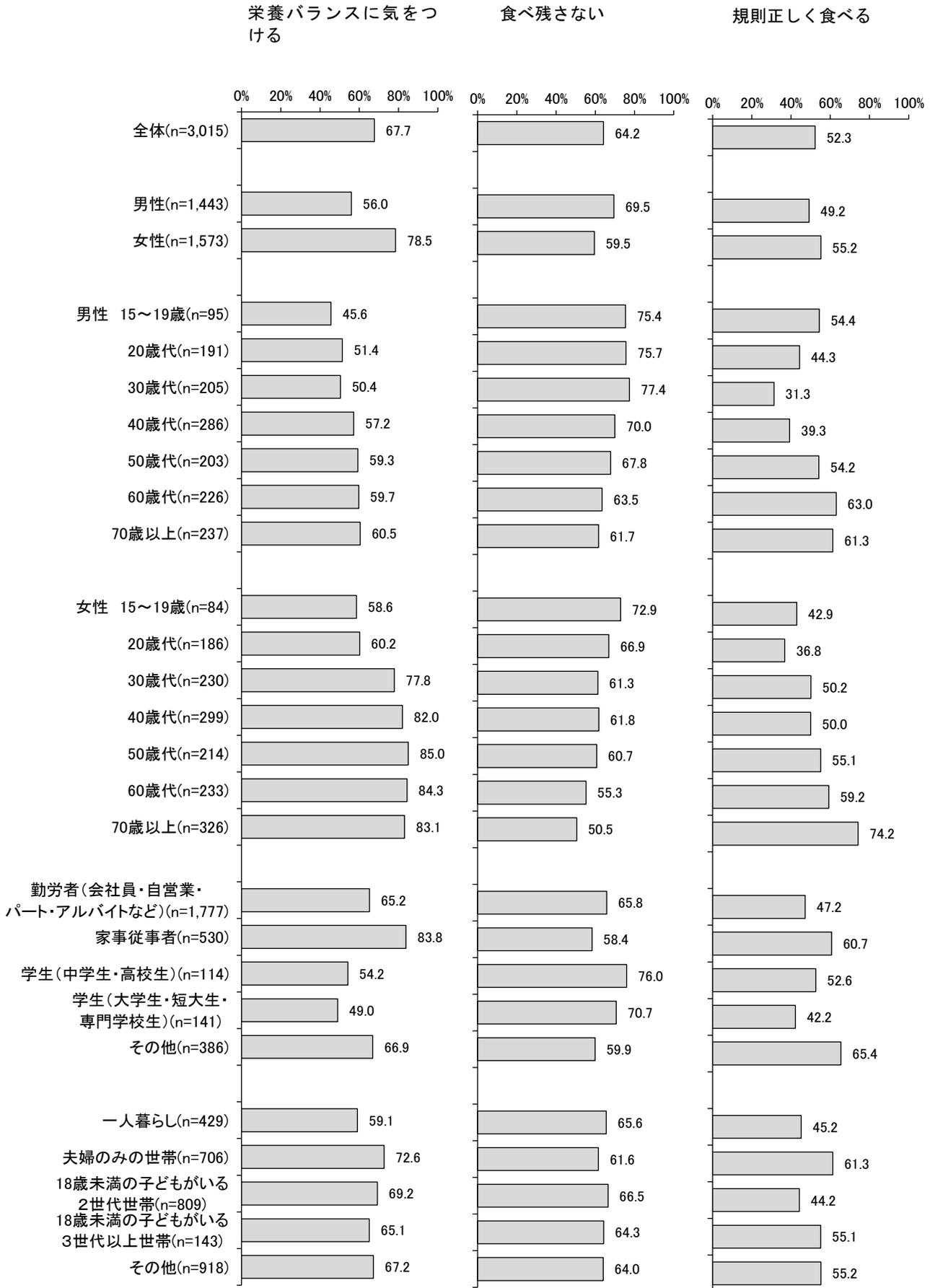
【性・年齢別】「家族等と一緒に食事をする」は、男性は40歳代以降増加し、女性は40歳代以降減少する。

【就業等状況別】家事従事者の回答割合が多く項目で高い。

【世帯構成別】18歳未満の子どもがいる二世帯世帯、18歳未満の子どもがいる三世帯以上世帯では、「家族等と一緒に食事をする」(全体40.7%、前者57.1%、後者61.2%)、「食事の前後にあいさつをする」(全体35.0%、前者46.5%、後者48.0%)の回答割合が高い



※回答割合が高い内容順に記載

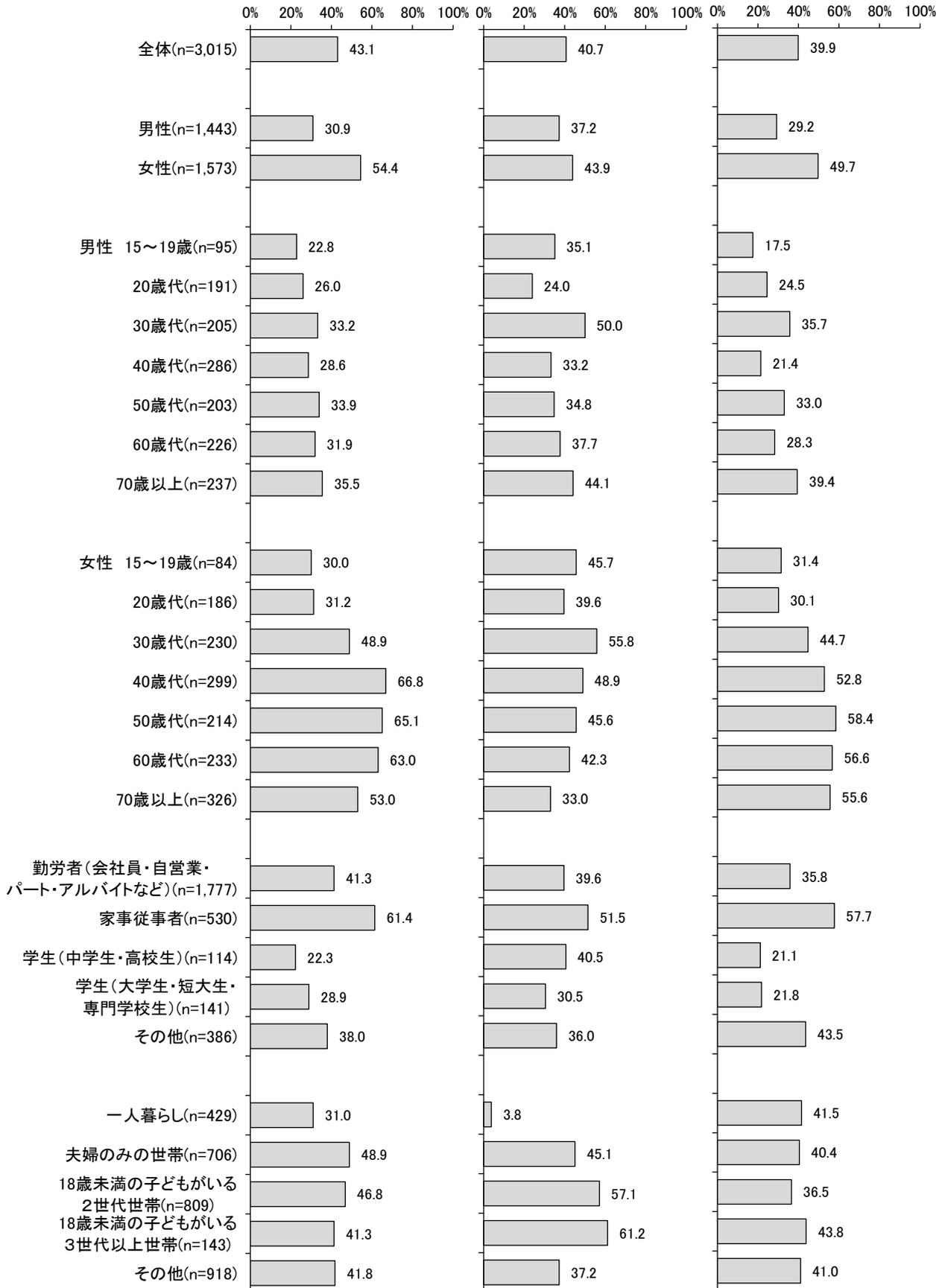


【ふだんの食生活で心がけていること（全体、性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】

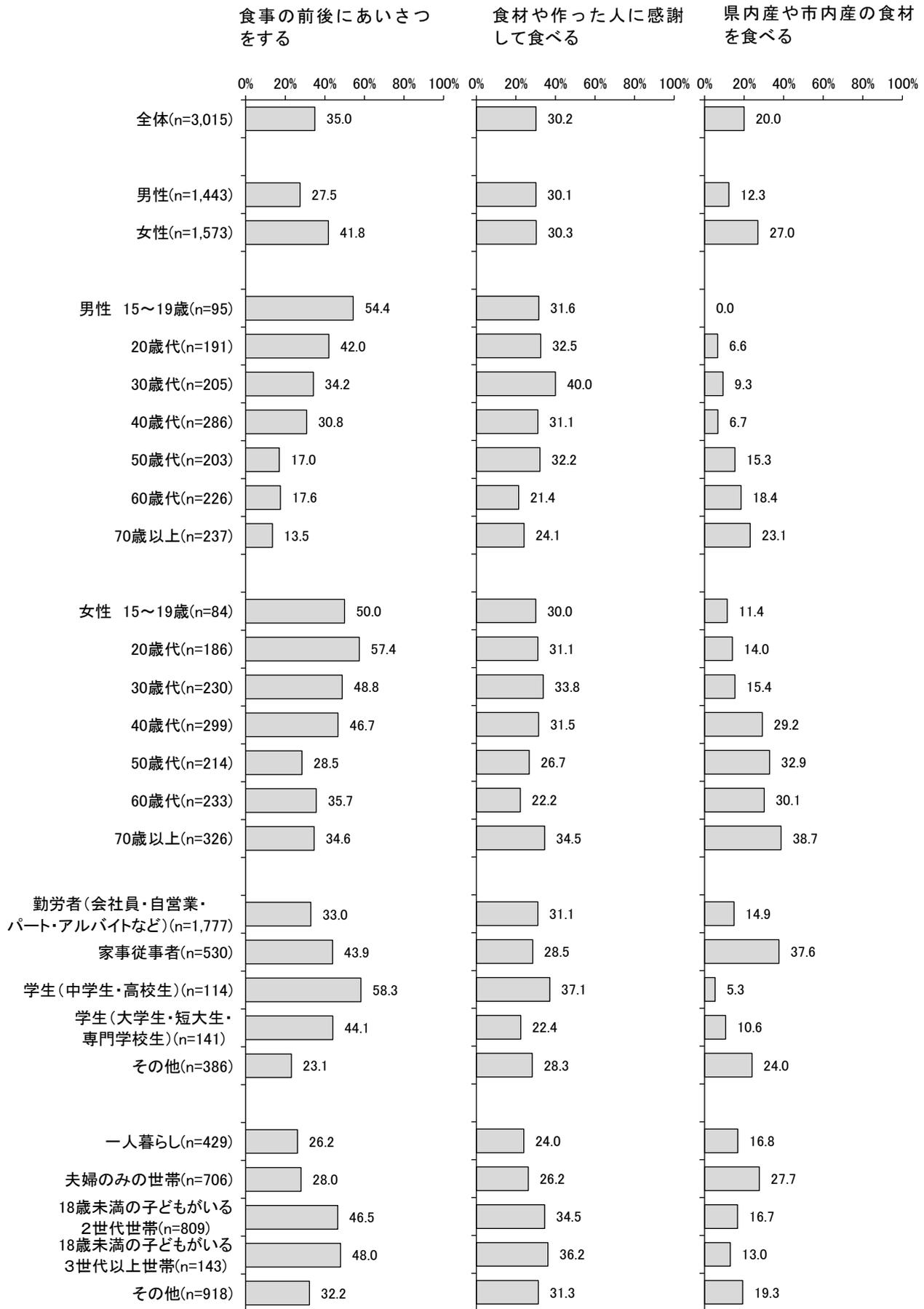
旬の食材を食べる

家族等と一緒に食事をする

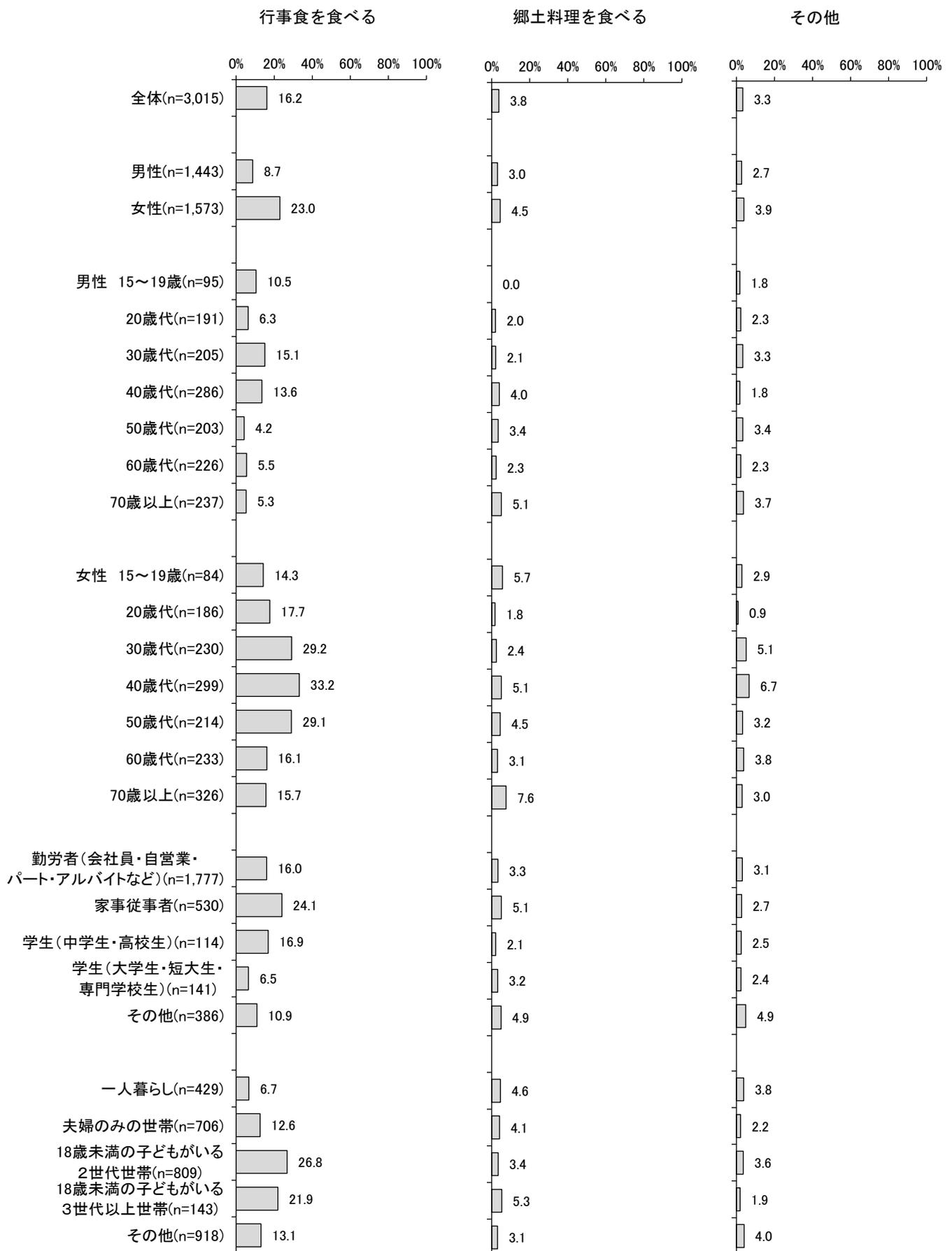
食材を無駄なく使う



【ふだんの食生活で心がけていること (全体、性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別)】



【ふだんの食生活で心がけていること（全体、性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】



【ふだんの食生活で心がけていること（全体、性/性・年齢/就業等状況/世帯構成別）】